

令和 2 年度 官民の多様な被災者支援主体間の連携促進のための中核（コーディネート）人材育成研修会 実施報告

1. 実施概要

目的

各都道府県において、行政・ボランティア・NPO 等被災者支援団体間の連携・協働が促進されるよう、行政内部の関係部局間の連携及び行政と社協・NPO 等の他団体との連携をコーディネートできる人材を育成する。

日程

開催は、すべての回を「オンライン開催」とし、開催時間は「13 時～17 時 30 分」にて行った。

回	日付	テーマ
第 1 回	11 月 6 日 (金)	被災者支援の全体像と被災者支援主体の連携・協働の必要性を理解する
第 2 回	11 月 30 日 (月)	被災者支援主体の連携・協働のための方法を学ぶ
第 3 回	1 月 20 日 (水)	フェーズごとの被災者支援のための連携・調整
第 4 回	2 月 15 日 (月)	都道府県域における多様な被災者支援主体のネットワークづくり・連携体制強化

参加者概要

① 参加都府県

参加都府県 : 計 30 都府県
内訳

青森県	岩手県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県
千葉県	東京都	神奈川県	石川県	福井県	三重県
滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
鳥取県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県
高知県	佐賀県	長崎県	熊本県	宮崎県	沖縄県

② 参加者

参加者数 : 222 名

内訳 : 行政 101 名、社会福祉協議会 62 名、NPO・その他 61 名

都府県・市町村別 : 都府県 70 件、市町村 31 件

行政/所属別 : 危機管理部局 27 件、保健福祉部局 27 件、県民協働部局他 47 件

社会福祉協議会/所属別 : 都府県 46 件、市町村 16 件

各回プログラム概要

第1回：被災者支援の全体像と被災者支援主体の連携・協働の必要性を理解する

	テーマ	内容	講師
講義1	行政と民間支援主体との連携	多様な被災者支援主体の連携の必要性、効果や意義などを学ぶ。	中尾氏（内閣府（防災担当）普及・啓発連携担当参事官）
講義2	行政による被災者支援の全体像	災害対応の業務フローと災害ボランティア活動との関係性を学ぶ。 （被害状況・被災状況の把握、応急修理、避難所の開設・運営、災害廃棄物の処理、応急仮設住宅での支援等）	阪本真由美氏（兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 教授）
講義3	民間支援団体による被災者支援の全体像	災害 VC および中間支援組織（JVOAD 等）などの役割や特徴、課題など紹介する。また、NPO、ボランティア団体、企業、専門組織などの活動や特性を学ぶ。	栗田暢之氏（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）代表理事） 明城徹也氏（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）事務局長）

第2回・事前配信

	テーマ	内容	講師
事前動画1	災害時の情報共有会議	実施内容と成果の事例を学ぶ（行政の会議への関わり方、参加することの必要性など）	明城徹也氏（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）事務局長）
事前動画2	行政と民間団体の連携の実例	災害時において行政内部の調整について具体的な事例を学ぶ（情報共有会議への関係部署の参加調整、OneNagano オペレーション事例など、被災者支援主体間の調整に関する事例を含む）	古越武彦氏（長野県 危機管理部 危機管理防災課 防災係 課長補佐兼防災係長） 山崎博之氏（社会福祉法人長野県社会福祉協議会 総務企画部企画グループ 主任） 山室秀俊氏（特定非営利活動法人長野県 NPO センター 事務局長）

第2回：平時からの被災者支援主体の連携・協働のための手法を学ぶ

	テーマ	内容	講師
動画紹介	オペレーション ONE NAGANO の 証言	事前収録したオペレーション ONE NAGANO の証言動画を紹 介 古越武彦氏（長野県 危機管理部 危機管理防災課 防災係 課長補佐 兼防災係長） 山崎博之氏（社会福祉法人長野県 社会福祉協議会 総務企画部企画 グループ主任） 山室秀俊氏（特定非営利活動法人 長野県NPOセンター 事務局長） 石垣和子氏（元 内閣府（防災担 当） 普及啓発・連携担当企画官） 前原土武氏（災害 NGO 結代表） 中谷隆秀氏（長野県生活協同組合 連合会 事務局長）	進行： 明城徹也氏（全国災害ボ ランティア支援団体ネッ トワーク（JVOAD）事務 局長）
演習	情報共有会議の企 画運営	予習で配信した講義内容（事前講 義③）を参考に、各都府県で実施 する情報共有会議の枠組みに関す る検討、課題をもとに対応を検討 する演習を行う。	進行： 杉村郁雄氏（日本ファシ リテーション協会災害復 興委員会） 解説： 明城徹也氏（全国災害ボ ランティア支援団体ネッ トワーク（JVOAD）事 務局長）

第3回・事前配信

	テーマ	内容	講師
事例紹介	行政間（都道府県と市町村間）の調整事例	熊本地震における地域支え合いセンター事業の検討、市町村での展開における行政間の調整事例および民間支援団体の関わりに関する事例紹介	木村忠治氏（元・熊本県健康福祉部 健康福祉政策課 福祉のまちづくり室 室長） 樋口務氏（特定非営利活動法人くまもと災害ボランティア団体ネットワーク（KVOAD）代表理事） 桂誠一氏（熊本県社会福祉協議会 ボランティアセンター所長（当時））

第3回：フェーズごとの被災者支援のための連携・調整

	テーマ	内容	講師
話題提供	被災者の困りごとの変化とその対応	復興期における被災者の困りごとの変化と、基本的なすまい（応急仮設住宅等）の制度、被災者支援制度（被災者生活再建支援制度、地域支え合いセンター等）と、復興期における民間支援団体の支援を理解する機会とする ① 被災者支援に関する基本的な制度（住まいの制度を含む） ② 地域支え合いセンターの取組 ③ 益城町支え合いセンターみなし仮設部門の事業	諸留逸氏（内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当）付参事官補佐） 池尻憲二氏（熊本県社会福祉協議会 地域福祉部 地域福祉課） 高木聡史氏（一般社団法人 minori 代表理事） 聞き手：明城徹也氏（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）事務局長）
演習	被災者支援のケース検討	応急仮設住宅の入居者支援について、状況付与にあわせて具体的な対応を各都府県で検討する演習を行う。それぞれについて具体的な対応事例や解説を行う。状況付与は、第2回演習で実施したシナリオをもとに作成する	日本ファシリテーション協会災害復興委員会 栗田暢之氏（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）代表理事） 高橋良太氏（全国社会福祉協議会地域福祉部長） 菅磨志保氏（関西大学社会安全学部准教授）

第4回・事前配信

	テーマ	内容	講師
事例紹介	平時からの取組事例	災害時に円滑な連携ができるよう、平時における連携体制の構築、その手法について学ぶ（多様な主体が連携して企画する研修や訓練、勉強会などの事例、ネットワークづくりや役割分担の事例、実務担当者の果たした役割などを学ぶ）	清水滋子氏（特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会） 石原達也氏（岡山NPOセンター 代表理事）

第4回：都道府県域における多様な被災者支援主体のネットワークづくり・連携体制強化

	テーマ	内容	講師
話題提供	多様な被災者支援主体、それぞれの強みと特徴	企業、生協、士業それぞれの担い手が被災者支援活動に関わっており、県域の連携体制にも関わっている例について情報提供を行う。 それぞれの担い手のこれまでの被災者支援の実績、強みや特徴について理解し、連携強化につなげていく。	長澤恵美子氏（一般社団法人日本経済団体連合会 SDGs 本部統括主幹） 前田昌宏氏（日本生活協同組合連合会 組織推進本部 社会・地域活動推進部サステナビリティ推進グループ 地域・コミュニティ担当） 津久井進氏（日本弁護士連合会 災害復興委員会） 聞き手： 栗田暢之氏（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）代表理事）
意見交換	官民連携・体制のさらなる強化	グループに別れて、それぞれ都道府県における官民連携の課題と対応策を共有する。 別のグループにわかれて、助言者から具体的な対応に対する助言を得られる機会を設ける	日本ファシリテーション協会災害復興委員会

2-1. 令和2年度 官民の多様な被災者支援主体間の連携促進のための 中核（コーディネート）人材育成研修会 第1回プログラム

(1) 概要

- ・日時：令和2年11月6日（金）13：00～17：30
- ・オンライン（Zoom）
- ・主催：内閣府（防災）

1. 開会（13：00～13：20）

挨拶：中尾晃史氏（内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当））
第1回研修オリエンテーション

2. 講義1：行政と民間支援主体との連携の必要性について（13：20～13：40）

講師：中尾晃史氏（内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当））
休憩（13：40～13：50）

3. 講義2：行政による被災者支援の全体像（13：50～14：30）

講師：阪本真由美氏（兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 教授）
休憩（14：30～14：40）

4. 意見交換1（14：40～15：20）

進行：杉村郁雄氏（日本ファシリテーション協会災害復興委員会）
休憩（15：20～15：30）

5. 講義3：民間支援団体による被災者支援の全体像（15：30～16：10）

講師：栗田暢之氏（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）代表理事）
明城徹也氏（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）事務局長）
休憩（16：10～16：20）

6. 意見交換2（16：20～17：00）

進行：杉村郁雄氏（日本ファシリテーション協会災害復興委員会）
休憩（17：00～17：10）

7. 閉会（17：10～17：30）

第2回研修オリエンテーション
挨拶：諸留逸氏（内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当）付参事官補佐）

2-2. 有識者等コメント

(1) ワークショップ中間まとめ

兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 教授 阪本氏

- ・ 報告いただいた事例は、一步先に進んでいる印象があった。
- ・ 関係している団体について「普段は他に何をしているか知らない」という意見がある。知っていくことは必要。
- ・ 対応を考える上では、「支援が行き届かない」と想定した訓練が有効。例えば、在宅避難者への対応を考える訓練など。課題は明確であるため、解決策をどうするかという訓練が良い。
- ・ 庁舎内、県と市町村の連携が難しいという意見があった。災害に「待った」はない。豪雨災害だけでなく、豪雪災害、地震災害も起こりうる。備えて訓練に取り組んでいただきたい。

内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当）中尾氏

- ・ 三者協定について、内閣府では、「キレイに3者」という形は、「2者間と2者間を合わせて3者」というところはあるかと思われる。
- ・ 庁内連携、行政間連携の方が難しいという声があった。
- ・ 昨年度の長野県の「OneNagano」の取組の紹介があった。長野市で行われた取組みで、県・長野市・自衛隊と一緒に、「災害ごみ」を出していくことを行った。
- ・ 難しかったのは、行政間連携。長野市は、県庁所在地であったので、円滑だったところもあったが、他市では違う対応だったかもしれない。
- ・ 庁内の他部署との連携も大事。熊本地震を経験された熊本県では、「KVOAD」という中間支援組織があり活動が活発な地域。
- ・ 豪雨被害で大きな被害を受けて、コロナ禍での災害ボランティア活動が大変な場面があり、連携が難しかったところも見られた。例えば、従来はボランティアが家屋内の作業を担っていたが、県外からの来県ができなく、それができなかった。
- ・ 県庁内の土木部局、環境部局、ボランティア担当の部局の情報共有・連携が難しくなっていた。
- ・ 今日参加の皆さまは、情報のハブになっていただき、庁内・市町村間ということを意識していただきたい。この研修のタイトルは「中核人材」としたのもそうした意図である。

(2) コメント②：ワークショップ後

兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 教授 阪本氏

- ・ 実践的な取組が何よりも重要。まだ取り組められていないところは、是非実践的な取組をやっていただきたい。
- ・ 行政の方でリエゾンを配置するが、リエゾンは全庁を代表している位置づけで、情報共有会議の内容を、どう自分たちの行政機関で反映するかについていつも悩んでいる。
- ・ 平時より、リエゾンの持ち帰った情報をどう活用するのかについて検討する体制をつくるのが大切。

内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当）中尾氏

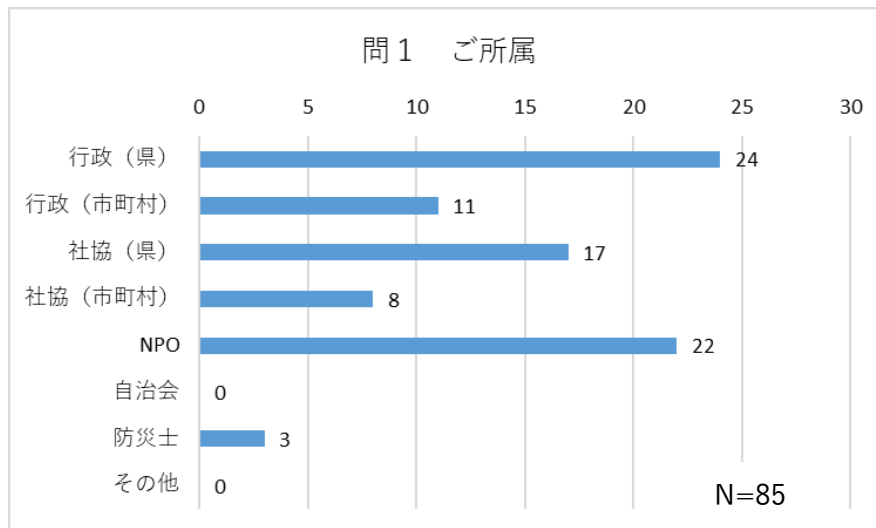
- ・ 情報共有会議で検討されたことを、持ちかえって庁内で調整していくが、実施するにはなかなか難しく、今後の課題。
- ・ 次回、第2回目は情報共有会議をはじめ連携方法について研修を行う。一部自治体では実施されているが、災害対策本部内あるいは県庁内に作業スペースを設けて、社会福祉協議会や中間支援組織、県域組織だけでなく JVOAD のような組織が、県庁内の作業スペースに入り、そして県庁内の部局が共同で事務を担うことになると思うが、ボランティア、NPO、リエゾンの方も入ってきていただくのは、災害対策として効果的で重要なこと。
- ・ 長野の例でもあったが、そこにいたからこそと思われるような、情報共有を行った上で次のアクションに移りやすかった。
- ・ 結局は、持ち帰ったあと、部局の調整や対応をしなければならぬため、話しを進めやすくすることが大事だ。

以上

2-3. 第1回アンケート結果

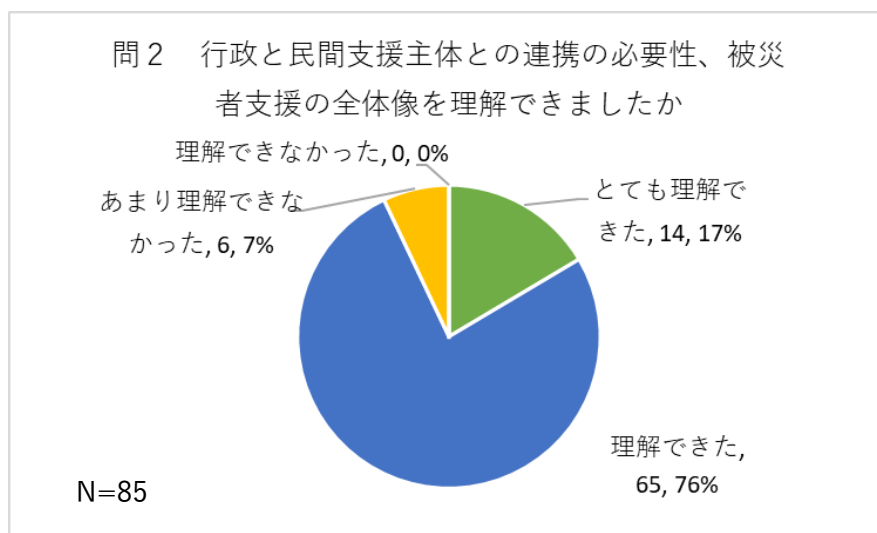
開催日 : 令和2年11月6日(金) 13時~17時30分
 開催方法 : オンライン (Zoom)
 対象者数 : 210件
 回答数 : 85件 (回収率 40%)

問1 ご自身のご所属についてお聞かせください。



所属	件数
行政(県)	24
行政(市町村)	11
社協(県)	17
社協(市町村)	8
NPO	22
自治会	0
防災士	3
その他	0

問2 講義「行政と民間支援主体との連携の必要性」「被災者支援の全体像」を理解できましたか。



内容	件数	%
とても理解できた	14	17
理解できた	65	76
あまり理解できなかった	6	7
理解できなかった	0	0

理由

●とても理解できた

- ・ ボランティアが担い手として期待される範囲が広がっていること、またそれに伴い連携が重要になっていることが分かった。
- ・ 昨年度開催された同趣旨の研修にも参加、あわせて全国の中間支援組織等の会議でのテーマにもなっていて、重ねての理解、確認の機会になった。
- ・ 災害時に様々なニーズが発生していく中で、きめ細かい支援が可能となる中間支援組織の重要性が理解できた。
- ・ 坂本先生の資料はわかりやすく、説明もよかった。
- ・ 坂本先生の、行政職員向けに話された内容で、行政の災対対応の全体像について更に理解が進んだので。
- ・ 災害時にうまく連携するには平時での取組が必要だと改めて考えさせられたため。

●理解できた

- ・ 3者協定など仕組みの全体像を理解できました。
- ・ 全社協から情報提供のあった内閣府との取り組みについて、改めてその意図や目的を確認できる講義内容であったため。
- ・ 行政と民間支援主体との連携の必要性については、大規模災害の場合、自治体単独での対応は困難であり、官民連携体制が災害対応・復旧復興に重要であることを好事例を交えながらご講義いただき

き理解することができたため。また、被災者支援の全体像については、被災者の置かれる状況から支援までを具体的にご説明いただき、イメージすることができたため。

- ・ 資料等が充実していたため。
- ・ スライド2が特に参考になった。
- ・ 自身の経験と照らし合わせて。
- ・ 大規模災害が頻発する昨今では、民間の支援が必要不可欠であることが分かった。
- ・ 講師により説明の分かり易さに違いを感じたが、全体としては理解できた。
- ・ これまでにも連携の講義を聞く機会があったので、再確認と言う意味で聞かせていただいた。
- ・ 全国的な事例が聞けたことから、自分の自治体で何ができるのか考えることができた。
- ・ 行政の役割を明確に説明頂けて分かりやすかった。
- ・ それぞれの実情がわかりよかった。ただ、行政の内容は、大学教授からではなく直接行政から生の声を聞きたかった。
- ・ 行政、社協、民間支援団体との情報共有、連携の必要性を再確認することができた。また災害時、被害の全容を把握するには時間も要し、早期の応援を実施するにも受援体制の構築が大切であることや、やはり日ごろから官民連携のとれる体制をつくるために、ともに訓練や研修会をしていくことの大切さを知ることができた。
- ・ 連携の必要性と行政の課題が理解できた。
- ・ 内容については、一定理解できました。
- ・ 社会福祉協議会としては、これまでも連携の重要性を提起してきたため。また、災害ボランティアセンターに限らず、地域福祉の推進に関して、庁内連携による窓口の一本化を求めてきたため。
- ・ 災害発生後の時系列に沿って出てくるニーズの全体像やその活動主体の多様性について、そしてその活動主体の連携の必要性について学ぶことができました。
- ・ お話の内容は理解できました。
- ・ 初めて携わる内容なので、行政と民間との協働や、被災者支援について、基本的なことが理解できた。
- ・ 災害の規模が近年大きくなっており、行政や社協、NPO等がともに動かないと素早い解決ができない。今までの考え方では、「状況を把握してから支援を求める」という考え方が大きかったが、「とにかくすぐに支援を求める」という姿勢が大切と分かった。
- ・ 災害には、様々な分野が関わりあるため、被災者を支援するためには、様々な分野の方の力が必要になる。
- ・ 災害発生後から起こること、連携の必要性と情報共有する場が必要であることが理解できました。被災者支援の全体像については、被災者の状況等を理解することができました。
- ・ 各分野の協調が必要。
- ・ 災害時の行政の動きの基本を聞くことができた。避難所に在宅支援班をつくる話は興味深い。災害孤児への対応について、児童養護施設等にも声かけから初めてみたい。
- ・ 行政と民間支援主体との連携の必要性と全体像の概観について把握できました。
- ・ 現在、まさに多様な主体との連携、ネットワークづくりについてどうしようかと模索中です。講義内容は事例も踏まえていただき大変参考になりました。勉強中なので、自分自身の理解として。
- ・ 連携が重要であるということ、今まで漠然と聞いていただけでしたが、いかに大切であるかという事が、具体例も聞きながら、理解できたと思います。

- ・ 研修会の組み立て方が、理解が深まるようにしていただいているので基本的な事は理解できたと思います。ただ、時間経過を含め理解度が落ちてくるので繰り返し資料を見直しておきます。
- ・ これまでの研修等で連携の必要性については聞いたことがあり、大まかな理解はしていたので、今回の研修を受けてより理解はできたと感じている。
- ・ 現在の職務に就任して経験が浅い為、もともとの基礎知識が乏しかったので、全体像の把握をするにはとても良かった。
- ・ 各都道府県で3者連携の進み具合、進め方がかなり違うということが実感できた。
- ・ こういったたくさんの人が集まる機会に紹介するモデルとなる県を決めておいて、それに沿った進め方をするのが良いのではないかと思います。
- ・ 災害発生時に向けた準備の必要性や、流れについて確認ができました。
- ・ 社協職員として、災害VCの設置・運営やボランティア対応に関することばかりを考えがちでしたが、避難所運営やインフラ確保など行政が対応すべき被災者支援の全体像が広きにわたっていることを改めて認識しました。そのような中で、専門的知識を有するNPO等のボランティア団体と行政、社協等との連携性が災害対策基本法や防災計画に位置付けられたことは意義深いと感じます。
- ・ 直近の被災地での対応等を細かく知ることができたことは良かったと思います。
- ・ 市町村合併により守備範囲が広くなり、相対的な人員が減少する中で、災害ボランティアセンターと旧市町に設置されるであろうサテライトとの連携が必須となります。
- ・ 広域災害の対応にあたっては、災害対応や実践的な研修を受けたことのない行政職員がリエゾンとして派遣されることも考えられます。このため、行政・社協・NPO等の連携がpointとなります。県域での研修等の活動を通じて顔の見える関係を築いておくことで、災害発生時のスムーズな情報共有に繋がると思います。
- ・ しっかり休憩時間を確保していただいたことで、同じ会場に参加している方同士で話すことができ、より理解が深まりました。
- ・ 事前の勉強不足により、ついていけないところがあった。

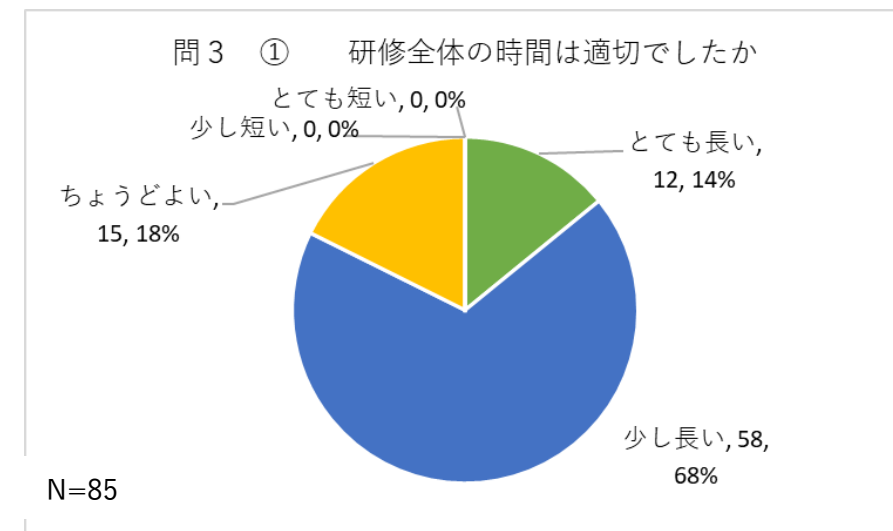
●あまり理解できなかった

- ・ 「理解」とは少し違いますが、各都道府県事務局へ、事前に何らかのオリエンテーションは必要だったかと思います。それがなかったためか、事務局も一参加者として受講しているような雰囲気、グループの議論や進行管理をする立場だということを理解していなかったように思います。それで、グループワーク前にしなかなければならないインフォメーションに対応できず、前半の議論の時間はアクセスできないまま議論を全く行わずに終わってしまい、もったいなかったです。後半は、どうにか工夫されていましたが。
- ・ (仕方がない事かも知れませんが)市町村行政・社協からの参加者からすると県レベルの話が多く感じられたようです。「この研修は、私たちが対象に思えない」という気持ちを持った参加者もいました。その職員さんたちが、次回以降も参加してくれるか非常に心配です。
- ・ 官民連携の必要性は理解できたが、「中間支援組織」が行う具体的な役割が理解しきれなかった。本県にある災害ボランティアセンター連絡会がそれにあたるのかどうかなど自分の問題でもあるがわからなかった。
- ・ 用語の使い方がバラバラでわかりにくかった。
- ・ 救助法の「救助」の解釈に対しての内閣府の考えがとても分かり難かった。

- ・ 講義は理解できましたが、意見交換は電波が悪く、意味がわからなかった。
- ・ 内閣府の言われる民間支援主体とは JVOAD か全社協かその他団体をさしているのか不明。
- ・ 「被災者支援の全体像」について坂本先生のお話は分かりやすかった。行政職員も災対法で自治体間の派遣・応援で対応しているから、地元のことが分からなかったり、被災経験(被災者支援経験)のない職員がいても仕方ない。

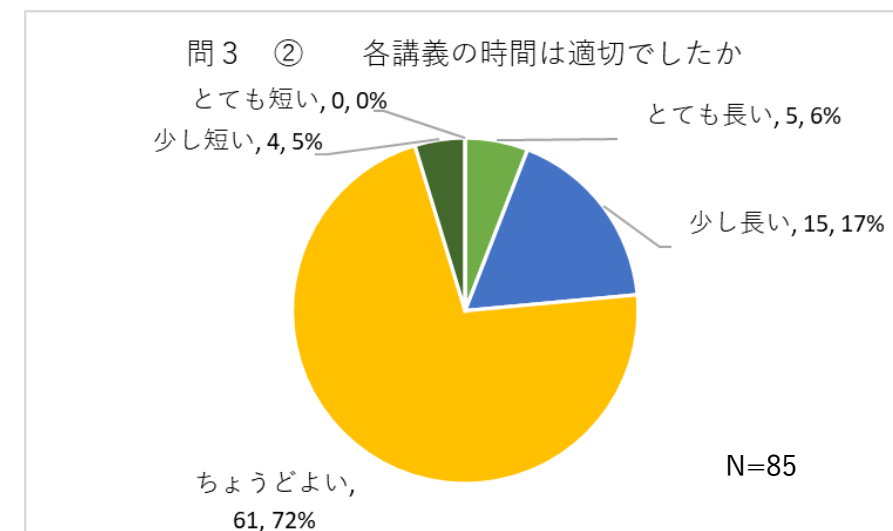
問3 研修会の運営についてお聞かせください。

① 研修全体の時間は適切でしたか。



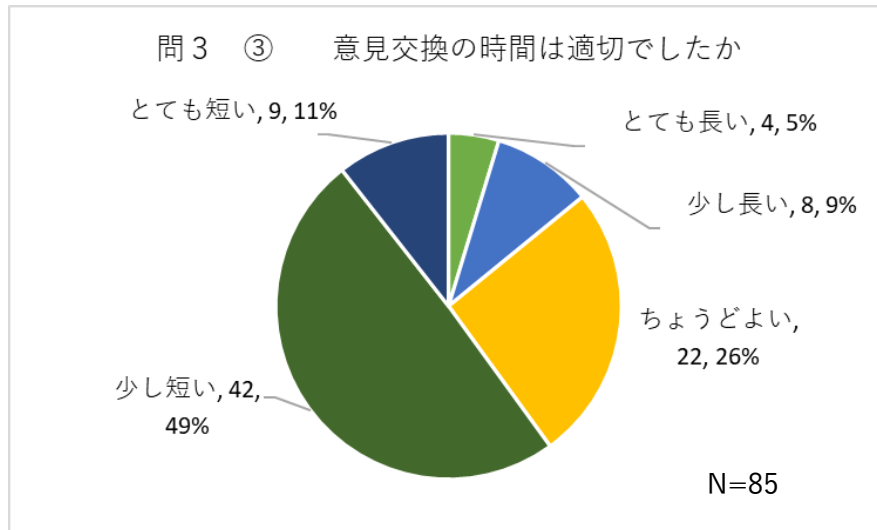
内容	件数	%
とても長い	12	14
少し長い	58	68
ちょうどよい	15	18
少し短い	0	0
とても短い	0	0

② 各講義の時間は適切でしたか。



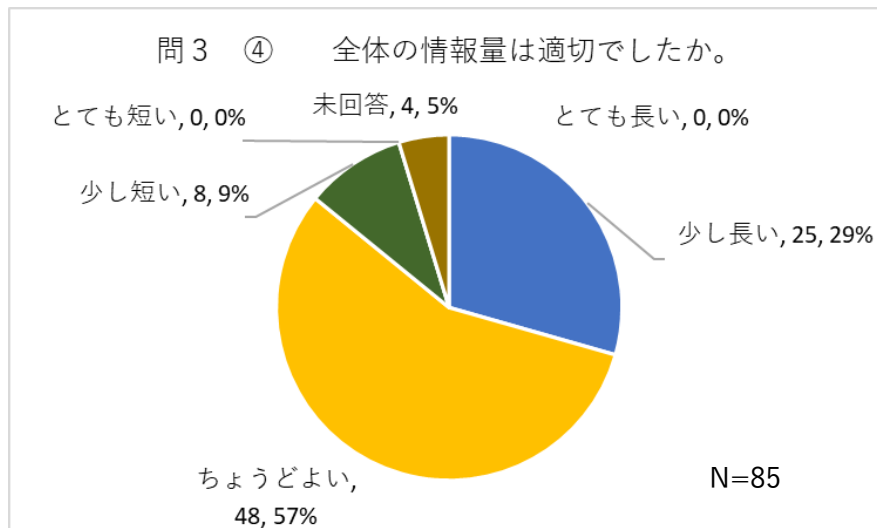
内容	件数	%
とても長い	5	6
少し長い	15	17
ちょうどよい	61	72
少し短い	4	5
とても短い	0	0

③ 意見交換の時間は適切でしたか。



内容	件数	%
とても長い	4	5
少し長い	8	9
ちょうどよい	22	26
少し短い	42	49
とても短い	9	11

④ 全体の情報量は適切でしたか。

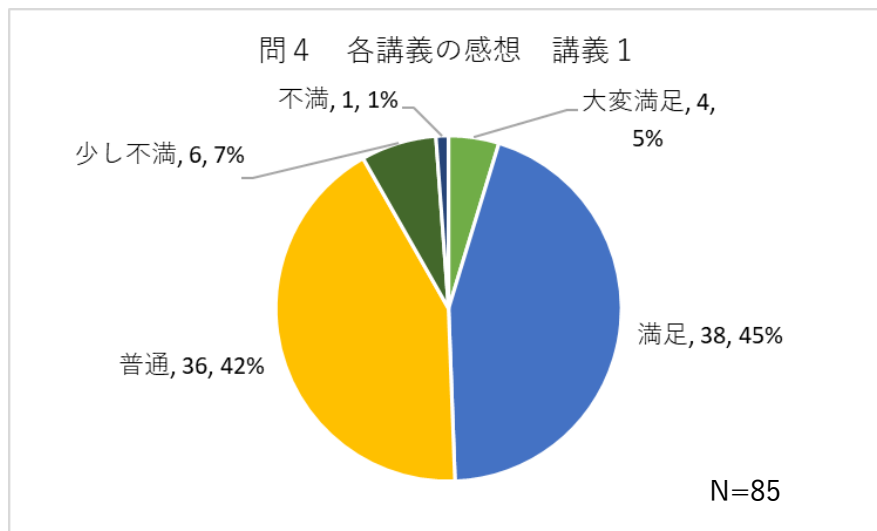


内容	件数	%
とても長い	0	0
少し長い	25	29
ちょうどよい	48	57
少し短い	8	9
とても短い	0	0
未回答	4	5

問4 研修それぞれの内容を5段階で評価し、その理由もお聞かせください。

講義1：行政と民間支援主体との連携の必要性について

講師：中尾 晃史氏（内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当））



内容	件数	%
大変満足	4	5
満足	38	45
普通	36	42
少し不満	6	7
不満	1	1

理由

●大変満足

- ・ 災害時に行政と民間団体の連携は必須であると考えするため

●満足

- ・ 社協や民間支援団体との連携の必要性は当然のことながら、行政内（各部局）の連携の必要性も感じた。
- ・ 全体像が分かり、研修に入りやすかったです。
- ・ 講義1の前に参事官があいさつでお話いただいた部分含めての判断です。スタートのなぜ連携が必要で何が課題なのか、冒頭で時間をかけてしっかりご説明があったので、講義（他の講義含め）に集中してお聞きするポイントがよく分かりました。
- ・ 7月豪雨の事例も踏まえてご説明いただき大変参考になりました。特に災害廃棄物は当県でも課題認識があるため今後関係各課と調整していきたいです。
- ・ わかりやすい説明で、頭に入ってきやすかったです。
- ・ 資料等が充実していたため

- ・ 災害が多発する中、改めて、国の施策を理解することができた。同趣旨のレクチャーを複数回聞いているので、確認の機会となった。
- ・ 行政と民間団体との連携について、これまでの流れと現状について理解することができた。
- ・ 災害時に行政内で分野により所管している部署が多岐にわたり、通常業務に加えての対応が求められることや、その膨大な業務を対応していかなければならないことがよく分かった。また、その中で、民間支援の連携が必要であることもよく分かり勉強になりました。
- ・ 全国的に災害が頻発している中での防災対策についての概要が理解できた。
- ・ 災害V C運営については現在では社協が中心となっているが、立ち上げについては行政の協力が必須であることを改めて認識していただける機会となったと思います。
- ・ 連携の大切はよく理解でき、今後の動きもよく分かった。
- ・ 行政、社協、民間支援団体との情報共有、連携の必要性を再確認することができた。
- ・ 各都道府県の先進事例やマニュアルが取り上げられており、大変勉強になりました。行政は異動が頻繁にあり、他団体との連携がしづらいため、共同で訓練を行うなど、定期的に顔を合わせ、災害時の連携について確認する必要があると感じました。
- ・ 連携の必要性やそれぞれの役割について考えるきっかけになった。
- ・ 災害では、フェーズが移り変わるため、次々とやらなければならないことが発生してくる。被災者支援のためにも、支援団体との連携が不可欠。
- ・ 今後、取り組む際に、配慮すべき点に気づけた。
- ・ 連携の必要性については理解できた。行政のどの部局がボランティア対応をするのか、事前に内部で決めておくことが必要だと感じた。
- ・ 災害ボランティア・3者連携に関する基本的な内容から近年の大規模災害時の取り組みなどを学ぶことができ良かった。
- ・ ひとくくりに行政といっても災害、ボランティアの部局の相違、災害時は通常の業務に加えての対応と、その業務、処理量の膨大さが体系的にまとめられていて理解が進んだ。その上で、社協、民間支援団体との連携の必要性は不可欠であると同時に行政内（各部局）との情報共有、連携の必要性も同時に感じました。それとパワポデータの資料が文字の判別がつかないので後で見直す際に文字の小さい資料分は別途分かるものが欲しい。
- ・ 理解が深まったため
- ・ 災害発生時に向けた準備の必要性や、流れについて確認ができました。
- ・ 災害時の対応に備えるため、平時からの取組、連携が必要なことが把握することができた。改めて庁内での連携不足を痛感した、その上で、社協、民間支援団体との連携の必要性は不可欠であると同時に行政内（各部局）との情報共有、連携の必要性も同時に感じました。
- ・ 直近の被災地での対応等を細かく知ることができたことは良かったと思います。
- ・ 連携の大切はよく理解できたが、その具体的な方策、平常時から災害時にへの連携の移行等、示唆が頂きたかった。

●普通

- ・ 全社協から情報提供を受けている内閣府との取り組みを確認する内容にとどまった印象を受けたため。
- ・ テーマである行政と民間支援主体との連携の必要性についての基本的な内容であったため。
- ・ 平時から連携が必要ということは理解できた。また、行政と民間支援団体だけでなく、行政の部局間でも連携が必要だということが分かったが、なかなか平時からどのように連携を図るべきか難しいと感じました。
- ・ 行政からの視点は理解できた。連携の必要性も重要ですが、実際に県、市、町での連携することに消極的なところの解消が必要。
- ・ これまでの知識の確認ができた。
- ・ 国の取り組みや考え方を分かりやすく講義いただき、理解が深まった。
- ・ 私たちは、中間組織として歴史も長く（1998年より中間組織として活動している）、今まで、机上及び実践で学んできたので、特に目新しさはなかった。
- ・ 国（内閣府）の方がどのような考え方で行政・社協・NPO等の三者連携を捉えているのか、一般的な理解が進んだ。
- ・ 行政が主体となる必要性について度々明言されていたが、自身が福祉部局であることもあり、少しイメージしづらかった。
- ・ 行政と民間支援主体との連携の大切さについては、理解できました。
- ・ 「ボランティア」という言葉が使われていましたが、災害ボランティアセンターで活動するボランティアなのか、持っている専門技術を用いて被災地で活動するNPOのことを指しているのかが読み取れない箇所があり、理解に至りませんでした。
- ・ 災害ボランティアセンターの国庫負担について理解することができた。
- ・ 連携の大切はよく理解できたが、平時から連絡会などをもうけて連携にこころみているが、平常時から災害時への連携の移行等のイメージが難しいところがある。そのため、具体的にどのように移行しているかなどの事例をしめしてほしい。
- ・ 必要性については、参加者のほとんどが理解していると思われるので、挨拶程度でとどめておいても良かったかもしれない。
- ・ 連携の必要性については理解できたが、行政内部での防災部局以外の意識の向上させることをまず取り組んでいかなければならない。
- ・ 国庫負担の説明は良くわかりました。ありがとうございました。
- ・ 把握していない資料もあったので、今後の情報発信等に活用できそうです。
- ・ 講義の時間に対して資料のボリュームが多く感じた。災害VCに関する費用について確認できたこと。（市と協定を締結しているが、今回の研修で認識違いが確認できたので行政と再確認する必要があると感じた。）
- ・ 分かりやすかったが、実際に被災して活動している者にとっては承知のことだった。
- ・ 私（社協職員）としては、行政の庁内で連携していくようにとの話だったと思われました。
- ・ 講師は情報共有会議で何をしているのか、実際に参加されたことがあるのでしょうか？
- ・ 2～4回目ではより実務的に、災害救助法や各省庁の復旧事業とNPO、社協の活動を連携させていけばいいか、さらに突っ込んだ話を頂ける事を期待しています。
- ・ 中身の詰め込みすぎ。

●すこし不満

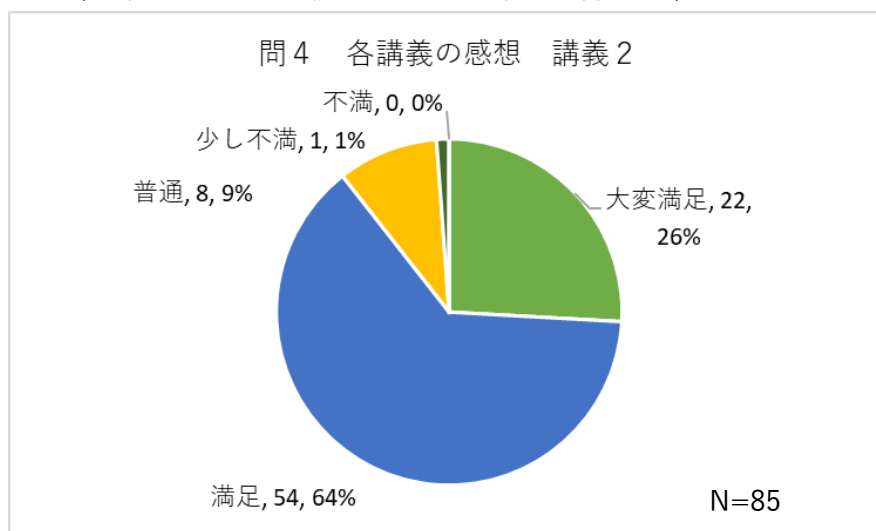
- ・ 用意されていた資料の説明が飛ばされて、説明が分かりにくかった。
- ・ お話が漠然としていて掴みにくかったから。
- ・ 資料、説明、回答ともに少しわかりづらかった。

●不満

- ・ 開会時に研修会の趣旨説明をされていたと思うが、4日間必要であることが理解できなかった。また、災害ボランティアセンターのボランティア活動と被災自治体の実施する救助と調整に必要な人件費、旅費が災害救助法の国庫負担の対象とすることを説明され、いくつか質問が出されていたが、明確な回答ではなかった。QAだけでなく、事前にしておくべき具体的な手順を示すべきではないか。

講義2：行政による被災者支援の全体像

講師：阪本真由美氏（兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 教授）



内容	件数	%
大変満足	22	26
満足	54	64
普通	8	9
少し不満	1	1
不満	0	0

理由

●大変満足

- ・ 現場の状況をよくご存じの方の講義で、とても勉強になりました。
- ・ 具体的な事例も含め、気づきの多い内容だった。「市民への公共サービスの早期再開」・・・被災者対応にばかり目が向いているが、インフラの復旧とあわせて、行政としての通常業務の復活・再開を進めるためにも、災害対応における市民力の活用は大事だと改めて感じた。
- ・ 練馬区の避難所外避難者の支援体制拡充に関する事例を知ることができた。
- ・ 行政内の連携の大切さについて、行政職員に対しても、民間の人に対しても理解を深める講義となっていました。話が聴きやすかった。資料が見やすかった
- ・ 被災する際に行政自体も被災することや、避難所の開設の長期化など問題が具体的だったのでイメージが付きやすかったです。同じく、在宅避難者に対する支援など事例を踏まえていただけたので、必要性を実感できました。
- ・ 具体的な事例を多く紹介していただくなどイメージが付きやすかった。
- ・ これまでの大規模災害における支援方法やその課題を聞くことができ、災害対応のイメージを持つことができた。
- ・ 20年掛けて、災害時の行政の役割について大雑把に理解していたつもりでしたが、さらに理解が進み、頭の中を整理することができました
- ・ これまでこのような視点、切り口での講義を聞く機会がなかった。支援団体・機関が自らの実践を

報告されるのも貴重な機会であるが、第三者で研究者の視点からの課題整理は大変役に立つ。是非とも、社協、市民活動センター、NPO、企業の課題整理も、阪本先生からお話いただきたい。

- ・ とても早く話をしてくださったので、ついていくのに苦労しましたが、とても理解でき、なるほど！と思いました。BCPの作成をしなくてはならないと改めて思いました。
- ・ 日本の災害対策の体制の特徴、課題についての知識がなく、大変勉強になりました。
- ・ 現状の体制の課題解決を阻害する要因はどこにあるのでしょうか。
- ・ 社協の立場、現状もご理解いただき、代弁していただいたように感じました。社協職員が行政の動きを知っているかといえば、そうではないので、個人的な思いですが、ぜひ機会があれば鳥取県で社協向けに御講義いただきたいと思いました。
- ・ データで示されながらの解説に納得できたし、具体的で分かりやすかったから。
- ・ 大変分かりやすい資料と説明でした。
- ・ とても分かりやすい説明だったため
- ・ 必ず行政では対応できない案件が出てくるため、外部、民間団体との平時からの顔の見える関係を築いておくことが重要だと感じた。
- ・ 行政職員の仕組みについて、知らないことがたくさんありました。行政職員の立場を知る・知らないで、非常事態の対応につながると実感しました。
- ・ 日本の防災行政の特徴や、災害時の行政の課題などを社会福祉協議会の立場として知ることができ、大変良かった。全体的にも阪本先生の講義は大変わかりやすく、スッと入ってきましたし、我々も行政任せにするのではなく、連携・協働した平時の取り組みの充実に向けて、取り組んでいきたいと思えます。

●満足

- ・ 昨年の台風第19号の水害でも行政機能の低下が感じられたところであり、今後の業務の振り返りとなった。
- ・ 行政職員としてとても参考になりました。
- ・ 過去の災害を踏まえ何故このような備えが必要かを示す講義でありとても勉強になりました。
- ・ 危機管理部門ではない自分でも災害への対応に必要な視点や考え方を学ぶことができました。
- ・ 以前いた部署では災害時の職務に就いて考えていなかった。全職員が認識できると災害時の対応もよりスムーズになると思う。
- ・ 具体例を交えながらご講義いただき、改めて官民連携の重要性を理解することができたため。
- ・ 資料等が充実していた
- ・ 災害時に行政が果たすべき役割とそのために必要な備えを理解することができた。
- ・ 自治体の体制等の文脈から聞く機会がほとんどない内容だったので勉強になりました。
- ・ 内容がまとまっており、説明も分かりやすかった。
- ・ 災害時の直接死は正に地域防災の備え、関連死は今回のテーマ、連携により防がねばならない。平常時から対策に対する連携の在り方と役割分担も必要ではないか？
- ・ 分かりやすい講義でした。
- ・ せっかく助かった命 守れた命をその後に、災害関連死で命を守り続けることができないのは、平常時から対策がされていないこと。災害に対する減災、防災だけではなく、守った命をつなぐための計画の策定も必要

- ・ 大規模災害における官民の連携の重要性について、理解が深まった。
- ・ 私たちは、中間組織として歴史も長く（1998年より中間組織として活動している）、今まで、机上及び実践で学んできたので、特に目新しさはなかった。いつまでも学ばない行政側がしっかり学ぶべき。
- ・ 自助、共助の連携についての部分で地域防災計画を絡めて共助について詳しく聞きたかった。
- ・ 災害時、被害の全容を把握するには時間も要し、早期の応援を実施するにも受援体制の構築が大切であることや、やはり日ごろから官民連携のとれる体制をつくるために、ともに訓練や研修会をしていくことの大切さをすることができた。
- ・ 災害関連死の内容について知らなかったことも多く、実際の事例等を交えてお話をお伺いできて、非常に参考となった。
- ・ 災害で助かった命を守るという視点は行政にはあまり無いものだと思うので、大変心に残りました。防災・減災だけでなくその後の復旧・復興の計画を行政で考える必要があると感じました。
- ・ 災害に対する減災、防災の観点だけではなく、守った命を災害関連死させないための計画の策定も必要であると思いました。
- ・ 言われていることは理論上はその通りだと思った
- ・ 災害関連死で命を守り続けることができないのは、行政部門においても災害時と平時を切り分けて考えてしまう傾向があり、「課題の連続性」として平時⇒災害時⇒平時と福祉課題が残っていくことが、福祉部門の方に意識・理解してもらえていない部分もあるからと考える。
- ・ 被災者支援について、日本の防災行政の特徴や、これまでの活動事例が分かってよかった。
- ・ 被災者支援の視点から見た、官民協働の必要性の話であったので、よく理解できた。
- ・ 災害時の直接死は日頃の備えが重要となるが、災害の関連死が多いことに改めて驚いた。官民の連携で防げる部分も多いのではないかと考える。
- ・ 物を被災する前の状態に戻すだけでなく、被災者の生活もしっかり見据えて、再建をしないとイケないことがわかった。
- ・ 災害対策に関することばかりに意識があり生活再建の分野での連携については目が向いていなかった。助かった命を守るということこそ考えていかないとならない。
- ・ 被災地の状況についてイメージがついていなかったため、事例を交えながらお話しいただいたので、理解できました。
- ・ 災害が起きた際は通常業務もしつつ、災害対応もしなければならぬため、行政の機能が低下しがち。民間に任せられるところは躊躇せず応援要請をすることが必要だと感じた。また、神戸市の連携調整窓口の設置は良い例だと思うので、自身の自治体でも参考にしたい。
- ・ 愛知県の職員全員が防災担当という考え方が重要だと感じました。危機管理、地域福祉、環境等の分野にどのように横ぐしを刺しながら、体制をとるのが重要だと感じています。
- ・ これまでの被災自治体での課題を踏まえて復旧・復興に取り組まなければならない重要性が再認識できた。
- ・ 災害のリアルな部分なお話をしていただき、現状で何ができるか何を变えていかなければならないかを考えさせられました。

- ・ これまでの大規模な災害別の直接死：災害関連死のデータによる数値の検証。助かった命も、その後の災害復旧等過程で救いきれなかった命の重さの対策、課題を指摘していただいた事ながら、その課題を解決していくための平時、今後の取組が重要であり、具体的な示唆が多くあり最後のSDGs「誰一人として取り残さない」が刻み込まれた。また、講義後に阪本先生からの発言があった「ありきたりではなく、課題解決のための実践的な訓練」が心に残った。
- ・ 結構市町村に対してデータに基づいたきつい現状の課題が多く指摘されたが、自分も市町村の職員なので、実感でき、参考になることが多かった。現在、ボランティアセンターに入ってうまく連携して活躍されている民間団体さんは多くいるが、お話もあったように市町村の災害本部の中に民間団体が入って活躍されるのは素晴らしいと思った。あとは、具体的に県が民間と連携したとして、それが市町村にどう繋がっていくのか不透明だった。市町村がどういうルートで民間を取り入れればいいのか。業務が多忙でそれぞれ方針が違う市町村が民間と連携するのは難しいが、それが実現できればかなり市町村の負担軽減に繋がると思った。
- ・ 行政も被災しては、他自治体からの応援に頼るしかなく、いくつかの失敗した例を伺ったので、被災地自治体はそれを参考にしながら官民の連携による被災者の支援ができるのではないかと感じました。
- ・ BCP策定の必要性を益々感じるとともに、被災者支援に長けたNPO等の支援団体が、県や市町村の災害対策本部へ参画することは非常に重要だと感じました。併せて、愛知県がマニュアル化されていた「避難除外避難者に対する支援体制」の視点も非常に参考になりました。
- ・ 災害発生から復旧、復興まで説明いただき、理解が深められた。これまで災害時への対応ばかり念頭にあったが、復興に向けた取り組みへの対応等について改めて考えることができた。
- ・ 大変わかりやすく、ご説明いただきました。

●普通

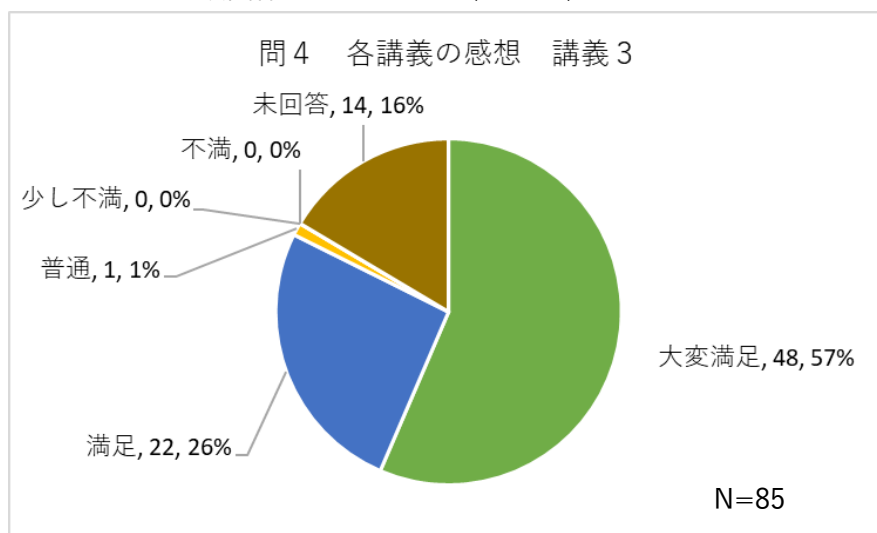
- ・ 時間経過に伴う、被災者支援のありようについて気づけた。
- ・ 復興支援については行政との協議がすすんでいないので今後する必要を感じた。
- ・ 講義内容は丁寧でわかりやすかったが、話すスピードが速すぎる。
- ・ 課題については理解できましたが、その課題解決のためにどうすればいいのかが良く理解できませんでした。

●少し不満

- ・ 被災後の被災者支援の課題や三者連携の必要性を改めて認識できました。しかし、全体的に理想論の印象がありましたので、もっと具体的な取組についてのお話をお聞きしたかったです。

講義3：民間支援団体による被災者支援の全体像

講師：全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）



内容	件数	%
大変満足	48	57
満足	22	26
普通	1	1
少し不満	0	0
不満	0	0
未回答	14	16

理由

●大変満足

- ・ 民間支援団体による支援の果たす役割とそのために必要な平時からの取り組みの重要性が理解できた。
- ・ 各団体にもう少し配慮したスライドとする必要がある。
- ・ ボランティア・NPO・中間支援団体などそれぞれの概要から説明いただけだったので、分かりやすかったです。
- ・ それに伴い、各自の情報共有の必要性が理解できました。
- ・ 中間支援組織に必要な活動調整内容、支援調整のイメージや情報共有の必要性を知る機会となった。
- ・ 中間支援組織の役割と情報共有会議等について等を知ることができたので、大変勉強になりました。
- ・ NPOの中間支援組織としては一番参考になるお話を分かりやすくしていただきました。
- ・ 現場に入られている方のお話は説得力があり、参考になったから。
- ・ 大変分かりやすい説明でした。
- ・ 実際に現場で活動されている方の講義のため、現場の状況や課題が伝わりやすかった。
- ・ 民間NPOで支援に関わりながら、災害時におけるボランティアの位置づけ等を体系化して説明いただき理解が深められた事や中間支援組織に必要な活動調整内容、支援調整のイメージや情報共有の必要性の点でこれまでの振り返りの機会となった点が満足度が高かった。
- ・ 各地域によって行政とその他の団体との関係性に差がある。

- ・ モデルとなるような都道府県の例を挙げて参考にしながら全国的に3者連携を進めていくことが重要ではないでしょうか。
- ・ 大変わかりやすく、現状について知ることができました。

●満足

- ・ 本県においても、早急に中間支援組織を設置（育成）する必要があると感じた。
- ・ 社協やNPO法人との連携が大切だと感じることができました。
- ・ 中間支援組織の必要性、行政・NPO・ボランティア等の三者連携の必要性について、今までの災害時の例を示しながらの説明であり、とても勉強になりました。
- ・ 災害ボラセンと中間支援組織の違い、行政、社協（災害ボラセン）、NPO（中間支援組織）の役割と連携の必要性についてよく分かりました。
- ・ 今後、県域でのネットワークと市町域のネットワークの連携にも力を入れていきたい。
- ・ 民間支援団体との連携について、今後強化していく必要性を認識できたため。
- ・ わかりやすかったと思います。ただ、仕方がない事ですが、JVOADの活動を知っている都道府県社協職員にとっては、既視感があると思いました。
- ・ 資料等が充実していたため
- ・ 被災地ニーズを細分化し、必要な支援と担い手（団体）を明確にする等、大枠で見るのではなく、細分化して対応することの必要性を認識。災害ボランティアセンターの運営や情報共有会議の開催に際しての留意点と重なると感じた。
- ・ 分かりやすくまとめられて、知識の整理が出来ました。
- ・ 民間団体が中間支援組織の役割を果たすことで、より円滑な災害ボランティア活動が行えることが分かった。
- ・ 未曾有の大災害時には中間支援団体の存在は大きな役割をはたした。頻発する台風・豪雨水害等の地域災害には、即応できる地域災害関連団体の存在が重要であると思います。まさに地域行政が施策として育て上げる地域災害支援団体が喫緊の課題のように思います。
- ・ JVOADのお話は今までにも聞かせていただいておりますが、災害が起こることが想像でしかできないため現実がどうなるのか不安である。
- ・ 高い経験値からのお話だと思います。中間支援団体はどうあるべきなのか考えてしまいます。漏れない支援をするためには、平時からの地域への関りが大事だとは思いますが、果たしてそれをだれがどの団体ができるのかと。。。
- ・ 平時における「顔の見える関係」構築の必要性という観点から、中間支援組織の重要性を感じた。
- ・ 中間支援組織をどのような形とするのか、今度考えていく必要がある。
- ・ 支援の時期について、民間支援団体はどのように進んでいくのか、もう少し具体的に知りたかった。
- ・ 何度も講演に来て頂き聞いている内容ですが、その都度資料がバージョンアップしており、今回もなるほど、そのように表現すれば良いのか、と新たな発見がありました。
- ・ ぜひ資料は地元での話し合いでも活用させて頂きたいと思います
- ・ 近年の被災地における支援団体・機関の連携状況と課題がよくわかった。また、一般的なボランティアと災害対策基本法等との定義の違いの説明が素晴らしく、とてもすっきりした。
- ・ 中間支援団体の方と日頃から連携しておく必要性を感じました。

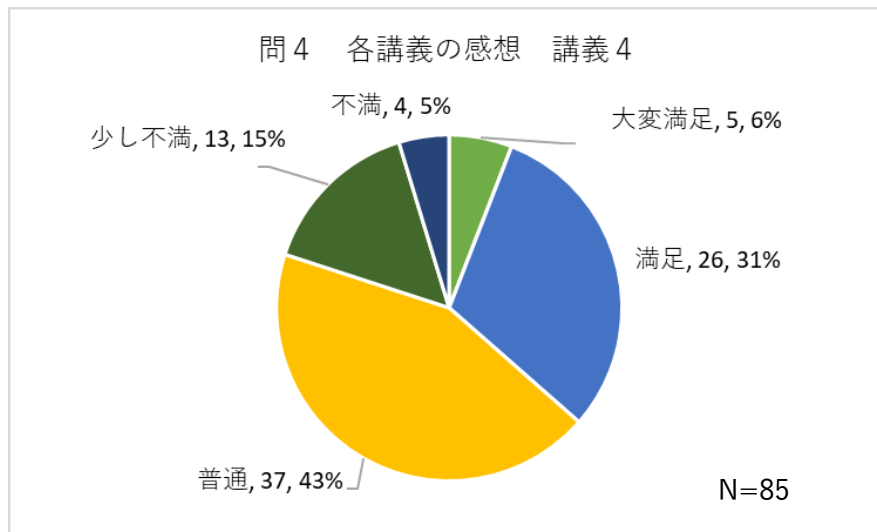
- ・ 現在、災害ボランティアの関係は防災部局と福祉部局で連携して行っているところですが、民間支援団体と連携するには、行政で災害時の受け入れ総合窓口やネットワークをまとめる係を作るべきだと感じました。
- ・ 漏れのない支援をするためには、平時から地域との関わりをしっかりと持つことが大切であると思いました。
- ・ 連絡会議にどのように行政以外の機関（社協やNPO等）が入れるか、よそ者から脱却できるかについて考えたい。
- ・ 防災基本計画や災害ボランティアセンターなど、基本的な内容を知ることができてよかった。
- ・ 社協災害ボランティアセンターと、中間支援組織の立ち位置について、わかりやすく説明が得られた。ただし、県域での共有会議と、市町村域の活動がどう連携するのかがイメージできなかった。
- ・ 災害時、支援団体を受け入れて、しっかりと情報共有できるよう、平時から相互理解が深められるようなネットワークづくりが大事とわかった。
- ・ 社協の災害時に期待されていることや、災害VCを担う意味について振り返るきっかけとなった。
- ・ JVOADの役割を理解できた。
- ・ 中間支援組織の役割の重要性について理解できた。平時から都道府県域での情報共有の場を設け、災害時にスムーズに連携が図れるような体制づくりをしておくことが必要であると感じた。
- ・ 支援の「もれ・むら」をなくすために、平時からの備えや関係団体等との顔の見える関係が重要だと再認識しました。
- ・ 実際に被災地支援を実施した民間ボランティア団体のお話を聞いたのは、とても貴重でした。
- ・ 理解が深まったため
- ・ 支援のコーディネーションの表については、本県でも平時のうちに少し整理をした方がいいとあらためて感じました。
- ・ 行政、社協（災害VC）、NPO等との役割を見える化するのに活用させていただきたいと思います。
- ・ 災害対策基本法においての、ボランティアと連携に努めなければならない。が間違っていると思いました。
- ・ 災害時は、常に被災者ニーズを把握し、シーズ・リソースとマッチングさせ支援の漏れ・ムらになるだけでなく心掛けていますが、いざ現場に入ると多種多様な支援団体が既に活動されており、その調整等に苦慮していました。しかし、中間支援組織が機能することでよりスムーズな連携が構築されつつあるんだなと感じるとともに、日頃からの連携・協働が重要だと感じました。
- ・ 災害VCに関する社協の役割等が明確に説明いただき理解が深めることができ、中間支援組織の活動内容等が理解できた。また防災対策本部へ県社協やNPO等を配置させるとの意見は連携を図るうえでも必要と感じた。
- ・ 中間支援組織の重要性を感じました。

●普通

- ・ 各団体にもう少し配慮したスライドとする必要がある。
- ・ 中間支援の概念自体に馴染みがなかったため、勉強になった。もう少し、民間支援団体が何を行うのか具体例を交えていただけるとイメージし易いと思った。
- ・ 未曾有の大災害時には中間支援団体の存在は大きな役割をはたした。頻発する台風・豪雨水害等の地域災害には、即応できる地域災害関連団体の存在が重要であると思います。まさに地域行政が施策として育て上げる地域災害支援団体が喫緊の課題のように思います。
- ・ JVOAD の活動について、理解が深まった。
- ・ 「中間支援組織」がどのような活動を行うのかの具体例などがあるとわかりやすかった。
- ・ 私たちは、中間組織として歴史も長く（1998年より中間組織として活動している）、今まで、机上及び実践で学んできたので、特に目新しさはなかった。いつまでも学ばない行政側がしっかり学ぶべき。
- ・ 支援の時期について、民間支援団体はどのように進んでいくのか、もう少し具体的に知りたかった。
- ・ 民間支援団体の活動については存じ上げていかなかったため、本講演と通じて勉強できた。
- ・ 特になし
- ・ 災害時におけるボランティアの位置づけ等をわかりやすく説明いただきました。近年、頻発する台風・豪雨水害等の災害では、迅速に対応される NPO など民間団体の方の協力が不可欠ですが、その協力をえていくためにも日頃の連携体制が重要だと思えます。
- ・ 大規模災害が起きた場合、現状では民間組織による支援の方がはるかに実効性があり市として外部から講師を呼ぶなり勉強していかないとならない。
- ・ 以前にお聞かせいただいた内容でしたので可も不可もなく。
- ・ 全国域、県域、市町村域、小学校区域等のそれぞれのネットワークが有機的につながることの難しさを感じています。
- ・ 今まで災害 VC で解決する役割と考えていたが、中間支援組織の必要性が理解できてよかった。（今後、市と具体的な連携の在り方について協議する必要性を感じた。）
- ・ 内容はわかりやすかった。「顔の見える関係」の重要性を改めて再認識。
- ・ 実際にうちは KVOAD さんと連携しているため、実感できた。

意見交換

進行：杉村郁雄氏（日本ファシリテーション協会災害復興委員会）



内容	件数	%
大変満足	5	6
満足	26	31
普通	37	43
少し不満	13	15
不満	4	5

理由

●大変満足

- ・ 各都府県の意見も聞けて有意義な研修でした。
- ・ 各自治体や市民団体の方々が、実際に災害ボランティアを設置した際の経験を基に、何に困ったかや、今後、被災した際に不安や懸念に考えられていることが知れて大変勉強になりました。
- ・ 参加者が多く、それぞれで3社連携の仕組みの進行具合、進め方が違うので、それを聞きながらいろいろな意見を出せた

●満足

- ・ 他県の事例等が聞けて良かった。
- ・ 参加者が多かったためもう少し意見を出す時間をいただけたら良かったです。
- ・ 他県の生の声を聞いたことは非常に有意義でした。
- ・ 全国の参加者の課題や取組の一部を知ることができたため。
- ・ 資料等が充実していたため
- ・ それぞれ抱えている課題は違うので、他の方と情報交換できたのは良かった。
- ・ 意見交換会は、県内で各セクションで統一テーマに基づき話し合いができたので良かったが、他県への質問等情報交換に少し時間がなかったように思う。
- ・ 災害VC及び民間支援団体の方々がどのような考えを持っておられるのか、普段はお伺いすることのできない声を知る機会となった。

- ・ リモート環境の中で、さすがにうまくリードしていただいていたと思うが、やはり意見交換の時間はもうすこし欲しかった。また、おそらく何か話をしたかった人もいると推察するが、リモートでは限界があるのでしょうね。
- ・ 質問に答えていただき、他府県の状況なども伺ってくれた。
- ・ 県内での課題が県内参加者において、共有できた。
- ・ 質疑応答を含め、他自治体等の意見をリアルタイムで伺えた点がよかったため。
- ・ 初回で慣れていないこともあってか、意見交換の時間が短いように感じました。
- ・ 意見交換会は、統一テーマに基づき「我が事」化して考える機会を得たので県内でその課題を共有できた事、それを他県状況を聞けたので随分と参考になった。ただ、同一時間内にチャットの質問事項の回答もあったので、例えばチャット分については別途文書回答で共有するかして、交換会の密度をあげてもう少し多くの県から意見が聞けたら良かったように思いました。
- ・ 先進自治体の事例を聞くことができ、大変参考となりました。次回では、自治体間での質疑応答の時間があればと思います。
- ・ 自県で意見交換をしたり、他県の情報を聞くことができたり、有意義な時間だったため
- ・ ただ、少し時間が長かったように感じました。
- ・ 各自治体の考えや取り組み、対応した内容について話を聞いて良かった。
- ・ いつ起きるか分からない災害について、準備を進めることは理想ではあるものの、行政ごとに差があることを痛感しています。
- ・ 県外で災害V C等現場を経験している県社協職員やN P Oの方との意見交換会は大変勉強になった。
- ・ 他県の意見を確認する時間がなかったことが残念。
- ・ コロナ禍でなかなか意見交換の場が今年度は特に少ない状況でしたので、それぞれの課題や現状を共有できたことはとても良かったです。
- ・ 少し意見交換の時間があると良いなと思います。

●普通

- ・ 意見交換の時間が短く感じました。あまり意見を深めることができずに終わっています。
- ・ 他県の回答がとても気になりました。事務局でまとめてから質問を振ってもらいたいと感じました。意見交換を1つにして前半は各会場のまとめ、後半は各会場の回答をまとめた上で、フィードバックしてもらえるとありがたい。
- ・ 他の県の意見や状況が聞いてよかったが、もう少しいろいろな話が聞けたらさらによかった。
- ・ 意見交換の時間が短い時間帯があった。
- ・ 初回という事やオンライン研修としては全体が長めの設定だったので合間にこういった時間があるのはアイスブレイク的な意味でも良かったと思います。
- ・ 具体的な議論を深められたかとか他所での取り組み事例等を詳細含めじっくり聞く等という意味ではそこまで至らなかったもので、今後の会で期待したいです。
- ・ 神奈川県は、本研修会の開催趣旨に沿ったメンバーを集めるために、時間を掛けて行政各課や市町村、中間支援組織に声掛けし、多様な受講生の編成を行いました。そのため、研修期間を通じて顔の見える関係を深めようと考えています。ですので、初めての意見交換会はもっと余裕を持った時間で設定していただきたかったです。

- ・ 有意義な意見交換の場となったが、時間がもう少し欲しかった。
- ・ 神奈川県内の行政・社会福祉協議会等の意見を交換できたことは有意義だった。
- ・ 連携を必要とする行政・NPO との意見交換はどのようなテーマであれ大切な機会ととらえています。
- ・ それぞれ抱えている課題は違うので、他の方と情報交換できたのは良かった。
- ・ 他府県の実践状況が聞きたかった。
- ・ 他県の実践は大変参考になるので、意見交換の時間をもう少し増やしてほしいです。
- ・ 意見交換会を通して、近隣市町村の実践状況ができて良かったです。
- ・ 特になし
- ・ 他の自治体の先事例についてお聞きすることができ、良かったです。
- ・ 事前に話題提供をしていただく自治体には話を通しておいた方が良かったと思います。
- ・ 講義のみと聞いており、業務の関係もあり県内の他の所属の方々とは集まらなかったが、県内の他団体の方々の意見を聞いて良かった。ただ、Googleに書き込みできなかったり、スライド内の文字も大きくなり他県のスライドが読めなかったりと、ネットワーク環境は全庁的な問題なので、難しい点もあった。
- ・ 少し時間が短かったと思う。
- ・ 本市のような連携が進んでいない地域からすると、すぐに本市に落としこめるような話はなく勉強にはなるが参考にはならない
- ・ 先進地の意見を聞くことができたため、大変参考になった。
- ・ あまり理解できなかった。
- ・ 意見交換の時間が少し短く、Web上のワークにも不慣れであったので、目線合わせ→意見出し→まとめの工程に少し手間取った。
- ・ もう少し他の他県の意見交換内容を知りたかった。意見交換のお題は先にいただいて良かったのではと感じた。(いずれも時間の関係で致し方なかったとは感じているが。)
- ・ 各県の意見に対する助言等をいただく時間がほしかったです。
- ・ 集まったそれぞれの機関が話せる機会はとても有意義で良かったが、少し時間が長いと感じた。
- ・ 質問に対する回答だけだった。
- ・ 県・支援団体・社協、それぞれの立場からの考え方があるんだなと改めて感じました。また、同一県内の参加者からの情報を共有できて良かったです。

●少し不満

- ・ 意見交換の意図が見えないまま（千葉だけ？）進行されてしまったような。ブレイクアウトルームに分けた後の趣旨、ワーク内容が最後まで見えなかった。
- ・ 時間が短く、話し合いがうまく進められませんでした。先進的な都道府県の発表？困っていること？等についていきなりだったので、ついていけませんでした。
- ・ 機械の不備もあると思うが、声が聞きづらい時もあり臨場感に乏しかった。
- ・ オンラインによるものであったことから、慣れないこともありわかりづらいところがあった。
- ・ 県内でのグループワークの時間がもう少し必要であると感じた。
- ・ 杉村様の講義に内容に対してではなく、意見交換の議題が漠然としており、活発な意見交換には至らなかった。

- ・ 進め方に問題があるのではないかと思った。
- ・ 日本ファシリテーション協会様のせいではなく、WEB会議の難しさを感じます。本会でもWEB会議を行っていますが、予定調和になりすぎて、議論もできず、みんなが納得できる落としどころが浅くなってしまいます。
- ・ 県の中でのお話は盛り上がったが、他の県との意見交換はこのやり方では少し難しいと感じたから。
- ・ 初めて顔を合わせる、または、言葉を交わすメンバーだったので、最初に自己紹介の時間があればよかったかと思います。
- ・ 途中で気付き、休憩時間に手短にお互い自己紹介しようとしたのですが、やはり時間が足りませんでした。
- ・ そのものの時間が短すぎると思いました。また、他府県の状態をもっと聴きたかったです。
- ・ 県内の意見交換ももちろん重要ですが、他府県の状態を聴けることが全国研修のメリットだと考えます。
- ・ ファシリテーションは専門家として、スムーズな進行をされ分かりやすかったのですが、質問の取り方等に工夫の余地があったのでは無いでしょうか？
- ・ Google スライドの内容も、参加者レベルでは、会議室のプロジェクター投影の文字が小さく、全体が見えず後日閲覧する形になってしまいました。

●不満

- ・ 県の中で意見交換をしている時間はなく、思いついた方が書き込むのみでした。当県の場合、一つのPCをみんなで見ていたため、なおのことそうでした。第2回以降は1か所に集まる意味がある研修だと思いますが、これでは、コロナ禍の中何のために集まったのか分からない感じでした。集まった意義としては、参加者同士の名刺交換の場としてしか意味がなかったと思います。
- ・ 正直、時間不足で不完全燃焼でした
- ・ 各県を一堂に集める事を徹底されるか、それとも一人1アカウントでの参加にするか、どちらかに統一して頂いた方が進行しやすいのでは？
- ・ チャットを使った質問はPC前に座っているひとりしか打ち込めないので、講義中に質問を、というのは会場内では実施しにくいです
- ・ 一応参加者全員にメモ用紙を配って質問したいことや意見は書いてもらって集約、PC前の人に代打ちをしてもらいましたが、そうするとPC前の人には自分の意見を書く時間が無くなりますし…
- ・ 時間が限られている為、質問に対する講師回答が不十分なものが多かった。
- ・ ファシリテーションは専門家として、スムーズな進行をされ分かりやすかったのですが、質問の取り方等に工夫の余地があったのでは無いでしょうか？
- ・ Google スライドの内容も、参加者レベルでは、会議室のプロジェクター投影の文字が小さく、全体が見えず後日閲覧する形になってしまいました。

Q5 全体のプログラムを通じ、今後の研修プログラムや運営等についてご意見・ご感想等ございましたら、ご自由にお聞かせください。(自由記述)

(1) 研修会の企画に対して

研修会の実施目的について

- ・ 一番最初に、研修の最終目的、各回ごとの目標を明確にアナウンスするとともに資料として配布していただきたい。(参加者の意識統一)
- ・ 今回の研修受講者が、今後どのように活躍することを目標にしているのか、構想案があれば2回目以降の研修でお話しいただければと感じました。中核人材の育成は必要と感じますが、どのように活動するかは各自・各地域に任す形ですと、研修を受けただけで活動に至らない人も多く出てしまわないか危惧しています。
- ・ 今後は、研修主催側として、より多くの方々への早めの研修案内・広報にも力を入れていただきたいと思います。
- ・ 機会があれば、DWAT (災害派遣福祉チーム)についても、研修の一部に取り入れていただけますと幸いです。
- ・ ボランティアの担当ということで今回参加させていただいた。初めて知ることが多く、大変勉強になった。ただ、参加者がもつ知識や経験に偏りがあると思うので、可能であれば基礎編や応用編といった、段階に分けて研修をしていただければ、より内容が入りやすいのではと感じた。特に、災害対応や現地活動といった経験がなく、様々な「実際の現場」がどのようなものか想像が難しかったが、JVOADの方のお話はわかりやすかった。また、2年から3年で異動がある行政職員として、この研修をどのように活かし、引き継いでいくかが難しいと感じた。
- ・ 災害が少ないこともあり本市の防災行政は遅れていると改めて痛感したが地域によって格差はあると思われ、ある程度連携の進んでいる地域とそうでない地域でグループ分けした方がよいのではないかと感じた。
- ・ どの講師にも共通しているが、「〇〇の問題・課題がある」「〇〇についての検討が必要」というフレーズを使う場合、それに対する個人的意見で構わないので対応や解決策をあわせて話してもらいたい。現在、コロナ禍であらゆる地域活動が停滞している。その停滞理由は、コロナ感染に対するリスク回避ではなく、人からの批判を避ける為の責任回避が原因になってしまっている。行政政策として go to を行う環境になっている今、災害時のボランティア受入れ制限や地域防災活動自粛について現場が前向きに再開できるよう、今回の研修の中で何らかのコンセンサスをとることはできないか？ 理想は内閣府から発信⇒地方自治体発信⇒社会福祉協議会発信

全社協の参加

- ・ 次回以降のプログラムにあるのかもしれないが、全社協にしっかり関わっていただき、方針も伝えていくべきだと思う
- ・ プログラムについて。行政、NPO 等団体からの講義はありましたが、社協の立場からの発言が無かったことが残念に思いました。災害時、災害 VC を設置・運営する主体は、市町村社協となることがほとんどであるはずですが、なぜ社協が災害 VC を設置運営するのか、その意義等について、(明城さんの講義の中で全社協の資料はありましたが) 全社協から、社協の立場からの講義をいただきたいかったです。
- ・ 全社協の参画も望む。研修を通して参加者同士のつながりをさらに深めたいと思う。

(2) 意見交換について

時間が少なかった

- ・ 意見交換の時間がもう少しあった方がよいように思いました。
- ・ 同じ会場内でディスカッションする時間がとても少なかったので、ぜひ調整いただけますと幸いです。
- ・ 講義については、立場（行政、中間支援組織、学術）の違う方たちのお話が聞けて、とても有意義だった。その後の意見交換について、県内の参加者間での意見交換を優先するのか、他県との情報交換を優先するのかが、見えにくかった。他県との情報交換も、ということであれば、ブレイクアウトルームの数を増やすことが必要ではないかと思う。また、ワークのテーマについては、一般的なもののなので、事前にテーマ提示をし、集約したものについて、意見交換するといった進め方でも良いのではないかと考える。
- ・ 意見交換では、各都道府県から多くの意見があがっていましたが、その内容を閲覧する時間や回答を受ける時間が短く、意見がもつたいないと感じました。もし、当日に閲覧（整理）や回答が難しい場合には、追ってQ&Aのようなかたちで回答してもよいのではないのでしょうか。また、詳しい説明が必要な回答については、次回に時間を設けて説明してもよいのではないのでしょうか。

事前にテーマの提示を希望

- ・ 意見交換の時間をどう進める予定か事前に資料を頂けないでしょうか各都府県でのファシリテーションをどのようにするか、それぞれで事前に考える時間がほしいですまた、参加都府県に発言を求める場合も、その場で突然にではなく、事前にネタ振りをしておいて頂いた方が、誰が何を発言するのか準備できますし、もう少し充実した時間にできると思います。これだけの参加者が居る研修会ですので、突然のフリによるライブ感よりも、ある程度進行台本を用意してその通りに進めて頂いた方がいいのでは？と感じます。この研修会は、全国域の情報共有会議のプレ企画、という意味合いも込められていると（勝手に）理解しています。どのような進行が参加都府県の意見を出し合ったり意見交換につながるか、色々なパターンで模索して頂ければいいとは思いますが、事務局のみなさんは本当に大変と思いますが、頑張ってください。応援しています。（が、そういう意図を持って実施するならそうときちんと説明して各都府県に協力を求めて頂けるとやりやすいです。）

目的が不明確

- ・ 意見交換が、仕込みのネタ紹介みたいになって、やりたいことがよく分からなかった。質問と回答のチャンバがあってない部分もあったように思う（内閣府さん）が、参加者は「わかりました」としか言うほか無い感じでした。意見交換や質問の取り方に工夫が必要と思います。他の研修会ではもう少し上手くされていると思います。

その他

- ・ 今後、概論とあわせて、具体的な実践事例と困りごとにもとづき、それを乗り越えるためにそれぞれの都道府県指定都市でどう乗り越えるかについて議論していきたい。

(3) 他県の事例が知れて良い

- ・ 他地域の課題等について知れたことが参考になりました。課題について、今後どのようにされていくのかもしれない機会があるとありがたいです。
- ・ 具体的な連携方法事例や訓練等があれば今後ご教示いただきたいです。
- ・ 他県さんの回答を一つ一つ確認する時間がないので、講義中に事務局でかまくまとめるか、次回講義で振り返りを行っていただきたい。
- ・ 行政が策定している地域防災計画の中にある自主防災会と民間支援団体との関係性について知りたい。
- ・ 情報共有会議を実施している自治体の議事録がみたいです。
- ・ すでに中間支援組織ができている都道府県の事例を聞きたい。(平時に作れた県、発最後に作れた県) ・ 中間支援組織設置のきっかけは。どのような団体が中間支援組織となったのか。(既存団体、新設団体、連携体) ・ 行政からの支援は。 ・ 平時の活動は。 ・ 平時の各団体との連携内容は。 ・ 情報共有会議における、支援
- ・ 意見交換の際に、他自治体の意見を伺うことができたのが非常によかったです。
- ・ 第1回目の研修会でも多数紹介されていましたが、官民連携に係る好事例をご紹介いただけるとありがたいです。今後も同様の内容等に期待しています。
- ・ 行政サイドだけでなく、災害 VC (社協) 及び支援団体のご意見を伺うことができたのは貴重だった。実際に他自治体では三者連携を進めておられるところもあり、参考としたいと感じた。

内閣府に対して

- ・ 内閣府の意とする中間支援団体を進めています。昨今の頻発する豪雨水害への対応は地域防災組織の充実が最大の課題です。即応できる体制作りこそご指導願いたい。
- ・ 国の方に質問がせつかくできる機会なのですが、初歩的な質問は聞きにくく、後日でもいいので追加で質問などできるとよいと思いました。災害救助法でボランティアセンターの人件費などが補助対象となりましたが、説明が苦しくはっきりとした答弁ができていないように感じました。(すみません) 答えにくいと思うのですが、よくわからないままだと発災したときに困るので、具体的にどこまで補助対象とできるのか知りたいです。(公助のためにボラセンの社協職員が調整した部分が補助対象と理解しましたが、大半は宅地内の土砂をボランティアが共助として除去するもので、災害救助法のメニューに障害物の除去がないなどの場合は調整していないから補助対象外となるのかと感じました。そうするとボランティアセンターの人件費のうちごく一部になってしまうのではないのでしょうか?)

運営面

ありがとうございました。

- ・ いろいろとありがとうございます。
- ・ 運営、ありがとうございました。次回もよろしく願います。
- ・ 県主催の連絡会などでは、どうしても固い感じの会議になるところ、今回はざっくばらんにボランティア団体の方と話ができ、さらに他県の取り組みなどもわかるため、オンラインでの研修で非常に良かったと思います。
- ・ 研修が始まる前は、時間が長いと思いましたが、講義が終わる毎に休憩があったので、少しも長いとは感じませんでした。ご配慮ありがとうございました。こうやって、顔を突き合わせて、話したのは初めてだったので、とても貴重な機会をいただけたと思います。また、徳島県のメンバーは6名でしたが、とても話しやすく、聞きやすい人数でした。
- ・ 今回の研修会はプログラム・資料等も含め、とても充実しているという印象です。主催団体に対しまして、この度の企画・運営など、大変感謝申し上げます。しかし、その点を踏まえると、もっと多くの方々（災害ボランティアセンターの運営を担う市町村社協や市町村行政、その他関係団体等）にもご参加していただきたい内容だとも感じました。
- ・ 都道府県、市町村問わず、行政内部の部局間連携が人に依っている側面が大きく、なかなかうまくいかないこと。講義そのものも興味深いですが、そもそもの設定（行政、社協、NPOの三者が同じテーブルで講義を受け意見交換を行う場を意図的に作り出すこと）で、三者連携が全国で進んでいくきっかけになることを期待します。内閣府をはじめとした関係者の意図を感じるとともに、「各県会場」という手法は大変面白いと思います。皆様のご尽力に感謝します。

研修時間帯への要望

- ・ 通信環境の設定準備がありますので、13時開始だと昼休み時間に環境設定が必要となり昼食時間の確保が困難でした。また、終了時間が17時30分ですと、県内各地から参集された受講生の帰宅が遅くなりますので、可能であれば、もう少し早く終わらせていただけると助かります。
- ・ 神奈川県では、最終的に18:00解散（会場の片付等含む。）であったが、研修は遠方から出張されてくる職員も想定されるので、終了予定時刻は17:00までに設定された方が望ましいと感じた。
- ・ オンラインということで運営が大変だと思うが、参加者の集中力も必要であり、もう少し短い時間（13時30分～17時）でもよいのではないかと。
- ・ 研修プログラムについては、少し長く感じた。
- ・ 講義と意見交換の間の休憩は不要であるので、終了時間を20分早めていただきたい。（就業時間が5時15分までのため）
- ・ 休憩が多いような気がするのですが、今回のプログラムであると、講義2つで休憩1回ぐらいでよかったのではないかと思う。その分、全体の時間を短くしてほしい。
- ・ オンラインでの研修が初めてであり、不慣れなことが多かったため、少し疲れました。講義時間が短いのか、資料の情報量が多いのか、自分にとっては講義のテンポが速く感じ、追いつくのにかかる時間が長かったです。今後は事前に学習し、余裕をもって望めたら良いと思います。
- ・ オンラインによる研修のため、多くの方が参加できたことはよかったと思う。1回あたりの時間が割と長いので、もう少し短い時間で回数を分けて実施してほしい。

- ・ 提供いただく研修プログラムはどれも学びや気づくもあり良いものと思いますが、休憩は適宜あるにしてもオンライン研修に慣れないことを含め、研修終了後はかなり疲労しておりました（苦笑）次回からは事前学習もあるようですので少し余裕をもって取り組めると思います。
- ・ 終業時刻が 17:15 ですので、ご配慮いただければ幸いです。
- ・ 今回プロジェクターで投影し、大画面にして閲覧していた為、疲れをそれほど感じずに参加できたが、ノートパソコンでの参加や、小さめのモニターを共有した場合、5 時間のプログラムは集中力がもたないと思う。
- ・ オンラインの準備等もあるので仕方ないと思われるが、休憩時間はもう少し短くまたは頻度を少なくしてよかったですのではと感じた。（できれば 17 時に終わる時間で）
- ・ 研修時間について
内容が多いため時間がかかることは理解できますが、そもそも 17 時 30 分ではなく、せめて 17 時までのプログラムでできないでしょうか。
また、当日のプログラムの延長は、他の業務にも影響を与えますので、できるだけ無いよう調整をお願いします。
- ・ 研修は非常によい取組と思うが時間が長すぎると思う。
- ・ 講義で話す方が挨拶をされるのであれば、挨拶 20 分は不要。もしくはオリエンテーションも不要。意見交換が 2 回も要らなかった。17:30 までは長すぎるので、休憩時間よりも早く終わってほしい。
- ・ 今後もこのような研修が必要であると感じました。都度開催のほどよろしく願いいたします。また、休憩が長いようにも感じましたので、調整いただけたらと思いました。アンケートは以上です。
- ・ 講義の内容は学びや気づきもあり、とても勉強になったが、長時間のオンライン研修ははじめてなことと、講義内容の情報量に対して所要時間が少ないためか、講義の進め方が早く、研修終了後はかなり疲労を感じました。
- ・ 内容については、わかりやすく改めて課題を振り返る機会になりました。内容とは別に、オンラインの会議の進め方も休憩をこまめにとるなど参考になりました。
- ・ 中身が濃かった分、全体としては少し長かった気がします。お話は非常に参考になったので、以降の回も楽しみにしています。

資料が見えにくい

- ・ 事前送付された資料について、メール送信のために解像度を下げたためか、確認しづらいスライドがありました。できれば、解像度を下げずに送付いただけると助かります。
- ・ 先ず初回は課題意識や基礎的な認識の共有という事で既知の事も多かったですが、改めて考えの整理が出来たと感じました。以降が楽しみです。配布資料に関して、データの配布時点で 4 スライド / 面に収めたものを配られると、ディスプレイ上ですごく見づらかったり、印刷や画面共有をしても字がすごく小さくて内容が読めないの、データ上では 1 ページに複数ページを収めた形でなく、1 スライド 1 ページになっているデータを送っていただいた方がそういった事は解消されるかなとおもいます
- ・ 頂いた資料を印刷すると画像が荒くなり、文字が見えなかったの、1 枚に 4 ページのところを 1 ページまたは 2 ページ等にしていただけるとありがたいです。
- ・ 配布資料で文字の小さいところや、ぼやけているところがあったので、分かりやすい資料がほしい。
- ・ 配付資料が 4 分割のため、見えにくい。できたら 2 分割以上でお願いしたい。

- ・ 資料を4分割で作成していただきましたが、A4で印刷すると文字が潰れてしまうので、1ページずつ、もしくは2分割で資料を作成していただくと資料も見やすく、ありがたいです。
- ・ 講義資料について事前提供いただいた資料の文字が小さく見えにくかった。本番のスクリーンでも小さかったので。配布資料は4スライドでなく1スライドか2スライドでいただきたい。
- ・ 資料の件
各講師のパワーポイントのデータをPDFにしていますが、4-UPではなく、せめて2-UPで提供いただけないでしょうか。データの画質が悪く、大切なデータが見えない部分が多々ありました。(当日、画面を写真で撮りました)
- ・ 事前に配布されたパワーポイントの資料が文字が小さくて読みにくかった。

準備

- ・ 事前に、研修プログラムの詳細や、どのような作業が必要なのか教えていただければ、参加会場側で机の配置や必要物品などを準備しておける。
- ・ 今回、会場設営等を行ったのですが、研修プログラム実施にあたり、スクール形式がよかったのか、グループ討議するような形で設営すれば良いかご指示いただけると幸いです
- ・ 資料提供の時期について
当日資料の提供については、もう少し早めにいただけないでしょうか。
運営者側が大変なのは重々わかっていますが、余裕を持っていただけるとこちらも印刷等、焦らず準備ができます。
- ・ 会場を1箇所にして、複数名でモニターを見ていたが、意見交換時の入力データ等が見えなかった。意見交換やグループ討議を行う場合、事前資料の配付や各受講者で端末を用意する必要があると思う。(一箇所に集まる場合、ネットワークの環境等、各受講者に端末を配布することは困難)

Web会議について

- ・ Zoomでの進行について。ホスト側で発言者以外の方のマイクがミュートになっているかの確認をこまめにお願いします。参加者側がきちんとすればいいだけではありますが、慣れていない方も多いのか、講義や説明の途中で聴き取りにくいことがありました。
- ・ チャットでどんどん質問して行って、どんどん回答してもらえば良くないでしょうか。チャットは、グループで見ていると小さくて見えません。また他県さんの意見を見ている時間がない。休憩時間にグループの意見交換を行って集約しておいてもらう。

資料について

- ・ あと、アンケートのファイル名に回答自治体名を記載してほしいというお願いは、中々徹底できないと思うので、アンケート項目内に都道府県名を聞く設問を入れておいた方がいいと思います……

一般的感想

- ・ 災害が頻発している中で連携はとても重要であると認識している。しかし社協職員においても行政職員においても危機感が湧かずどこか他人事であると思われる。集合研修が望まれるが現状では難しいがオンライン研修であれば参加しやすい一面もあるので、連携の重要性について複数回開いてほしい。担当者が変われば何もなくなることはないように。
- ・ まとめる中間支援団体がいないので、災害時に他県からの NPO 等、支援団体をどのように受け入れ連携して進められるのか不安になりました。他の参加者曰く、県 NPO 活動センターが受入先になるだろうと意見交換時にお聞きし、ますます不安になりました。
- ・ 理解を深めるための努力は各自で必要だと思いますので、研修内容をしっかりと振り返ろうと思います。また、次回からは事前学習もあるようですので、余裕をもって取り組みたいと思います。
- ・ 私たちは、中間組織として歴史も長く（1998 年より中間組織として活動している）、今まで、机上及び実践で学んできたので、特に目新しさはなかった。いつまでも学ばない行政側がしっかり学ぶべきと思う。気になったのは、資料の中で福井の重油災害について、非常に混乱したとの記述があったと思うが、当時現場で VC の代表として活動していた自分としては、VC 開設日に一気に 2000 人のボランティアが来て受入れは大変だったが、1 日でそのボランティアたちを受付して、現場で活動してもらったという点では、それ以降経験した全国レベルの災害対応を含めても、最高にうまくいったと自負している。その日 1 日で時系列的に、VC の組織を拡大し、役割部署を増やし夕方までに、現在災害時に行われている VC の形を作ったというのは特筆すべきであると思う。重油災害の VC 方式は、行政+NPO (JC) +ボランティアであり、現在災害時に行われている災害対応の基礎となったと思う。今日出た課題も全て当時経験したことであり、それを元に、福井では、県域の中間組織の設立（20 年前）、VC 立上げ・運営及び他県での災害支援のための基金設立（22 年前）、災害ボランティア推進条例（16 年前）を作っており、16 年前の福井豪雨では、県内の人だけで 5 万人のボランティアが活動しているという高い県民性があります。今後の研修では、主だった全国規模の災害で対応に当たった中心人物を集めて、もう少し深い話し合いができるといいと思う。確か、17、18 年前に内閣府でそのような集まりがあって参加した記憶があります。
- ・ 中核人材育成ということで、行政の担当者よりお声がかかりとても有難く思っております。私が住む自治体・県は、岡山県の豪雨災害のような非常事態に対応できるのか、とても不安に感じた研修会となりました。他の自治体も行政の方々が担当課から数多く参加されているようですが、数年単位で転属や部署替えなどが起きてしまうと思われます。非常事態時は全ての行政職員が対応にあたるのですが、研修を受けた行政の方たちが転属先でもコーディネーターの立場として実際に動くことができるのか、それとも動かすよう国が働きを掛けるのか、その道筋がぼやけているように感じました。研修を受けたことで、コーディネーターとして認証や修了証などの仕組みがあれば、転属・転勤・転職先でも人材として残せるのではないかと、思いました。
- ・ 災害支援には多種多様な場面が想定され、好事例が次の災害に適用されるとは限らない。また、災害毎に制度の適用範囲や新たな適用事例が発生するため、国→県→市町村へ周知するまでに時間が必要であるし、混乱している市町村では対処できない場面も多くある。県の災対本部と市町村の災対本部の情報共有の在り方も検討が必要ではないか。

以上

3-1. 令和2年度 官民の多様な被災者支援主体間の連携促進のための 中核（コーディネート）人材育成研修会 第2回プログラム

(1) 概要

- ・日時：令和2年11月30日（月）13：00～17：30
- ・オンラインによる実施
- ・主催：内閣府（防災）

1. 開会（13：00～13：15）

挨拶：中尾晃史氏（内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当））
第2回研修オリエンテーション

2. 動画紹介：オペレーション ONE NAGANO の証言（13：15～14：20）

動画証言者

古越武彦氏（長野県 危機管理部 危機管理防災課 防災係 課長補佐兼防災係長）

山室秀俊氏（特定非営利活動法人長野県 NPO センター事務局長）

山崎 博之氏（長野県社会福祉協議会 総務企画部企画グループ主任）

石垣和子氏（元 内閣府（防災担当） 普及啓発・連携担当企画官）

前原土武氏（災害 NGO 結代表）

進行・解説：明城徹也氏（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）事務局長）

休憩（14：20～14：30）

3. 意見交換（14：30～15：40）

講行：杉村郁雄氏（日本ファシリテーション協会災害復興委員会）

休憩（15：40～15：50）

4. 演習：情報共有会議の企画運営（15：50～17：20）

進行：杉村郁雄氏（日本ファシリテーション協会災害復興委員会）

解説：明城徹也氏（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）事務局長）

※途中休憩を含む

5. 閉会（17：20～17：30）

第2回研修オリエンテーション

挨拶：諸留逸氏（内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当）付参事官補佐）

3-2. 有識者等コメント

(1) セッション1：コメント

JVOAD 代表理事 栗田氏

- ・ 動画で振り返ってみると美しくまとめられたが、現場では苦労しながら編み出されていった。
- ・ キーワードはいくつかあった。長野県にこれだけの役者がそろっていたという印象をうけるがそれは「平時の信頼関係」に基づくもの。災害時だけ頑張ろうということを思ってもできない。
- ・ JVOAD として、準備会の段階から様々な大きな災害のお手伝いを行ってきた。
- ・ その中で、三者連携がうまくいったという印象を持つときは、必ず県庁側にキーパーソンがいた。災害救援の連携の柱は行政。行政の理解が大切。
- ・ 内閣府の研修会の目的は、次の長野県の古越氏をどう育てるか、ということで中核人材育成研修としている。
- ・ 外部支援は、主体は県であり地域であることは外せない。災害が起きるといつも JVOAD が行くとか、関係省庁が出るということではない。県内の対応がしっかりしていたので、外部支援を受け入れやすい環境があったと思う。
- ・ 国レベルで全国情報共有会議を行っているが、先ほど動画でご紹介のあった日生協も参加されており、これまで顔を見られる関係をずっと作ってきた。お互いの得意分野の把握。
- ・ OneNagano の災害廃棄物の話題があったが、次回も同じようにできるのかということそうではない。環境省の担当が、全国情報共有会議に参加されていたことがある。
- ・ 災害廃棄物の課題は、いつも課題にあがる。環境省から通知を出していただくが、災害時には読んでいられないし、災害時に初めて読んでいても遅い。
- ・ また、民間とのパートナーシップを構築していくために気づくことがある。様々な行政の書類をみると「ボランティアの活用」旨記載があるが、「活用」という表現でよいのか。上から目線ではないのか。行政から「活用」とあると傘下に置かれる印象をうける。
- ・ いかにも、パートナーとして、お互いの役割分担、できること、できないことや限界を認識したうえで、心を通わせることが非常に大事というのが長野の事例だったと思う。関係性の構築に努めていただきたい。

(2) セッション2：コメント

JVOAD 代表理事 栗田氏

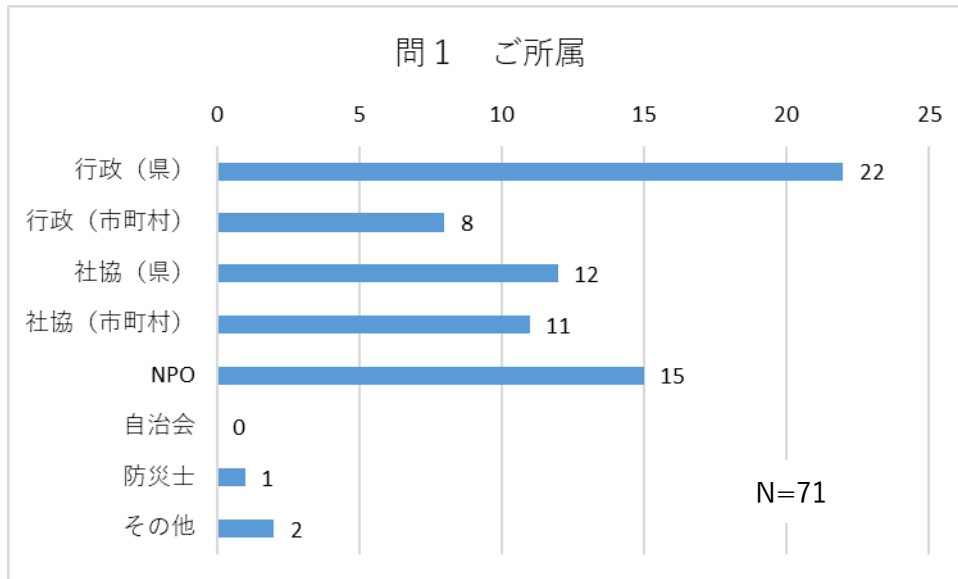
- ・ 情報共有会議は情報を出し合う場ではあるが、情報を出しっぱなしではいけなく、どこか拾うところが必要。
- ・ そのため、コア会議は必要な存在。ただ、コア会議で陥りがちなのは、情報を待つだけでなく情報を取りに行く視点が必要。情報が来ないからといって待つのではなく、取りに行き確認する。熊本地震の例では、開催場所をより近い会場にするという配慮がなされた。
- ・ 一番陥りがちなのは、県域とか中間支援は、現場感覚がないという誤解のイメージが持たれがち。コアメンバーであっても、現場をみて顔を突き合わせての対話が必要。

以上

3-3. 第2回アンケート結果

開催日 : 令和2年11月30日(月) 13時~17時30分
開催方法 : オンライン (Zoom)
対象者数 : 210件
回答数 : 71件 (回収率 33%)

問1 ご自身のご所属についてお聞かせください。



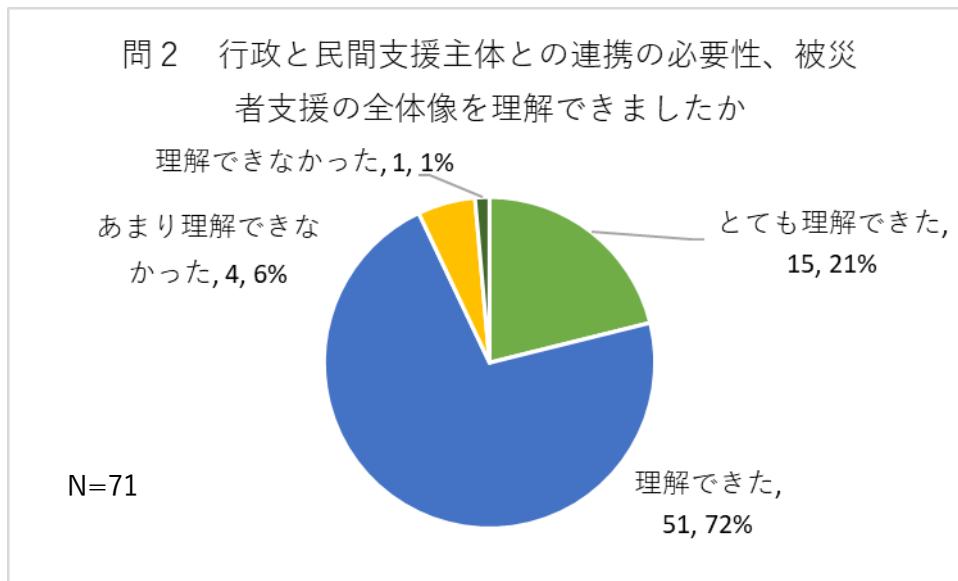
所属	件数
行政(県)	22
行政(市町村)	8
社協(県)	12
社協(市町村)	11
NPO	15
自治会	0
防災士	1
その他	2

その他

大学教員

埼玉県災害ボランティア団体ネットワーク(彩の国会議)

問2 事前動画「災害時の多様な主体連携の事例」を理解できましたか。



内容	件数	%
とても理解できた	15	21
理解できた	51	72
あまり理解できなかった	4	6
理解できなかった	1	1

理由

●とても理解できた

- ・ 実際に災害が起きた際の、県域における中間支援組織の連携事例について学ぶことができた。
- ・ 発災後の活動について、三者の立場での活動内容と連携したことによる成果をリアルに理解できた。
- ・ 当時どのような動きをされていたのか今回知ることが出来て大変勉強になった。
- ・ 具体的な事例であり、とても参考になる。
- ・ 事前の綿密な準備が必要だと感じた。
- ・ 行政職の職員としては、平時より、庁内の関係課との関係を構築していることが前提での災害対応となるため、災害時の多様な主体連携においても、平時での関係を構築した上で、災害時には細かなニーズまで対応していくことができると思いました。
- ・ 長野県職員の古越さんの動画の内容は具体的で分かりやすかったです。
- ・ 長野県の事例に対して、行政や社協、生協など、それぞれの主体からお話を聞くことができたのでよかった。
- ・ 行政の取り組みを具体的に説明いただいたのでわかりやすかった
- ・ 具体例を用いての説明で分かりやすかった。
- ・ 愛媛県の動きと比べながら聞くことが出来ました。
- ・ 令和元年台風 19 号の際は長野市内で活動していた為、今回の事前動画に出演されている方はほとんど現場で顔を知っている方々だった。

●理解できた

- ・ 資料も手元にあり、動画の為、繰り返し視聴することができ、第1回の研修よりも理解できる部分が多かった。今後も事前動画があると嬉しい。
- ・ それぞれの立場からお話を聞けたので全体像が見えやすかった。
- ・ 参考資料を見返すことで動画の内容が理解できた。
- ・ 短い動画に分けられていたので、内容が理解しやすかった
- ・ 災害対策本部へのNPOの参画及びその運用については非常に参考になった。
- ・ 長野県の災害対策本部のすぐ横の部屋にNPOの部屋を設けたり、本部の一員としてNPOの方に入ってもらったりと、「NPOの力を削がない仕組み」を作ったことが、連携していくうえでとても有効であったと感じた。
- ・ 長野での三社連携や、農業再生復興ボランティアプロジェクトの市町村災害ボランティアセンター、社協との連携について学ぶことができたため。
- ・ 各行政・団体・法人がバラバラに動いては、統率が取れず、地域のためにもならないため、情報を共有し、一緒に動くことが大切だと感じた。また、有事の時だけではうまくいかないため、平時からの付き合いが重要だということを改めて考えることができた。
- ・ 行政・NPO・社協などそれぞれの立場から、連携の手法等を具体的にご説明いただいたため。
- ・ 実際の経験をもとにお話をいただいたのでわかりやすかった。
- ・ 県レベルの事例であったが、市町村として県等との連携、情報共有の在り方、事前の対応、平時の連携等、参考になった。
- ・ 各種の団体からの報告が時系列で解説されていて良かったです。
- ・ 当県で出来るかどうかは別として、話が具体的で、目指すべきところが明確であったので。
- ・ 現場体験の中で、実感している。長野は支援に伺っているの、樹形が目についた。参考にしたい。
- ・ 長野県の取り組みについてそれぞれの立場からの話で理解しやすい。
- ・ 県がどういった支援主体と連携して動いておられたのか、具体例等も参考になり、イメージしやすかった。
- ・ 長野県の事例について実際に携わった方々から取り組みを共有していただくことで、全体の内容がより理解できたから。
- ・ それぞれの立場からの事例の話がきけ、参考になった。
- ・ 実際の現場での動きをそれぞれの立場から話していただいおり分かりやすかった。
- ・ 現場での様々な課題が出る中でいかに共有して解決にむけた取組みを連携して対応していたかが理解できた。
- ・ 現在実践中のため理解しやすい
- ・ 組織が連携していくにあたり、方針を決めることで組織が一体化しスムーズに連携できることが分かったため。
- ・ 実際に災害対応をされた、様々な立場の方たちの意見・体験談を聞くことができ、改めて自分が住む自治体の準備不足である現状を認識しました。
- ・ 理解はできたが、動画が途中で終了し尻切れな内容になっているのが残念です。
- ・ 動画では、資料の提示や字幕等がなく、事前に資料を印刷して視聴したが、なかなか理解に時間を必要でした。動画もラストがぶつ切りだったので、これで本当に終わりなのか、しばらく分かりま

せんでした。もう少し動画編集や資料の作成を丁寧をお願いしたいです。

- ・ 時間の都合のためか途中で終わる場面があったのと事前資料を確認しながら視聴していたが資料のどのあたりの説明かが少しわかりにくかった。
- ・ 動画は3回視聴。これまでペーパーないしはパワーポイントデータ等で理解する習慣により動画のみでは数回視聴しないと理解が進まなかった事と、ポイントをまとめる作業がないと理解が深まらず苦労しましたが最終は各講師のつながりを含め理解できたように思います。できれば各動画のポイントを事前に配布いただくと、効率的だと思いました。
- ・ しっかりと見ると非常に参考になるものでしたが、平時なかなか時間がなく、集中して見れない状況であった。

●あまり理解できなかった

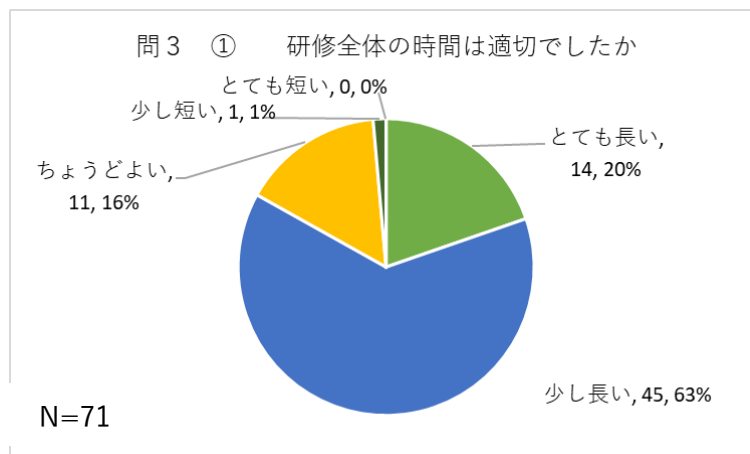
- ・ 動画の内容については概ね理解できたが、資料との連動制が少し感じられなかったため、何を重点的に理解して欲しかったのか意図を感じづらかった。
- ・ 県域での連携については、よくわかったが、実際の現場である市町村域と、どう連携できたのかが分からなかった。
- ・ 少し、感想をまとめるなどの個人ワークがあると、意見交換に入れたと思う。

●理解できなかった

- ・ 事前動画が送られておらず、見るができなかった。

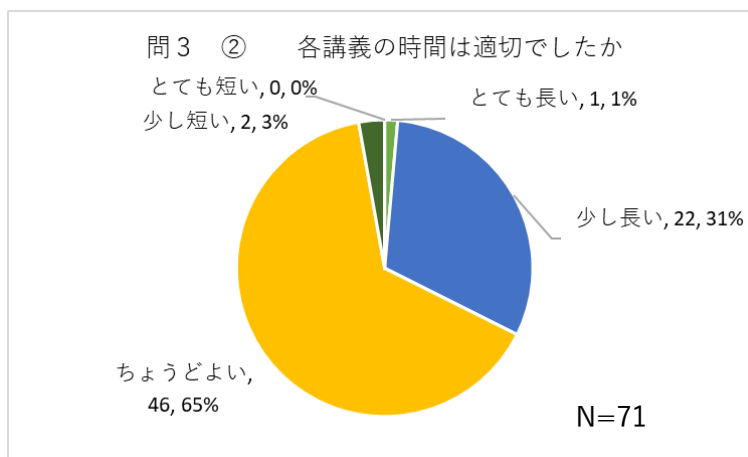
問3 研修会の運営についてお聞かせください。

① 研修全体の時間は適切でしたか。



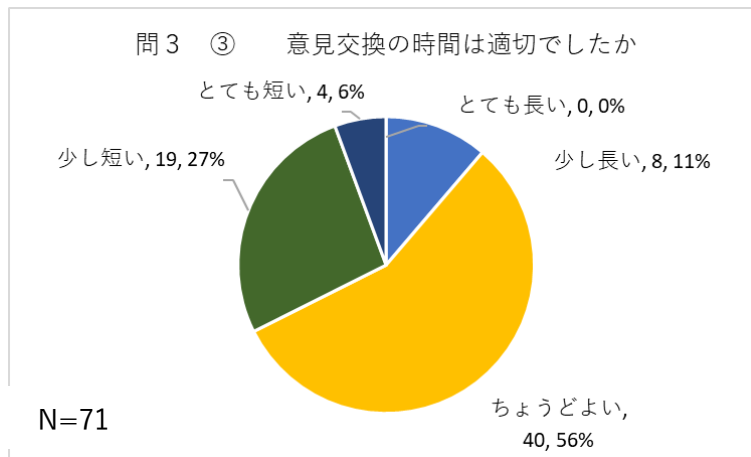
内容	件数	%
とても長い	14	20
少し長い	45	63
ちょうどよい	11	16
少し短い	1	1
とても短い	0	0

② 各講義の時間は適切でしたか。



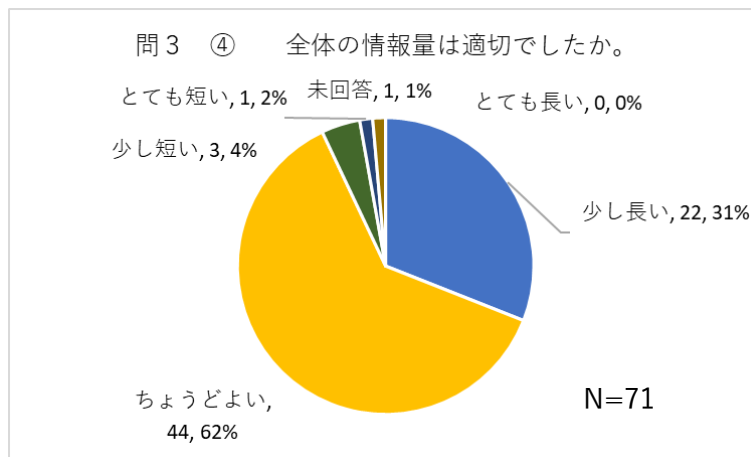
内容	件数	%
とても長い	1	1
少し長い	22	31
ちょうどよい	46	65
少し短い	2	3
とても短い	0	0

③ 意見交換の時間は適切でしたか。



内容	件数	%
とても長い	0	0
少し長い	8	11
ちょうどよい	40	56
少し短い	19	27
とても短い	4	6

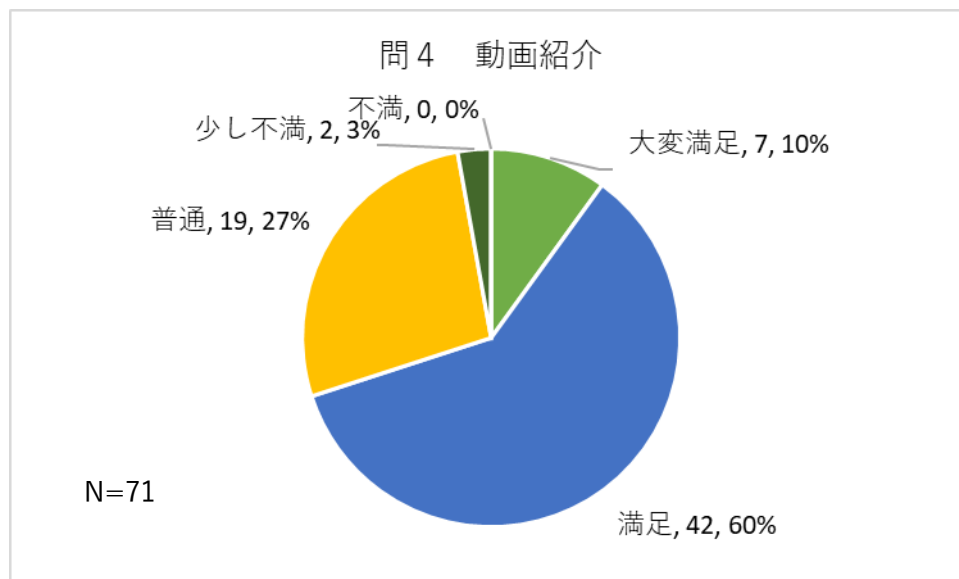
④ 全体の情報量は適切でしたか。



内容	件数	%
とても長い	0	0
少し長い	22	31
ちょうどよい	44	62
少し短い	3	4
とても短い	1	2
未回答	1	1

問4 研修それぞれの内容を5段階で評価し、その理由もお聞かせください。

動画紹介：



内容	件数	%
大変満足	7	10
満足	42	60
普通	19	27
少し不満	2	3
不満	0	0

理由

●大変満足

- ・ 各被災者支援主体の証言から、多角的に理解できた。
- ・ 当時の臨場感が伝わってくると同時に、平時からの連携の体制づくりの重要性を感じることができた。
- ・ 現実の災害の経験に基づいた事例の紹介であったため、大変参考となった。
- ・ 興味深く、勉強になりました。動画など、市町の研修で使わせていただいてもいいかと思いました。
- ・ 実際に起きた災害時の対応について具体的に知ることができ、特に、災害対策本部に NPO 等の協働機関が配置されている点はとても参考になりました。
- ・ JVOAD の方がお話しされた、「行政がボランティアの“活用”という表現をするのは上から目線」という言葉が印象的でした。災害時だけ力を借りようと思っても決してうまくいかないの、平時からパートナーとして連携し、信頼関係を構築していくことが必要だと感じました。
- ・ 情報共有会議について良く理解できた。自分たちは何をすべきか考えさせられた。

●満足

- ・ 他県の事例（特に好事例）を知る機会がなかったため大変参考になりました。
- ・ 熊本地震の際の対応が参考になったため。
- ・ 長野県の取り組みがよくわかりました。
- ・ 資料の構成と明城事務局長の解説が平易な言葉で分かり易く、行政以外の方が参加する研修に適していたと感じました。
- ・ 長野方式は体験的に好感している。各都道府県により又災害規模により異なるため、柔軟に参考にしたい。
- ・ 国、県、団体の課題等の解決に向けての取り組みが具体的に説明されていて参考になった。情報共有の重要性を改めて認識することができた
- ・ 具体例がたくさんあり、イメージがしやすかった。
- ・ それぞれの団体の経験に基づく説明はとても参考になった。また、明城氏のポイント解説も要点を簡潔に説明いただいたのでわかりやすかった。ただ、動画配信のため仕方のない部分だとは思いますが、若干聞き取りづらい部分があった。
- ・ 各主体の視点で、災害時の連携の際の動きが分かって良かった。
- ・ 長野県の取り組みについて、様々な実施主体によって捉え方や取り組みが異なることを知れて勉強になった。
- ・ 動画に非常にわかりやすくまとめておられ、それぞれの立場からの連携がきけて参考になった。
- ・ 実際の現場での動きをそれぞれの立場から話していただいておりますのでわかりやすかった。
- ・ 講師の説明がわかりやすかった。古越氏の内容が、具体的で非常に参考になった。
- ・ 長野県の3名の報告、特に古越氏の話しから、県の体制づくりとNPOを中心の近くに位置付けるということの大切さが良くわかりました。
- ・ 長野県、県社協、内閣府、JVOAD など様々な関係者から事例や課題を聴くことができ、とても参考になった。
- ・ 他県の先進的な取り組みを知ることができた。
- ・ 全体の会議だけではなく、テーマ別の会議を設けることにより、支援者と被災者がマッチングできる仕組みを構築していた。
- ・ 毎年発生する災害で、年々、各都道府県とも連携の状況が良くなっていること、新たな取り組みについて教えて下さり有難い。
- ・ 各県などの取組事例は参考になりました。直接、質問などできる時間が確保いただければ尚いいです！
- ・ 事前動画の背景、掘り下げは良かったが、事前動画と分ける必要があったか疑問（ワークにつなげる上で必要だったのは分かるが…）。
- ・ 長野のやり方は参考になります。ただ石川県でそれが上手くいくのかわかりません。
- ・ 担当の強い思いを感じたが、京都府において同様なことができるかは疑問に思った。
- ・ 災害ごみへの対応について、ボランティアの力によって膨大な量の災害ごみが無くなった時の、ボランティアありがとうという、街の雰囲気が変わったという話が印象的だった。津波や河川の氾濫による被害が多い中、災害ごみへの対応は困難を極めているが、官民で知恵を出し合い、ワンナガノのように対応ができたことが素晴らしいと感じた。
- ・ 多様な被災者主体がどのように連携したのかを知ることができたから。

- ・ 災害廃棄物処理における国の省庁間の速やかな連携プレー（廃棄物（環境省）→土砂（国交省）→農地（農水省））により、行政（公助＝救助）と災害ボランティアとの連携が速やかに進んだエピソードや災害ボランティアセンターの運営スタッフとして生協さんが積極的にかかわったこと、県災害対策本部に NPO センター（県域中間支援組織）の席が平時からあったことで本番でも速やかに入れたことなど、多くの都道府県で未経験のことが長野県において行われていたということを実感できました。
- ・ 災害時の情報共有会議の重要性を感じた。
- ・ 毎年発生する災害で、年々、各都道府県とも連携の状況が良くなっていること、新たな取り組みについて教えて下さり有難い。
- ・ 県庁の中に担当者を3名（他部署）配置しているのは、良いと感じた。1つの部署だけが担当をしている場合は、それ以外の部署が有事の際に何をしたら良いか分からず、指示待ちになる可能性が高い。意識付けが大切。とりわけ、愛媛県内においても長野県のりんごとみかんの差はあるが共通課題である生業支援、災害廃棄物処理連携等について具体的な取り組みは大いに参考になりました。
- ・ ONE NAGANO の取組について、なぜ話が持ち上がり、どこが中心となり旗を振り、どのように他団体へ声を掛けたのかを、分かりやすくまとめた資料等があれば嬉しいです。また、取組の良かったところ、反省点なども併せてご紹介いただければ。
- ・ 事前に連携できる体制づくりの重要性を再認識した。行政の人間ではない一住民として、災害への準備が不十分な現状に、不安を覚える。中間支援組織が災害対策本部に入り込むキッカケがあったことや、行政がそれを認めたことに驚きました。

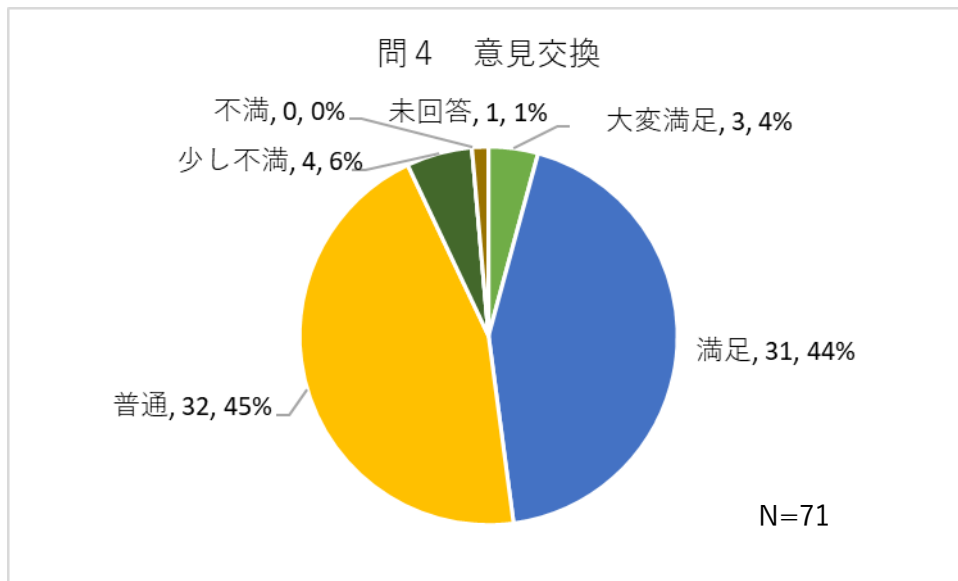
●普通

- ・ 事前予習した上での視聴だったので、重要なポイントを振り返ることができて良かったです
- ・ 研修会の主旨目的を簡潔に説明されていて、目指す場所がみえて良かった。
- ・ 実際の現場を経験したうえでの説明だったのでイメージしやすかった。
- ・ ポイントをおさえた内容でわかりやすかったが、事前のビデオの内容と重なる部分が多かった。
- ・ 内容としては、よくわかったが、事前動画と同じく、市町村域での活動については分からなかった。
- ・ 事前視聴でもよかったのではないかと思う。
- ・ 県域の担い手が市域の情報共有会議の話をしていたため、特に市町職員の参加者の方に違和感があったようです。
- ・ 担い手の実情から県域の担い手が作っても、市町村域のテーマに取り組まざるを得ないという落としどころ？について今後どうあるべきか？ 考えさせられました。
- ・ 会議には、何名くらいの方が参加していたのか、また、スタッフはどの機関から何名くらいが携わられたのか、さらに具体的に教えていただきたいと思いました。

●すこし不満

- ・ 事前動画を見た上で当日にも動画紹介の時間があったため、どちらか一方にさせていただけるとありがたいと思った。
- ・ インタビュー形式で、スライドがないため、講師の言葉だけを追わないと理解できない。また、質問者の質問も動画に入っていると、どのようなことに対して講師が回答しているのかわかるので、理解が深まると思う。各動画の音量レベルが同じくらいにそろえていただけると聞きやすい。

意見交換：



内容	件数	%
大変満足	3	4
満足	31	44
普通	32	46
少し不満	4	6
不満	0	0
意見交換	1	1

理由

●大変満足

- ・ 言葉だけよりも動画の方がインプットとして非常にいいです。
- ・ インタビュー動画で、話されていた内容のポイントとエッセンスを、講師の先生（明城さん、栗田さん）が大変的確にまとめられていて、とても理解が深まりました。また、他の人と比べ、聞き取りやすい声量と声質（通信環境）で、とても良かったです。

●満足

- ・ 解説いただくことでさらに理解が深まりました。
- ・ NPOや社協の立場からの感想を聞くことができ有意義であった。
- ・ 本県の各参加者からどのようなことが参考になったかを聞いたため。
- ・ 社協やNPOとの合同研修を控えており、防災訓練の取組が特に参考になったため。
- ・ 自分だけでは気づけなかった部分を他の参加者が取り上げてくれ、より動画の内容を理解することができた。また、他の自治体や団体の考え方を聞いて良い機会だと思った。
- ・ 県域での連携に比べ、市町村域での連携はなかなかうまくいかなかったとの話があったが、実際に県域の連携をどのように市町村域に落とし込んでいくかについて、今後考えていきたいと感じた。

- ・ コンパクトに要点を学ぶことができた。
- ・ それぞれの立場で精いっぱいの方が伺え好感した。大いに参考にしたい。
- ・ 動画視聴の際に「え？ここで切れるの？」と思っていましたが、繋がりました。立場は違いますが、一生懸命取り組んでいたことは伝わりました。
- ・ 県内で意見交換をした後、3県でさらに意見を聞き合うことができたのがよかった。時間もちょうどよかったと感じた。
- ・ 同じ動画を見ただけでも、行政・社協・NPO と各々異なる意見を聞くことができ、非常に参考となった。
- ・ 前企画官の方の気づき等、社協職員としては「日ごろから不満に思っていること」へ気づいてもらった嬉しさがあった。一方、発災時には私たちも「ボランティアを派遣する」等の感覚に陥ることがあったので、その戒めにも良い動画であった。
- ・ 主体をつなぐためのキーパーソン、特に行政を動かす手腕とそれに応える組織をどう作れるかについて知りたい。
- ・ いろいろな立場からの意見が聞けた。
- ・ 災ボラの立ち上げ訓練をとにかくやってみたことで、理解や連携が進んだとの意見は今後の自組織での取組みにも参考になった。
- ・ 少し、時間が足りず、話し合いが途中で終わってしまったところはあったが、県内の関係機関の意見が聞けて良かった。
- ・ 県内での官民連携の取り組み状況や、他県の連携状況についても知ることができたので、参考になりました。
- ・ 活発な意見交換ができた。
- ・ 各々が経験したことを相手に伝えようとする熱意が見られた。
- ・ 手元資料だけでなく、口頭での説明により伝わるものがあり意見出しやすい。
- ・ 気のせいかもしれませんが、事前動画と少し内容がかぶっていたような気がします。
- ・ それぞれの立場での話を聞く機会になった。
- ・ 手元資料だけでなく、口頭での説明により伝わるものがあり意見出しやすい。
- ・ 行政内部の危機管理、県民協働、福祉担当課の庁内連携、官民連携及び NPO、災害ボランティアの行政内部に明確に位置づけられている点、其々の強みを生かした連携（餅は餅屋）への地域資源（個人、団体）発掘、キーマンの発掘等を痛感致しました。
- ・ 各動画について、ふりかえりと追加情報をいただいて、理解度が深まりました。
- ・ 動画のふりかえりに、当事者がいなかったことに違和感がありました。当時のことをよく知る方が一人でもいれば、もっと活発な議論になったと思います。

●普通

- ・ 意見を出し合う時間がもう少し欲しかったです。
- ・ 岩手県は県の担当者とのやり取りが日ごろからできている方だとは思いますが、それでも認識のずれや考え方の違いがまだまだ大きいことが改めてわかりました。県の担当課同士のコミュニケーションが難しいようなので、間に入るなどして工夫をしていく必要があると感じました。
- ・ 埼玉県での取り組みとの違いなど、参考になりました。

- ・ 良かったです。
- ・ 時間的に、1人1人の感想共有で終わってしまい。深く議論ができなかった。
- ・ 他県の状況を知ることができ良かったと思う。
- ・ それぞれの立場で連携のポイントについて話しをされ、参考になりました。特に、長野県生協連の中谷氏の話で、生協が幅広い活動運営に関わっていることに驚きました。
- ・ 本県と本市で取り組むにあたり課題が共有できた。
- ・ 長野県の状況と福井豪雨の状況を比較し、当時の状況も参加者で共有できたのが有意義でした
- ・ 繰り返し伝えることで大切さは伝わってきましたが、少し時間が長く感じました。
- ・ 事前に見た動画との違い（追加情報）についてあまり感じませんでした。
- ・ 千葉に置き換えて、具体的な仕組み、連携の仕方についての考察までに至らなかった。
- ・ 県を超えての共有で、こちらのネットワークの状況があまりよくなかったため、相手側の発言聞き取りにくかったりこちらの共有がうまくいかなかったため、内容はわかりやすかったが、その部分で少し消化不良になった。

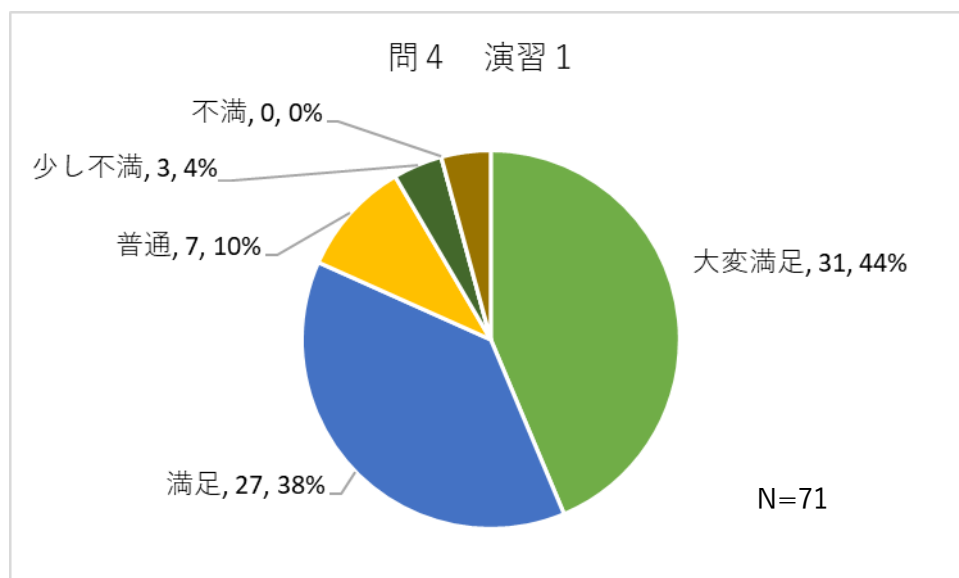
●少し不満

- ・ 他機関の意見を共有できた。
- ・ 研修全体として項目が多く盛り込まれているため、省略してもよかったと思う。
- ・ 時間が少し足りないように感じた。紹介動画は、事前視聴にして意見交換のみにする方が良いのではと思った。

●不満

- ・ 複数の参加者が1台のオンライン機器で受講している中で、さらに他県のグループと話し合うのは、難しかったです。地域性や個々人の間の空気の読み取りが、オンラインだと難しいですね。

演習 1 :



内容	件数	%
大変満足	31	44
満足	27	38
普通	7	10
少し不満	3	4
不満	0	0

理由

●満足

- ・ 他県のことについて知れたのが良かったです。岩手県はまだまだ甘いと感じました。
- ・ レベルでは昨年の東日本台風時に開催していたが、その取組を市町と共有できた。
- ・ 本県の情報共有会議の枠組みを知らない又は理解されていない参加者がいることがわかった。
- ・ 意見交換を通し、情報共有会議のイメージを具体化できたため。
- ・ 県が進めている官民連携や情報共有会議について知ることができてよかった。
- ・ て枠組みに落とす事で今まで気にしてなかったこと（例：情報共有会議を実際に行う会場）などの共通認識を得る事ができたのではないかと思います。
- ・ 枠組みについては、長野方式に好感を持てた。都府県により、また災害規模により柔軟に対応していくことが大切と感じた。
- ・ 石川県では枠組みされており、県防災訓練にも反映されています。
- ・ これまでのワークを通じて、実際に自分たちの自治体ではどういった情報共有の形が取れるのか、具現化できて良かった。今回参加した行政職員は福祉部局のみであったので、理解し難いところもあり、なるべく多くの関係部局が参加すべきと感じた。
- ・ 実際に開催するときのイメージがある程度できた。
- ・ 県内の他都市職員や社協の方からも意見が聞けて、枠組みを考えることができたため。
- ・ 実際に対応できるかどうかまで考えていくと、なかなか話がまとまらないところもあったが、県域での情報共有会議のアウトラインはぼんやりとではあるが把握できました。

- ・ 今まで県内で情報共有会議を開催したことはありませんが、定期的を開催している市の状況を参考しながら検討しました。今後県域で情報共有会議を開催する際のベストな枠組みを検討できたので、これを実現し、連携体制が強化できたらと思います。
- ・ 誰が主導権を握り、どこで開催し、誰が参加するのか、ワークしながらみんなで考えましたが、なかなか難しかったです。災害が起きたときにはこうしてゆっくり考える時間もないので、いまのうちに連携を取っておきたいと思いました。
- ・ 実際に、当県に当てはめて考えることで、イメージしやすかった。
- ・ 都府県の仕組みや現在の状況が把握できた。
- ・ 兵庫県の担当者より、県の関係者会議についての説明を受けたので、現状を理解できた。
- ・ 栃木県では昨年度中に「栃木県災害ボランティア活動支援方針」を策定しており、その中で情報共有会議についても記載があり、内容の理解ができた。
- ・ 地域や災害の規模で対応を柔軟にしていく必要があると感じた。大変参考になった。
- ・ 主体を都道府県で考えるか、市町村で考えるかにより回答が変わる。受講者に市町村がおらず、都道府県行政・社協だけで受講する場合もあるので、もう少し細かな仮設定が欲しかった。
- ・ 県内全体の動きについて確認することができたから。
- ・ 他市の状況が確認できた
- ・ 改めて自県の取組等について振り返ることができ良かった。今後の担い手育成、市町域の三者連携推進のヒントもいただきました。
- ・ 行政の担当者が来ていたが、何を話し合っただけなのか、そもそも緊急時お互いが何をすることになっているのか、どんな災害対応があるのか等、情報共有会議に対する認識が弱いことがあり、話し合いが上手くいかなかった。しかし、他県の企画内容と比べることで、現状のレベルを参加者が共有するきっかけになったと思います。

●普通

- ・ ズームの使用により会場が分かれているため、意見集約に時間がかかり、情報共有や意見交換ができなかったため。
ワークの課題があっても、埼玉県の場合に当てはめて検討してしまったので、解説が周知できていなかったように思います。
当方のとりまとめの力量不足なのですが、本県参加者間でテーマについて検討する時間中、“言いたい放題”の状態になってしまい、発表資料の作成に至らないで時間が終了してしまう。
- ・ 研修プログラムにおいて、意図されていることの理解はできたが、行政(千葉県)の積極的な姿勢、理解が見えず、中途半端な内容になったように思う。
- ・ 社協や行政のスタンスが問われていると感じた。
- ・ 県内でどのような仕組みになっているのか改めて話を聞くことができよかった。それが市町にどのように伝達されるのかももう少し話できればよかった
- ・ 愛媛県ではここ2年半ぐらい、ずっと共有会議を続けていますが、そこまでではないにしろ他県でも行われていることが分かりました。
- ・ 他県を参考に本県としてのイメージはできたものの実際に取り組めるかについては課題があると感じた。やはり行政が主体的に枠組みを考えてほしいと感じた。

- ・ 時間切れにより十分に議論できない項目もあった。
- ・ 枠組みを決めるには時間が足りなかった
- ・ 主体を都道府県で考えるか、市町村で考えるかにより回答が変わる。受講者に市町村がおらず、都道府県行政・社協だけで受講する場合もあるので、もう少し細かな仮設定が欲しかった。
- ・ 情報共有会議を自分事化して検討することができました。
- ・ 主体を都道府県で考えるか、市町村で考えるかにより回答が変わる。受講者に市町村がおらず、都道府県行政・社協だけで受講する場合もあるので、もう少し細かな仮設定が欲しかった。
- ・ 県内全体の動きについて確認することができたから。"
- ・ 他市の状況が確認できた。

●少し不満

- ・ 県によって書き込みが少なかったり、説明が分かりにくかったりするので、共有のためには具体的な指示が必要と思います。
- ・ 自治体職員が主のワークショップであれば、この研修とは別に自治体職員のワークショップスキルを向上させるべき。オンライン会議のリテラシーもできていない。
- ・ 時間が短いため

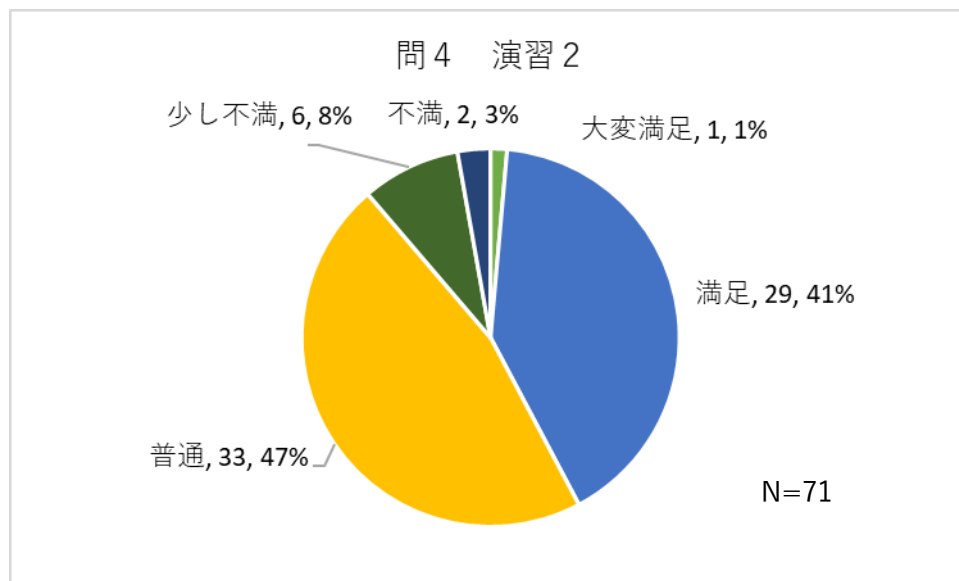
●不満

- ・ 仕方が無いのですが、参加している都府県それぞれで3者連携に関する進捗に差があるので難しいとは思いますが、各都府県にファシリ役をきちんと置かないと参加者側としては非常にモヤモヤします。

特に、コメントを求める都府県に対しては事前に仕込んでおいた方が良いと思います（誰が発言するか？で無駄な時間が流れ、音声出せない事で更に無駄な時間が流れ、終了時間がかなり超過したのは頂けませんでした）

- ・ 多くの都道府県が、多様な主体との連携を模索している最中だと思います。そのため、＜情報共有会議＞の必要性の理解度や連携の立ち位置について研修生間でばらつきがあるなかで、ディテールの細部にこだわって話し合う演習はとても難しかったです。（20分間で12項目を11人で話し合うのは難しいです。（1項目1人あたり9秒））ゆっくり時間をかけて、信頼関係のなか、本県なりの情報共有会議の大枠（枠組みイメージ）について話せばよかったです。急に結論を求められたような気まずさがありました。本県においては、仮の話として進めましたが、項目が細かいので前提がぶれやすく、大枠の話すらしにくいものになってしまいました。

演習 2 :



内容	件数	%
大変満足	1	1
満足	29	41
普通	33	47
少し不満	6	8
不満	2	3

理由

●満足

- ・ いざやってみるとかなり難しかったです。まずは関係機関同士がなにができるのか、できないのかをもっと深掘して把握しておく必要があると感じました。何となく知っているつもりではありますが、関係機関の各担当課が何を受け持っているのかもしっかり把握してまとめる必要がありそうです。その上でどこを誰が進めていくのかを検討していく必要がありそうです。まずは県域からやっていきたいと思います。
- ・ ケースに関する情報量が少ないことから様々な原因が想定でき、幅広い意見交換を行うことができた。
- ・ 課題の解決は一朝一夕にはいかないと感じた。
- ・ 行政以外の視点による意見が参考になったため。
- ・ 難しい課題であると感じたが、こういった課題が実際の災害時には起こり得るということを考えると、こういった形式でのワークショップは平時の内から取り組んでいかなければならないものだと感じた。こういったワークショップを市内の NPO 団体等を含めて行えるような体制づくりを進めていかなければならないということが理解できた。
- ・ 相対的に行政への意見が多く感じられた。情報発信に細やかさを感じない。組織の継続性、連携の未熟さ等、意見が多かった。とくに庁内の横の連携が不十分の意見が多かった。
- ・ 行政、県社協を中心に NPO 等の団体が協力して進めていけば、課題を克服できると感じた。災害系の団体だけでなく繋がる必要がある。県主導で取り組んでいく姿勢が見られた。危機対策課が入

ってこないことが少し問題になっていました。

- ・ 行政よりも社協や NPO の方々のほうが経験値が高く、非常に勉強になった。
- ・ 県域の情報共有会議と、市域の情報共有会議での議題の振り分けについて検討すべきだと感じた。
- ・ ケースについて具体的に考えることができ、ケースからは見えない様々な課題もみえてきたため、役割分担や実際の状況を想定した
- ・ 訓練の必要性を改めて感じた。
- ・ まだまだ課題はつきないと感じた。実際に実行したことがある県についての発表が参考になった。
- ・ やはり、複数の組織が連携すると、思わぬ情報が出てくると感じた。
- ・ 各組織の方向性が感じられない部分があった。横のつながりも不十分な為、中核となる組織を早急に決める必要があると感じた。
- ・ 課題や事例などを提示されることで、より考えが進む。
- ・ これまでゆっくりと県や社協と振り返りや事業について話す機会がなかったためいい時間となりました。
- ・ 参加されていた NPO の方や社会福祉協議会の方が知識が豊富で、自分では思いつかないような解決策や提案があり、官民の連携の重要性がよく分かった。
- ・ 情報共有会議を開催するときに備えて話すことができたから。
- ・ 後日お送りいただいた解説に書かれているようなことを自然と話し合うことができよかったです。
 - ・ 大規模災害の 1 週間後という状況付与なので、事例のとおり現場では混乱しがちなことも、落ち着いて話せば、解決できる場として<情報共有会議>をやっていきたいと研修生同士で一致できたのは、収穫でした。
 - ・ 支援を断ったり、滞ったりするには、必ず理由もあるはずなので、それを解きほぐす<情報共有会議>を目指していけたらと思いました。
 - ・ また、このことは避難所での救助活動（公助）に責任を持つ市町村が今回研修に参加されていたので、より理解することができました。
 - ・ 演習はとても良かったのですが、時間が足りなかったです。
- ・ 行政庁内の横のつながり・連携の重要性や、災对本部の位置づけや官民連携のための部屋の確保など具体的な取り組みを知ることができた。
- ・ 課題や事例などを提示されることで、より考えが進む。
- ・ 自身の地域にどのような NPO・ボランティアグループがあるのか知っておく必要があると感じた。
- ・ 今回は、ケースが 3 つ準備をされていましたが時間の関係で避難所のケースでした。ケース設定の内容が未経験等によりワークが進まない、深められないのもあり苦勞しました。合わせてシートへの記入要領の説明が付記されていると良いと思いました。
- ・ 前半のワークと同じく、なかなか意見が出ず具体的な対応策が出ませんでした。
- ・ 課題対応については、近年被災を受けた自治体との間で、経験の差が大きいと感じました。
- ・ 体制整備に向けて、他県へ情報収集に行く（聞く）ことを提案してみようと思います。
- ・ 時間が短いため

●普通

- ・ Zoomの使用により会場が分かれているため、意見集約に時間がかかり、情報共有や意見交換ができなかったため。
- ・ 他県との違いなどから、本県の情報共有会議の方向性などが共有できました。
- ・ 上記と同様、本県参加者間で検討する時間中、“言いたい放題”の状態になり、発表資料の作成に至らないで終了してしまう。
- ・ 研修プログラムにおいて、意図されていることへの理解はできたが、行政（千葉県）の積極的な姿勢、理解が見えず、中途半端な内容になったように思う。
- ・ 改めて、災害が起きる前に災害ゴミの捨て置き場の事など庁内で誰に聞いて判断を下すかなど決めておく必要があると感じた。
- ・ 県、市町それぞれの中で、情報共有は必要と感じた。
- ・ 既存の社会資源では対応が難しい部分があったが、他県の発表で参考になった部分もあった。
- ・ とても面白かったのだが、ケース1だけでなく、他ケースについても議論する時間を設けていただきたいかった。
- ・ 設定があったので、意見を出しやすかった。
- ・ 事例では、NPOからは、1避難所での出来事がニーズとして上がっていたが、それを全県的に広く考えることが難しいと感じた。
- ・ 情報共有会議でできた情報について、自分の部署で担当ができない場合、どこの部署、団体が対応になるのか、またどのような対応をすれば課題解決につながるのかが難しいと感じました。
- ・ 自身の知識不足により、難しく感じてしまった。資料をもとに次回までに復習をする必要があると感じた。
- ・ もう少し議論を深められれば良かったが、時間にも限りがあった。
- ・ かなり具体的な検討内容のため、情報共有会議の設置が決まっていない自治体には、非常によいワークだった。
- ・ 状況の設定はあったが、シートの記入方法等説明が足りない部分があったように感じた。
- ・ 自県ならどのような団体に関わってもらうのか、団体Aにどう関わってもらうという記載なのかなど、全県で統一した記入にはなっていないと思う。
- ・ 課題や事例などを提示されることで、より考えが進む。
- ・ もっと長く議論や共有の時間がほしいと感じました。また、付与する条件を増やすか、答えるべき課題が絞り込まれていたほうが議論がしやすく、共有の際も短時間でできると思うので、グループ内での議論と多くの自治体の情報を得ることのどちらに重点を置くかがよりはっきりしているとよいと感じました。

●少し不満

- ・ 時間が足りない
- ・ 時間が短いため
- ・ 自治体職員が主のワークショップであれば、この研修とは別に自治体職員のワークショップスキルを向上させるべき。オンライン会議のリテラシーもできていない。
- ・ 時間が短いため

●不満

- ・ 前半のワークとまとめて述べます。ワークの内容が、個々の避難所の問題などにフォーカスされており、県単位の情報共有会議でそのような個別具体の事例を扱うのであれば、市町の情報共有会議と重複してしまうのでは？と、混乱してしまいました。
- ・ 一緒に参加されていたNPOの方に、「この研修は、市町で情報共有会議ができないことを前提にしているのではないか。うちの場合は市町で情報共有会議を作る計画が進んでいるので、市町単位では個別事例を共有し、県では面でのサポートを協議する場として機能する」と解説していただいて、納得できました。
- ・ "情報共有会議が課題の共有や関係性作りを越えて企画や実線の間だと感じられてしまい、現場を知らない人にとっては「災害ボラセンと同じくらいのエネルギーが必要なものを被災地内にもう一つ設置しなければならないのか？」と不安を感じた人がいました。
- ・ ワークのあり方としてわたし自身がそういう罠に陥りかねないと気づかされました。
- ・ 「情報共有」の会議であること、その結果を受けて「参加団体それぞれが主体的に」活動を考えて実践するのであって、「情報共有会議そのものが企画運営主体ではないこと」をもっと判りやすく伝える方法を模索必要だと感じました。

Q5 全体のプログラムを通じ、今後の研修プログラムや運営等についてご意見・ご感想等ございましたら、ご自由にお聞かせください。(自由記述)

動画について

- ・ 参考になる情報が多く非常に有意義な研修会だと思います。一方で情報量の多さから、理解しながら聞いていくのに苦労した部分がありました。要所で栗田氏や明城氏がポイントをまとめてくれたので非常に助かりました。動画による説明の場合であれば、動画の後にポイントをまとめたスライドなどを提示いただくなどがあるとさらに理解しやすいと思いました。
- ・ 事前の YouTube & 配布データ資料は、とてもわかりやすく、有用だった。当日の説明内容が事前の資料とほぼ重なっているのは、残念。
- ・ 文字にしなくても、石垣さんの時の様に、やり取りが聞こえるというのは良かったです。
- ・ 動画紹介は、事前視聴と、意見交換につなげられるような個人ワークをしていれば、その分意見交換や、グループワークの時間に使えるのではないかと思った。
- ・ 研修当日の証言動画について、もう少し分かりやすいように編集をしていただくと有難いです。
- ・ 研修当日、収録した映像で学ばせていただきましたが、事前課題に含めることはできなかったのでしょうか。動画をカットしていただいたり御苦労されていることは理解していますが、講義と演習のバランスを、現在の8対2から4対6程度に変更していただけたら有り難いと考えております。
- ・ 事前課題の振り返りも必要かもしれませんが、文字で質問項目を出した後にコメントが入るなどあれば、より分かりやすいと思います。
- ・ 文字にしなくても、石垣さんの時の様に、やり取りが聞こえるというのは良かったです。

意見交換について

- ・ 意見交換の中で他県の方から「各機関の担当者が同一認識を持った同じくらいのレベル感の人たちじゃないとやりにくいのでは」という意見がありました。それは実際その通りだと思いましたが、同じレベル感に達するのがかなり難しいと感じています。今回改めて感じた認識のずれや考え方の違いをどのように近づけていくか、それは各領域の努力と工夫だとは思いますが、そのようなことがこの研修の中でできるとありがたいです。次回もよろしく願いいたします。
- ・ 都府県内における意見交換は、時間があっという間に過ぎてしまい、もう少し議論したいと思うこともありました。
- ・ どこを削るか考えると中々難しいのですが、全体での共有方法を変える(発表自治体数を減らす、事前に指名しておく等)ことで少し時間的余裕ができるかと思っておりますので、改善できる部分があれば、ご対応いただくと幸いです。
- ・ 他県との情報共有の時間が、もっとあると良いと思いました。
- ・ 各都道府県はコロナ禍のなか、リスクを負いながら一同に会しています。県内各地から時間を掛けて集合している研修でありながら、5時間近い研修のうち、演習(講評・共有の時間は含めず)の時間が1時間に満たないというのは問題だと思います。
- ・ 遠くまで行くことなく他の様々な自治体・団体の方の話を聞くことができる今回の研修の運営方法は、他の業務にもとても参考になります。せっかく同じ時間に予定を空けているので、可能な限り議論や情報共有に時間を充て、講義関係に関しては、すべて事前に動画を見る形でもよいのではないかと感じました。

演習について

- ・ 事前課題の振り返りも必要かもしれませんが、文字で質問項目を出した後にコメントが入るなどあれば、より分かりやすいと思います。
- ・ ワークする時間は事前に演習課題を与えてもらえればその場で考える時間が減るかもしれません。
- ・ 各会場でワークする時間を多く取るよりも、ワークに対するコメントや質問に答える時間を割いてもらえるとありがたい。
- ・ 意見交換や演習の後に、他県の情報を共有する時間は自分の県に参考にできるので重要ですが、長引いてしまうと時間内に研修が終わらないので、その際は1つの県だけに発表してもらう等、どこかの部分で調整していただきたいです…
- ・ 演習において、各都道府県に分かれて話し合う機会ととてもいい機会であった。少し時間に余裕が欲しい。都道府県間での意見交換については、進行役を決めていただくとよいかも。時間内に終わっていただきたい。
- ・ 演習の発表資料作成について、すべての項目が自由記載だと時間内にまとまらないので、「その他」での自由記載を残しつつ、「選択式」にしていただけるとありがたいです。
- ・ ズームの使用による研修のため、県内同士でも意見集約に非常に時間がかかり、ワークの意図の共有などができないままグループセッションに進んでしまったため、事前動画を視聴したうえで事前に課題に対する意見や質問などを取りまとめたから研修に入るとスムーズなのではないかと感じた。

他県の事例が知れて良い

- ・ 県内に限らず、他都市の災害対応について、現状及び課題を共有していけることについて、とても有意義なものと感じました。他都市のことを参考にしつつ、本市に当てはまる災害対応の形を考えて行ければと思います。

運営面

研修時間への要望

- ・ かなりの情報が網羅され、ワークも3つあって、それぞれの項目ごとの時間は不足気味と感じますが、トータルでは時間的には長く感じます。もう少し、ワークを減らして、報告者に質問する時間があつた方が良いのではと思います。
- ・ オンライン研修会は、4時間半が限界だと改めて感じました。ただ色々な工夫が施されており、最後まで飽きずに参加することができました。
- ・ 終了時間が、17時30分で実施しているが、地方は中央とは異なり、終業時間が早いので配慮いただきたい。働き方改革の流れで、非正規職員の働き方が問われている。災害V担当職員は非正規職員であり、非正規職員は超過勤務をしないこととしているため。
- ・ なるべく予定時間に終わるようにしていただくと嬉しいです。(研修会自体も長いし、オンラインでもあるので)
- ・ やはり研修時間をできれば17時に終わる時間で調整いただきたい。
- ・ 研修時間が超過すると、その後の予定に響くので、可能な限り、時間内にまとめていただきたいと思います。
- ・ 県内各地から研修会場に集まっており、13時開会では昼食もままなりません。研修視聴のための接続準備もあることから、開会を13時30分からに変更していただくことを希望します。
- ・ 本県の終業時刻は、法令に基づき17時15分までとなっております。また、コロナ禍で時差出勤も行われています。そのため、本研修により時間外勤務が生じており問題となっております。研修終了後には終業時刻になる前に自所属へ連絡する時間が必要であり、また、県内各地に帰宅するための時間確保も必要です。閉会時間を16時45分に変更していただき、終了時刻の厳守を希望します。"
- ・ 本県も、様々な団体から研修に参加していただいておりますので、17時30分での終了を厳守いただきたいです。研修内容として消化が必須なものがあるだろうということはこちらも理解しておりますが、スケジュールが押せば、休憩時間の縮小や、内容の省略など、研修時間内での終了を第一に進行をお願いします。特に、ファシリテーターの進行に時間節約の余地があると思われれます。ネット会議ですので、音声や画像など多少のトラブルは仕方ありませんが、意見発表を事前に都道府県へ打診するなど、効率化を図る方法を取れないでしょうか。

資料について

- ・ 資料の送付が直前となり、読み込む時間が十分に確保できないため、1週間くらい前に送付いただけるとありがたい。
- ・ 言葉のみの説明はメモをとっていなければ忘れてしまいます。それぞれの説明における要点を記載したレジюмеがあると理解が深まると思います。
- ・ 今回は事前学習もあり、時間を確保し取り組ませたいいただきましたので当日理解が進んだことは間違いないのですが、当日動画証言者として5名の方々が貴重な体験や提言をいただきましたが盛りだくさん過ぎて消化不良気味です。運営の熱量が伝わってはきますが時間配分を含めご検討ください。また、当日のメール配信は会場への移動もあり見れないので、前日までにお願いします。

Web 会議について

- ・ オンラインで行うなら自治体職員のオンライン会議のリテラシーを事前に普通レベルにしておく必要がある。ワークショップの運営スキルも出来ていない。IPW の研修を受けられるような FD 研修の必要性を感じる。

一般的感想

ありがとうございました。

- ・ 中間支援組織との連携方策について、本市でも平時からのネットワークを構築していく必要性を感じたため、とても参考になった。
- ・ 事前に動画や資料を確認しての受講は第1回と比べてよかった。

その他ご意見

- ・ 地域の災害ボランティア支援ネットワークを構築する際にも、「このネットワークは、県行政が中心となるのではないかな？ 県行政が中心となるものでなければ協力できない」と言われる団体もあった。
- ・ また、今回も本県からは、防災担当者は参加しないという判断であった。
- ・ 今回長野県さんの報告をお聞きし、県行政の意識及びキーマンとなる人がいることの重要性が確認できたが、今のところ本県ですぐにキーマンとなる人の名前や顔が浮かばない状況にある。
- ・ 県行政から出てくるのが望ましいが、他都道府県において、県行政をうまく巻き込めた事例等があればお聞きしたい。
- ・ 研修の意図することは理解できるが、具体化（三者連携）につながらなければ意味はない。県の姿勢が曖昧（理解不足）に感じられ、研修への期待感が、薄れてしまう。課題は研修内容ではなく、別なところにあると考える。当方を含め NPO の災害対応にかけるマンパワー不足は否めず、必要性を認識しつつ、行政側も NPO 側も力不足だと思われる。→さて、どうしよう！人材育成、掘り起こし、連携に向けた動きをどう具体化するか、頭の痛いところである。
- ・ 今回のテーマ「情報の共有会議」については、喫緊の課題であり、促進の切っ掛けになることを願っている。災害対策は広範であり、切り口は何処であれ大切な切り口となるでしょう。
- ・ 情報の発信や収集を県が窓口となり、取りまとめてくれれば NPO 等の団体は動きやすく協力でき

ると思います。2回開催されましたが、行政、社協、日赤、当会 立場が違いすぎて、意見の集約は大変です。しかし今回の研修に参加している方々とは、普段から深い関係にあるため（たびたび顔を合わせることが多い）災害時には円滑な関係で取り組みます。やはり普段から平常時から連携できる関係づくりをしていたほうがいいです。石川県 NPO 活動センター、県民交流課、日赤、当会は担当者の移動があっても同じテーブルにいつもついています。

- ・ ワークショップの5択にはあえて「不満」と回答しましたが、3者連携の必要性をどのように実感してもらえますか？ 3者連携の良さを感じるためにはどんなワークが良いか？ などなど、わたし自身も悩みながらやっていますが、その難しさを改めて感じることはできました。
- ・ 「全国情報共有会議」について情報提供いただきましたが、名称を「東京（関東圏）支援団体情報共有会議」とした方が実態に即しているのではないのでしょうか？被災地受援側の参加がない「情報共有会議」は片手落ちの情報共有しかできていないので、「全国情報共有会議」と呼ぶには違和感があります。もちろん、JVOADさんや全社協さんはそれぞれ被災地のNPOや社協の声をしっかり聞いていただいて代弁をしてくれているという信頼感は持っていますが、やはり首都圏からの支援側目線による代弁であり、被災地側の代弁者である各県域の担い手が参加できる枠組を検討していただくと、より実態に即したものになると感じます。（災害時にそんな時間を取ることで自体がストレスだ、という事は想像に難くないので、具体的にどうすれば、という点は難しいですが、第1回アンケートでも書いたように、オンラインで現地から、会議にフルタイムでなくても参加できる枠があればまた違ってくるのでは？と思います）
- ・ 情報共有会議の運営のについて、第一歩目のイメージを掴むことが持つことができました。
- ・ 過去の災害での事例を学ぶ必要があると感じました。事務局をどの機関が運営するのか、行政かNPOか社会福祉協議会か自治体の状況によって違ってくると感じました。
- ・ 都道府県と市町村レベルでのボランティアの考え方が違いすぎているような!!
- ・ 全ての研修が終わったあと、問題がありそうな県へ、何かしらのフォローがあればと思います。
- ・ 当県は、県職員の参加が少なく、管理的立場の方も参加していないため、担当者レベルで話が終わり、災害への準備につながらないのではないかという危惧があります。
- ・ NPO（ボランティアセンター）の立場のため、県職員とは異なり発言力もなく、担当課・管理職の立場の人へ伝えることが難しい現状があります。
- ・ 災害対応について、非常に不安が大きい県のため、体制づくりに向けたご助言・ご支援をいただける仕組み等のご検討をいただければ幸いです。
- ・ 特になし

以上

4-1. 令和2年度 官民の多様な被災者支援主体間の連携促進のための 中核（コーディネート）人材育成研修会第3回プログラム

（1）概要

- ・日時：令和3年1月20日（水）13：00～17：30
- ・オンライン（Zoom）
- ・主催：内閣府（防災）

1. 開会（13：00～13：15）

挨拶：中尾晃史氏（内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当））
第3回研修オリエンテーション

2. 話題提供：被災者の困りごとの変化とその対応（13：15～14：30）

話題提供

諸留逸氏（内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当）付参事官補佐）
池尻憲二氏（社会福祉法人熊本県社会福祉協議会 地域福祉部 地域福祉課）
高木聡史氏（一般社団法人 minori 代表理事）

進行・解説：明城徹也氏（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）事務局長）

休憩（14：30～14：45）

3. 演習：被災者支援のケース検討（14：45～17：20）

進行：杉村郁雄氏（日本ファシリテーション協会災害復興委員会）

解説：栗田暢之氏（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）代表理事）

高橋良太氏・小川耕平氏（全国社会福祉協議会 地域福祉部長）

菅磨志保氏（関西大学社会安全学部准教授）

※途中休憩を含む

4. 閉会（17：20～17：30）

第4回研修会 オリエンテーション

挨拶：諸留逸氏（内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当）付参事官補佐）

4-2. 有識者等コメント

(1) コメント：ワークショップ後

JVOAD 事務局長 明城氏

- ・ 状況付与の内容を「コミュニティ形成」としたが、想像力を働かせながら進める部分が多かったのではないか。
- ・ NPO の立場としては、この時期にどこと相談をし、支援の中心になるのはどこなのかが大きなテーマ。
- ・ 支え合いセンターで調整を行うのか。行う場合は、中心が県なのか市なのか。そもそも支え合いが中心となっても、調整までは難しいということになるのか。そうであれば、中間支援組織を活用していくのかと。
- ・ 仮設期になると県の関わりは薄まっていくことがこの時期のコミュニティ支援で気になるところ。
- ・ 集まる場についても大切。仮設の場合は、集会所がどこにできるかということが重要になる。
- ・ 一方、みなし仮設や在宅避難者の場合、既存の公民館等が被害を受けている場合は代わりの会場をどうするか。
- ・ 集まる場所の復旧は、行政としてはどういう形でできるのだろうか。民間支援が必要なのかといったところが、これまでの情報共有会議で話題になった点であった。
- ・ コミュニティ支援といっても、様々な方法があるため、事前からの検討が出来ると望ましい。

全国社会福祉協議会 地域福祉部長 高橋氏

- ・ 誰が中心になるかは本当に難しい。支え合いセンターが受けきれぬのか。生活相談員さんは専門職である場合もあるが、最初から専門ではなく、徐々に経験を重ねていくことになる場合が多い。
- ・ サロンも、ただ集まるだけではなく、どういう風に主体形成をしていくかが大切。主体者が運営していくことを目指していくことになるため、力量は問われていく。
- ・ まちづくり系 NPO や、社協の中には CSW (コミュニティソーシャルワーカー)、地域福祉、ボランティアセンター、生活支援コーディネーターさんもいるため、巻き込んでいくこと。
- ・ 民生委員、ボランティアグループ、大学生といった方々と、平時からネットワーク化していき、協議していくことが大事。
- ・ みなし仮設はどうするか。分散しているし、住民自体も積極的にはなかなか集まってこない。コミュニティづくりにはならなくてもアウトリーチは考える必要がある。コロナ禍で、アウトリーチもしにくい場合、回数を増やししながら人数を増やす等工夫をしていくことが必要。

関西大学 社会安全学部 准教授 菅氏

- ・ 実際に被災経験があるところは、当時のことから見えているのでどういう団体が動いて、ネットワークがつくられたのかが想像できる。
- ・ この時期は、コミュニティづくりもそうだが、一人一人の被災者にとっては生活再建の本番に入っていく。次の生活再建に向かって、拠点となる仮設住宅のコミュニティと、主体形成と場づくりが大事。
- ・ 生活再建のサポートは重要な視点。情報を届け、「場」の中に生活再建の支援を組み込んでいく視点が大切。
- ・ 過去に災害が経験あるところは、組み合わせるイメージができると思われるが、今ある資源を

組み合わせてつながりを築いていくことが重要な視点である。

内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当）付参事官補佐 諸留氏

- ・ コミュニティ形成では、孤立していく人もでてくる。また、見守りをしていく人への支援をどうするか。
- ・ 要配慮者名簿などを社会福祉協議会とも共有していくことになるが、平時からルール作りを進めていくことが大事。
- ・ 行政としては、施設管理者としての責任としての面として、公の施設以外にも使用できる施設の情報収集と整理をすすめていただければ。

JVOAD 代表理事 栗田氏

- ・ 研修会で伝えたかったこととして、災害が発生し「フェーズごとに課題が変化するため、対応は異なる」という点。行政の防災担当部署の方は、仮設の話をする場合は、福祉部局との連携が必要なことを実感いただけたのでは。
- ・ 発災し、避難所に行くまでがひとつ。その後、仮設に移るまでが一つ。
- ・ 仮設住宅で生じる問題は明らかになっている。どういう方々にはいっていかというコミュニティ形成を意識していくことが大事。
- ・ 町内会・自治会の非加入者の問題。または、会長が一人で頑張っていて、行政からも要望を重ねていき疲弊していくという問題がある。
- ・ 支援をする側からすると、仮設住宅はわかりやすいので、かえって支援が入りすぎてしまい、「支援慣れ」ができることも言われている。
- ・ 仮設住宅に対する問題点も、フェーズが変わるごとに、課題が変わる。
- ・ 「昨日大丈夫だった人が今日も大丈夫」ということではない。キメ細やかな対話の中で、困っている人の状況を把握して、自らがコミュニティ形成にかかわる人を増やしていく。
- ・ 支え合いセンターが見ればいい、NPO が入ればいいという問題ではなくなっていて、自助・共助を進めていくことも大事で、ボランティア側も、必要な支援を届けるために情報共有し、合意しながら進めていくことが大事。
- ・ 最終的には、自死・孤独死をなくしていくことが願い。そこに向けて、関係者間で連携し情報共有できる場が必要だと感じる。

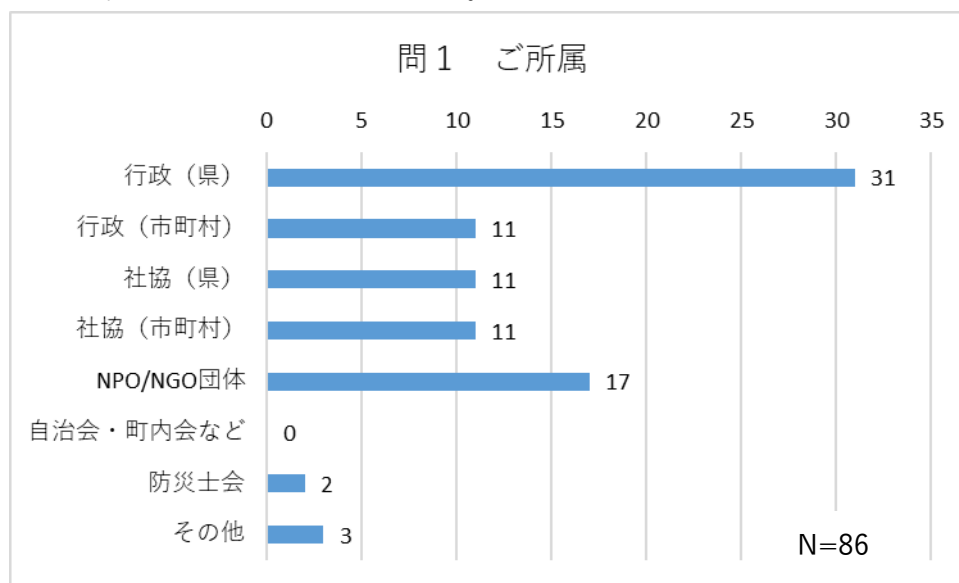
以上

4-3. 第3回アンケート結果

(1) 概要

開催日 : 令和3年1月20日(水) 13時~17時30分
開催方法 : オンライン (Zoom)
対象者数 : 234件
回答数 : 84件 (回収率 36%)

問1 ご自身のご所属についてお聞かせください。



所属	件数
行政(県)	31
行政(市町村)	11
社協(県)	11
社協(市町村)	11
NPO/NGO 団体	17
自治会・町内会など	0
防災士会	2
その他	3

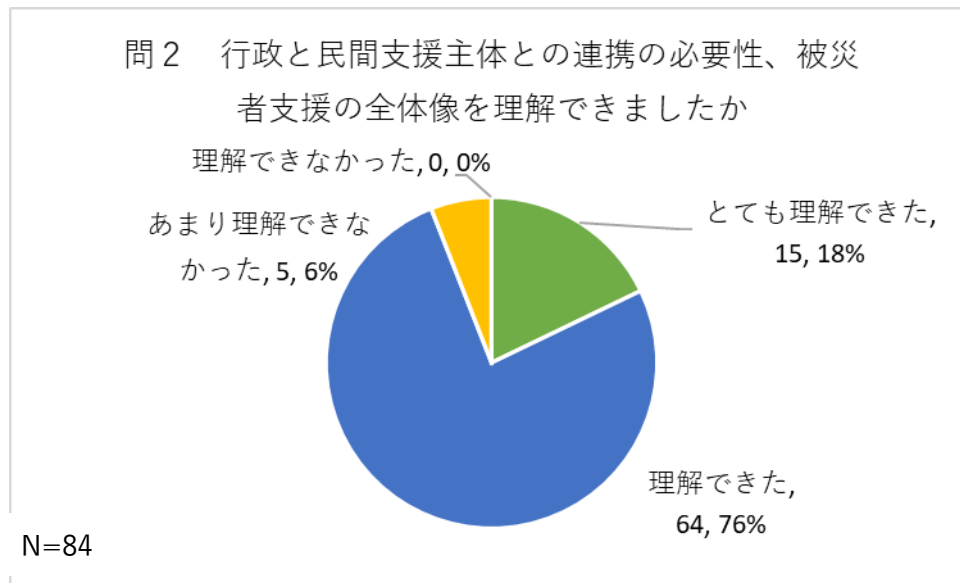
その他

一般社団法人社会防災研究所

青年会議所

埼玉県災害ボランティア支援団体ネットワーク「彩の国会議」

問2 事前動画「災害時の多様な主体連携の事例」を理解できましたか。



内容	件数	%
とても理解できた	15	18
理解できた	64	76
あまり理解できなかった	5	6
理解できなかった	0	0

理由

●とても理解できた

- ・ 立ち上げの経緯から、経費負担、市町村への周知の方法、周知主体、県社協への委託など制度の関係性がすべて説明されていてわかりやすかった。
- ・ それぞれのお立場で、実体験に基づいてご説明いただいていたので、大変分かりやすかったです。
- ・ わかりやすく具体的な内容でのご報告でした。
- ・ 時系列がわかりやすく、また今回のトピックスであった建設型とみなし仮設住宅のメリット、デメリットも事例を交えてわかりやすく説明いただけただため。
- ・ 災害ボランティアセンターと地域支え合いセンターの違い、重要性について良く理解できる動画だった。
- ・ 熊本地震の際の地域支え合いセンター事業の概要が理解することができたため。
- ・ 厚労省事業として「地域支え合いセンター」を立ち上げる形になるとの情報が関係部局からも情報がなかったこともあり、新たな情報として認識できたため。
- ・ H30年豪雨後に設置された地域支え合いセンターに従事しているため、実態として理解できた。
- ・ 平成31年2月に、愛媛県地域支え合いセンターから3人で2泊3日で熊本県に視察に行きました。まずは池尻氏を訪ねて県地域支え合いセンターの話しを聞き、その日に開催された県域会議にオブザーバー出席させて頂き、夜は火の国会議にも参加させていただきました。2日目からは益城町、嘉島町、熊本市の地域支え合いセンターのお話しを聞きました。熊本地震が平成28年、西日本豪雨災害は平成30年なので、2年後の愛媛県の姿としてとても参考になりました。

●理解できた

わかりやすかった

- ・ 熊本県での支え合いセンター事業について、端的にまとめられており、非常にわかりやすかったため。
- ・ それぞれの立場での「想い」等も併せてご説明いただいたので、わかりやすかった。
- ・ 具体的なお話しや当時のことを話していただいたので、わかりやすかったです。
- ・ 時系列でお話しされていて、わかりやすかったです。
- ・ 自分たちの地域での仕組みと違うところはあるものの、具体的でわかりやすかったです。
- ・ 実際に運営にかかわった方々の体験談、課題と感じたことを共有いただけたから。
- ・ 実体験者のお言葉は貴重であり、いざ我が身に起こった時に役立つ。
- ・ 他の被災地ではあまり聞いたことがない市町村社協から NPO に再委託した経緯など知ることが出来て良かった。
- ・ 地域支え合いセンターについて、概要や活内容等とてもわかりやすかったため。
- ・ 地域支え合いセンターの取組を詳細に伝えていた為。
- ・ 本県では地域支え合いセンター事業を活用したことがないため、とても参考になった。
- ・ 大変わかりやすい説明で、流れが大まかにつかめた。
- ・ 話が時系列で具体性もあったので。
- ・ 概ね話されている内容が分かったため。

理解できた

- ・ 地域支え合いセンターの役割や支援内容、課題や支援策について理解することができたため。
- ・ 地域支え合いセンターの事業や活動内容を知り、改めて、災害時には様々な主体があり、役割を分担していることが理解できたから。
- ・ 地域支え合いセンターについて学ぶことができた。
- ・ 事業の必要性は過去の研修等から感じていたが、予算措置等不明な点があったので説明を聞き、より理解できた。
- ・ 地域支え合いセンターを知らない状態から、2回視聴して、インターネットで少し知識を入れて、おおよそ理解した。
- ・ 体験を通してのご説明であり、重要なポイントなどが整理されていて理解できました。

初めて知った

- ・ 近年、仮設住宅が設置されるような災害がなく、地域支え合いセンターについては、今回初めて知りました。
- ・ 支え合いセンターについて聞いたことが初めてだったが、概ね理解できた。
- ・ 事前資料で予習が出来たから。なお、当日の研修会でさらに理解がさらに深まりました。

知っている情報だった

- ・ ほとんど知っていることだったからです。
- ・ 研修以外でも聞くことができていたから

疑問が残った

- ・ 「地域支え合いセンター」について、取組みについては理解できたが、「センターが必ず設置されるのかどうか?」、「センター設置の目的（センターの取組み内容は社協の本来業務でもあるが、より迅速に行うため?費用を含め人員を確保するため?関係各所との連携をしやすくするため?全部?）は?」について疑問が残ったため。
- ・ 理解はできましたが、口頭での説明の聞き取りになるため、時系列や関係性などがうまく整理できないことがあります。

動画への技術的な要望

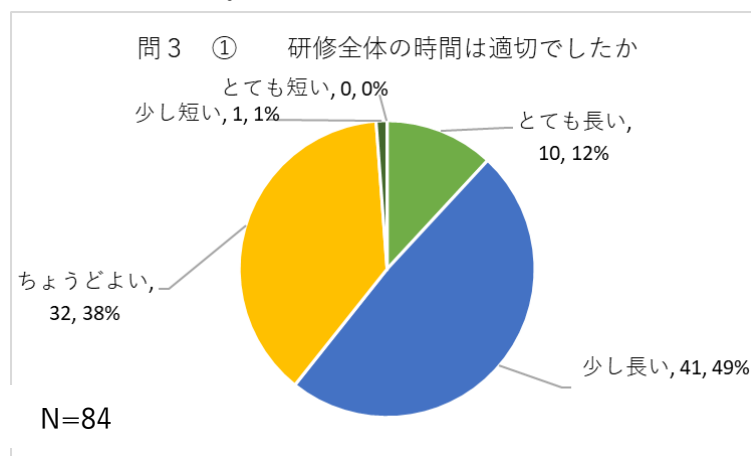
- ・ 地域支え合いセンター事業については、現在愛媛県内でもほぼ終盤の状況下となっており、その先駆的な熊本市健康福祉部木村忠治氏より細部の経緯、課題、決断、推進と分かりやすかったです。その後 KVOAD 樋口さんより民間の強みを社協の後方支援的な立ち位置や動き方も良き学びとなりました。
※要望として事前動画についても簡単なレジュメ的な資料があると2、3度確認を含め視聴する手間が省けて良いように思いますがご検討ください。
- ・ 字幕を付けていただけたら嬉しいです。
- ・ 口頭説明だけでなく、説明の趣旨をまとめたシートの画像を差し込むなどすると、より理解が深まるかと思います。

●あまり理解できなかった

- ・ 事業の主旨は理解できるが、実際に本自治体においても同様の事ができるかどうかについては分からない。（お恥ずかしながら、舵を取る部局がないように思います。）
- ・ 動画だけでは、頭に残らなかったが、当日の演習とあわせたら理解できた。研修会直前に見た方がよい。
- ・ 「地域支え合いセンター」という組織の理解が乏しかったため。
- ・ 役割や、活動内容等は理解できたが、法的根拠や、財政的な裏付けなどは少しわからなかった。

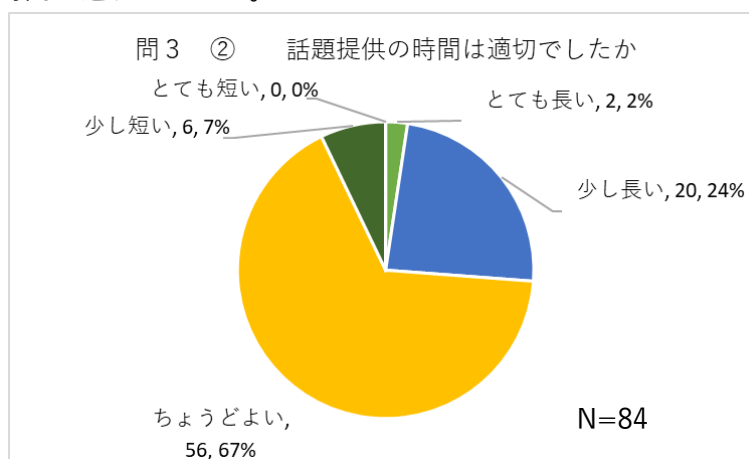
問3 研修会の運営についてお聞かせください。

② 研修全体の時間は適切でしたか。



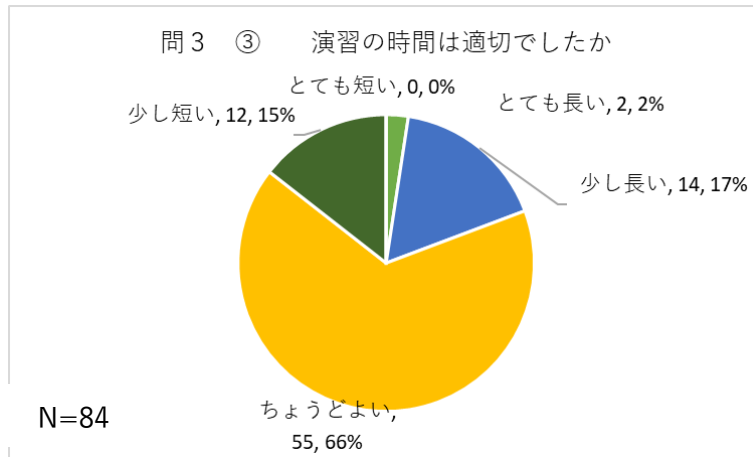
内容	件数	%
とても長い	10	12
少し長い	41	49
ちょうどよい	32	38
少し短い	1	1
とても短い	0	0

③ 話題提供の時間は適切でしたか。



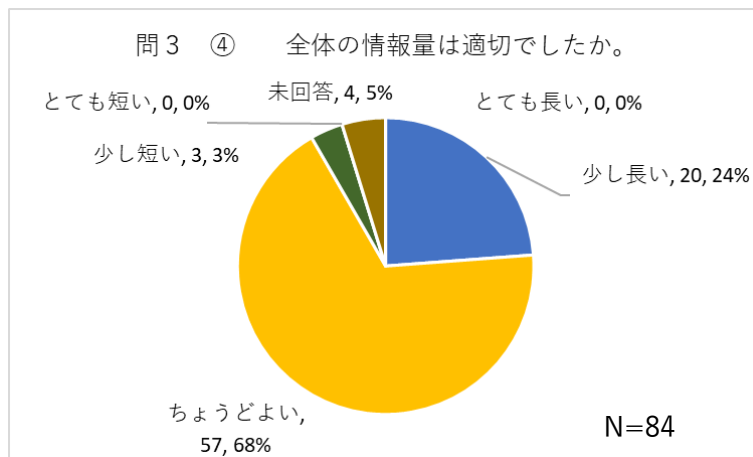
内容	件数	%
とても長い	2	2
少し長い	20	24
ちょうどよい	56	67
少し短い	6	7
とても短い	0	0

⑤ 演習の時間は適切でしたか。



内容	件数	%
とても長い	2	2
少し長い	14	17
ちょうどよい	55	66
少し短い	12	15
とても短い	0	0

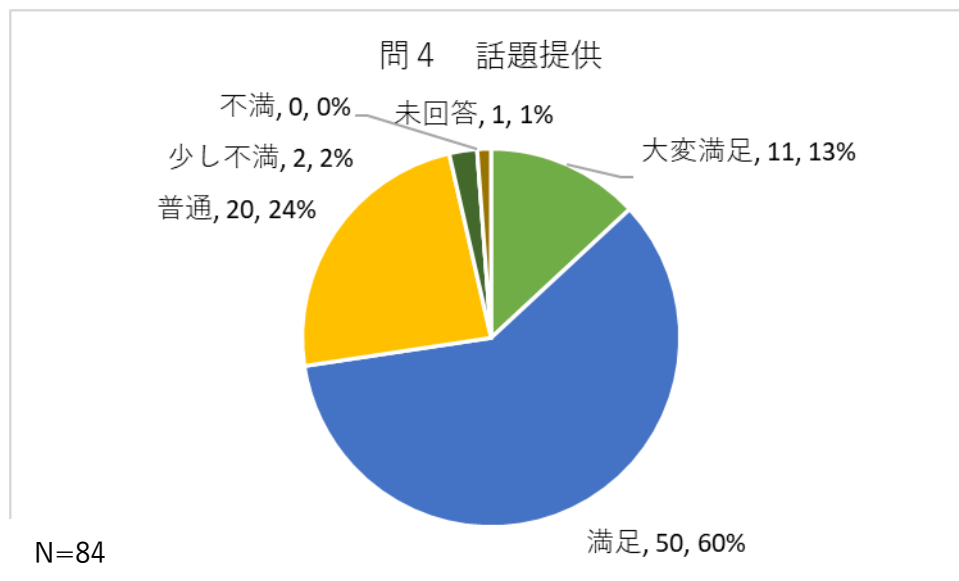
⑥ 全体の情報量は適切でしたか。



内容	件数	%
とても長い	0	0
少し長い	20	24
ちょうどよい	57	68
少し短い	3	3
とても短い	0	0
未回答	4	5

問4 研修それぞれの内容を5段階で評価し、その理由もお聞かせください。

話題提供：



内容	件数	%
大変満足	11	13
満足	50	60
普通	20	24
少し不満	2	2
不満	0	0
未回答	1	1

理由

●大変満足

- ・ どの講義も大変勉強になりました。行政職員なので、災害救助法についての理解を深め、必要な方に必要な支援が行き届くよう、制度について周知出来ればと思います。
- ・ センターの活動内容と応急やみなし仮設における課題等について知ることができた。
- ・ 熊本県での取り組み事例が、とても参考になりました。県の役割、社協、NPO（社団法人）の役割が明確になっていて、なるほどと思うことが多々ありました。一昨年9月の台風被害後の取り組みのふりかえりにもつながりました。
- ・ 熊本県社協池尻さん、minorい高木さんの説明は本当に分かりやすかったです。現場で動いていらっしゃるからこそその視点からの発言等参考になりました。
- ・ 社協職員の立場として、発災直後から復興期までの対応に関するマニュアル整備は行っているが、これまで復興期における被災者支援という視点が足りていなかったと気づきました。今回、地域支え合いセンターの役割や仮設住宅における課題などについて具体的な話を聞いたことで、支援のイメージをつかむことができたと思います。

- ・ 入居者説明会でレスキューストックヤードが仮設のトリセツを説明した事例など、公助に関連してNPOが重要な役割を担っていることが分かった。全国的には、こういったNPOが災害時にどんな役割を發揮し、行政（公助）の課題解決にどれだけ役に立ってきたかが伝わり切れていないと感じている。こういった研修を継続し、全国の関係者に対し、平時から理解を進めていく必要があると強く感じた。
- ・ 平時に検討しておかないと見守りについては難しいと感じました。
- ・ わかりやすかった。
- ・ 資料が分かりやすいです。

●満足

参考になった

- ・ 熊本県での事例を学べたのがよかった。
- ・ 地元として、振り返りができました
 - ・ 個人情報をも2人1組、割符方式で管理していたこと
 - ・ 県外避難者に地元紙を毎日届ける支援があったこと。
 - ・ 仮設住宅の入居説明時から「支え合いセンター」が関わる重要性について学べたため。
- ・ 広島市には地域支え合いセンターがないため、取組の参考になった。
- ・ 地域支え合いセンターについて本研修で初めて聞いたので、大変参考になりました。
- ・ 地域支え合いセンターの話が、復旧・復興期における被災者支援の対応として参考になりました。
- ・ 復旧～生活支援のフェーズにかかるそれぞれの立場からの発表を聞くことができ参考になりました。
- ・ 実際に地域支え合いセンターを運営する立場の方々の話を聞いて参考になった。
- ・ 実際の現場のお話が聞けたので。
- ・ 身近な話題で判りやすい
- ・ 大変勉強になった。
- ・ 大変勉強になりました。それぞれの立場の方の活動等が見えました。
- ・ 各団体が模索した内容とその結果を学ぶことができ、やるべきことが明確にわかった。
- ・ 実務経験もなく、他県の実例等の提供は大変参考になった。

理解が深まった

- ・ 理解が深まったため
- ・ 内容が理解できたから
- ・ 行政、社協、支援団体の立場からご説明いただき、理解を深めることができたため。
- ・ 時間の経過とともに被災者の困りごとが変化し、それに対して柔軟に対応することの重要性を学ぶことができた。
- ・ 実際に地域支え合いセンターの運営をしている方の話だったため、説得力もあり、どの段階でどのような課題が出てくるのかを知ることができたため。
- ・ 少し時間がたってからの困りごとの変化が理解しやすかった
- ・ 生活支援という点に焦点が置かれて説明されたので、内容を把握しやすかった。
- ・ 様々な立場の方から意見を聞くことができた。
- ・ 被災地の現場を知る機会がない/知らない行政職員の方もイメージしやすくなっていたからです。

長期間にわたる支援体制について考える良いきっかけになった

- ・ 災害ボランティアセンターが閉じると行政の役割がほとんどなくなるといったイメージがあったが、復興時には担当、主体となる部門が変わってくるため担当している部門と庁外の様々な主体とをうまくつなぐ役割が災害ボランティア担当部門にはあると感じた。
- ・ 困り事や被災者の置かれている立場が、時間の流れとともに変化・流動を続けていくことに、圧倒的なマンパワー不足・コーディネーター不足の中でどのように対応していくのか、改めて考えるきっかけとなったから。
- ・ 三者連携というと発災直後から入ってくる災害ボランティアへの対応を考えがちだが、長期間にわたって地域に寄り添いながら支援する手についても三者連携が必要というのは考えたことなかったため、新しい発見だった。
- ・ 避難所から仮設への移行にあたり、様々な困りごとや、配慮すべき点があることがわかり、行政としての役割を考えるきっかけになったから。
- ・ 亡くられる方が、社会的弱者ではないものの、孤立しているような方に起こっているということを知り、大きな課題だと気付かされた。(社会的弱者を優先的に考えることも大事ではあるが。)

災害救助法について理解ができた

- ・ 災害救助法についてかなり細かいところまで網羅されており、今後もこの資料を参考にして使っていきたい。
- ・ 災害救助法については、行政関係者は精通しており分かりきった事項であると思いましたが、私等NPOの関係者には当日を含め事後資料として活用できるので良かったです。それに事前検討資料と相まって池尻さん、高木さんの話題提供は理解度が深まりました。

その他

- ・ これまでの講演も同様ですが、行政的には予算(どのような国補助があるのか、デマケはどのようにしたのか 等)の話をもっとお伺いしたいです。
- ・ 2年前に現地を見ていましたので、説明をイメージを膨らませながら聞くことが出来ました。池尻氏の説明は、同じ地域支え合いセンターとして興味があるので、もっとじっくりと聞ければ良かったです。
- ・ 情報が足りない

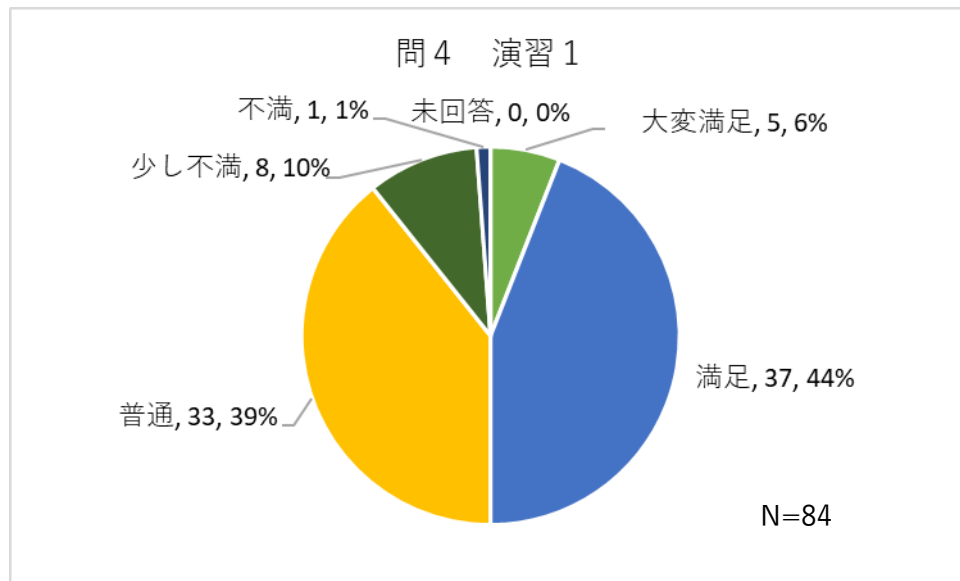
●普通

- ・ 年度ごとの支援内容が変わってくることと支援区分の4分類の分析が参考になった。
- ・ H30年豪雨で設置された地域支え合いセンターに従事しているため、先行事例としても、実務としても理解できた。
- ・ 実際の体験事例を踏まえたうえでの講義となっておりましたので、参考になることが多い反面、実災害を経験していないため、状況をイメージすることが難しく、内容を理解することに苦慮する部分があった。
- ・ ご説明いただいた内容はよく理解できましたが、時間の割に情報量が多く、資料の中で割愛する部分も少し多かったように感じました。
- ・ どうしても仮設住宅での生活が長くなることが想定される場合（原子力災害等）については、仮設住宅での生活支援の必要性は否めないが、行政として第一にすべきは、元の自宅に戻って生活を送れるように支援することなのではと思う。
- ・ もう少し具体的な解決策を提案していただけたらと思いました。

●すこし不満

- ・ 内閣府の資料が提供されてから、読み解くまでの時間がすくなく、また話題提供内で説明頂いたが（法律に詳しい行政職なら大丈夫なのでしょうが）、素人には分かりにくかった。
- ・ 話題提供者からの音声が最初の数分間、サイレントになってしまったため。本番前には、事務局と話題提供者は ZOOM のテストを行い、不具合等がないか確認しておいてほしい。"

演習 1 :



内容	件数	%
大変満足	5	6
満足	37	44
普通	33	39
少し不満	8	10
不満	1	1
未回答	0	0

理由

●大変満足

- ・ 状況付与が、情報共有会議に NPO が参加しているという想定での生の声であったところが大変良かった。そのおかげで、参加した研修生が、その間に答える形で、自分事としてワークを行うことができ、大変話が弾んだ。
- ・ それぞれの立場がやること、考えられる課題を共有でき、県内の状況がよく分かった。
- ・ 県、市町、社協というそれぞれの立場から意見を出すことができ、立場の違いによる問題意識や着眼の違いを理解することができた。

●満足

良かった

- ・ H30 年西日本豪雨災害における県内の地域支え合いセンターの実際の動き等について聞くことができたため。
- ・ 課題が 2 点に絞られた事で時間配分も出来て良かった。 課題も平成 30 年 7 月豪雨災害時に現実の事例での経験も踏まえてケース検討が出来て良かった。
- ・ 各県からの報告の後、互いに質問できる時間があったため、疑問等が残ることがなかった。
- ・ 各市町の取組や課題等が共有でき、参考になった。

- ・ 熊本からの「話題提供」を受けて、ふりかえりと今後の取り組みに向けての意見交換が具体的な内容でできました。
- ・ 検討時間を多めに取っていただいたこともあり、意見がまとまったと思うため。
- ・ 埼玉県の各々の関係機関の取り組み状況等を把握することができたため。県の中で話し合うのは意味があると思うので。
- ・ 自県に当てはめて、県庁内の担当課や、それぞれの役割を検討することができた。
- ・ 社協や市町で取り組んでいる内容の共有ができたため。
- ・ 前回よりも長めにケース検討の時間を取ってあったので、焦ることなく、余裕をもって検討することが出来ました。
- ・ 理解が深まったため
- ・ 令和2年7月豪雨の際、もっとこうしたらよかったという振り返りができました
- ・ テーマの中身ではないが、各地域で、気候も違うし、団体の構成も違う、それぞれの地域で色んなことが違うということを知ることができた。

各主体の話を聞いて良かった

- ・ 県・市・社協・NPOごとに対応方策を考え、それぞれが説明をしながらワークシートを埋めていくという方法を取ったため、各主体の考えが理解できたことが良かった点です。ただ、前提条件が、組織の横断的な考えがないと議論が進まない内容のため、行政職のかたには厳しかったのではないかと…とも思いました。
- ・ 行政側からの考えではなく、実際他県の災害ボランティアセンターの支援を行っている県社協職員と有意義な意見交換ができた。
- ・ 時間が短く、②中心の検討となったが、自分たちの地域ならという具体的検討ができた。
- ・ 自分のセクター以外の業務内容などの把握に繋がりました。お互いに補い合う部分を学びました。
- ・ 被災者支援の対応について意見交換を行い、さまざまな視点から検討を進めることができたため。

復興期のことが考えられてよかった

- ・ 復興期の普段想定していないフェーズでの対応を検討するのは初めてだったので、災害ボランティアセンターが閉じたら対応は終わるようなイメージが払しょくできた。
- ・ 復興期について考察する良い機会となった。
- ・ 被災時のボランティアセンターになる予定の場所が被災するなど、想定のさらにその先に行く事態になる可能性までも考えておかなければならないと教訓になりました。

●普通

良かった

- ・ 前半の研修を受講したのちの、感想や意見をタイムリーに交換できるのはよいことだと思いました。
- ・ 回を重ねるごとに顔と名前が一致するようになり、それぞれの所属の特性を生かしたワークが展開されるようになった。

ワークの進め方に難しさを感じた

- ・ ケースを検討するにあたり、前提条件が細かく決まっていなかった中での議論であったため、自由な発想で議論できる反面、イメージしづらい部分もあり、検討困難な部分があった。
- ・ ケース検討では、自分の役割だけに集中してしまい、中間支援の中のコーディネーターが必要に感じました。
- ・ ケース検討として必要な時間だとは思いますが、検討例の提示がなければ、実施したワークの内容で合っていたのか、それとも間違っていたのかが分からない。対応内容に正解がない分野とは思いますが、実際の対応事例などとセットでワークとすべきではないでしょうか。
- ・ テーマとしては起こりうる状況であり、考えやすかったが、対応方法については組織内において共有しきれるものではないし、その場その場での対応力、判断力が重要であり、ワークのような検討を重ねていくほかないと感じた。
- ・ リモートでのワークであったため、活発な意見がでなかった。また、出た意見をまとめるのが大変だった。
- ・ 何を検討していいかがわかりにくかったからです。市区町村行政職員との検討であればやりやすい部分が多かったように感じるのですが、都道府県の職員とのケース検討だとお題がやりにくいところがありました。
- ・ 課題への対策について意見を出し合ったが、対応する主体が定まらないうちにシートに記入できないため、欄を埋められなかった。
- ・ 事例の情報量がもう少し簡潔であるとありがたい。

担当者が揃わなかったため、内容が深まらなかった

- ・ 運営側の問題ではなく、当地域の状況として、このケースワークは難しいです。誰が何をできるか、というところが各参加者同士で共有できていないので、なかなか具体的な役割分担に話が発展できないています。他地域のワークではうまく役割分担の話になっているので、運営ではなく当地域の問題なのだと思います。そういう課題が明確になったという点で、意義があると感じています。
- ・ 行政担当者がボランティア担当課と危機管理担当課でもあったことから、被災者支援のケース検討は、社協からの視点中心での話にならざるを得ませんでした。
- ・ 今回は主に地域、福祉分野の職員での参加であったが、他県のように防災分野の職員も参加があればより具体的な検討ができたのではと感じた。
- ・ 今回岩手県からはNPOしか参加していなかったので、行政や社協の意見がもらえない中でやったので、十分な演習とはならなかった。
- ・ 長崎県庁の担当職員の参加が少なく、情報量が乏しい中でケース検討となってしまった。今回の検討を通して、大規模災害の対応経験が無い行政職員の意識が少しでも変わるかと期待していたが、深掘りした議論ができなく終わってしまった。
- ・ 兵庫県では、県、市行政、市社協だけの参加である。NPOの参加等があれば、もう少し協議が進むのかなと思う。被災者のニーズ調査などは社協としてはしなければならぬことと認識しているが、それに協力していただけるNPOがあるのかどうか分かんない。「社協がやります」と手を挙げて終わりになってしまう。ただ、尼崎市、芦屋市と近隣の市からの参加なので、共通したことも多く、そのあたりは協議がしやすいと思う。

事前の知識が足りない、参加者に知識のある担当がいなかった

- ・ 議題の内容把握の仕方に差があり、始めはどのような暖房器具が必要かというところから始まってしまっていた。
- ・ 参加者に仮設住宅や地域支え合いセンターに関する有識者がほとんどいなかったため、議論が浅かった。
- ・ 自分は業種が建設業で発災後は道路復旧などの支援に関わっている。被災者支援（仮設住宅）に対して行動できるか実感がわからない為。
- ・ 福祉部局として参加をしているが、どうしても防災マターのケースが多く、知識及び経験不足を痛感した。
- ・ 演習課題としては最適だと思います。ただ、こちら側の問題なのですが、同じ府県内の参加者でも、担当についてからの年数が違う事もあり理解度に差がある。そのため、質問から始まり説明をして意見を引き出すようなファシリテートを毎回担うことになるが、その点で時間が足りなくなり個人としては不消化となる。
- ・ 行政の横の連携(福祉部局に繋ぐ等)の必要性が分かったことは良かったと思いますが、行政担当者は話に入りにくかったようです。

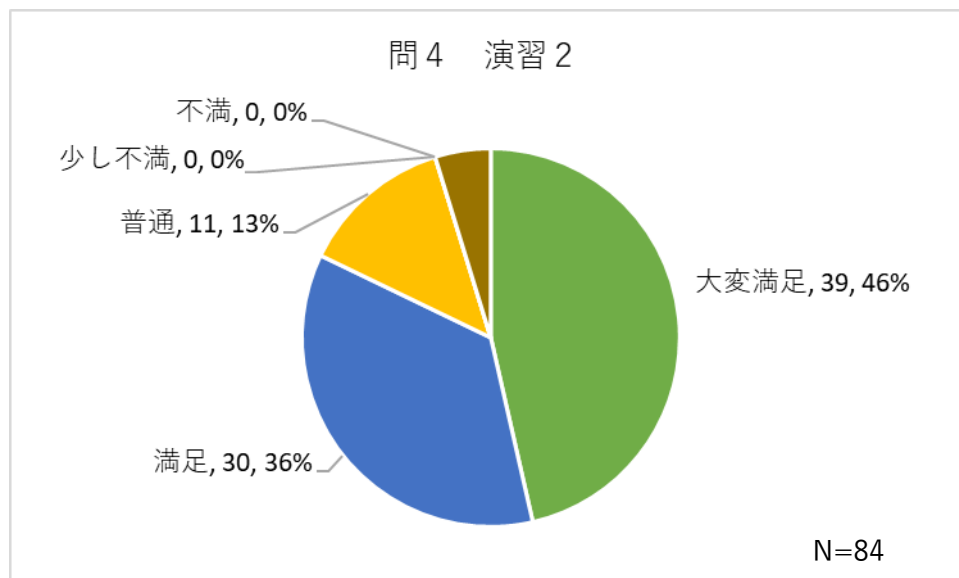
●少し不満

- ・ 回を追うごとに集まったメンバーと話しやすくなっているので、発言が多くなり、時間が足りません。
- ・ ケース検討の設定は発災から2ヶ月で、まだ地域支え合いセンターは準備中ということでした。この設定で話しをしたのですが、せっかく熊本の地域支え合いセンターの話題を聞いたところなので、もっと地域支え合いセンターとしてどうするかという設定の方が良かったかと個人的に思います。ボランティアセンターなど発災直後はもちろん大変なのですが、支え合い事業の期間は長く、継続支援の必要性には大きなものがあります。
- ・ ファシリテートは社協やNPOが行っても良いと思うが、行政の主体的な関与がないと、議論が難しい。
- ・ 仮設住宅の支援経験が誰一人もなかったため、前提条件の掘り下げに時間を要した。
- ・ 都道府県ごとに前提条件(考えられる被災人口など)が違うので、検討段階で少し戸惑いは感じた。
- ・ 参加者の経験値にもよると思うが、「まったく経験もなく、異動して担当になったので勉強のために参加している者」と、そうでない者の経験値の差があまりにもあるため、ワークを難しくしているのではないか。
- ・ 当県の問題であるのですが、いつもシートがまとまりません。(まとめようとしても、いつもそもそも論ばかりになってしまいます。)
- ・ 当方の都合だが、県(行政)のボランティア担当課、福祉担当課ともコロナ対応等の理由で研修に参加できず、防災担当課しか参加できませんでした。社協やボランティア団体の方々の意見は大変勉強になったが、復旧～生活支援のフェーズに関するワークとしてはあまり深めることができなかったと感じました。

●不満

- ・ 演習の回答が当事者なのか、想定で回答するのかわかりにくい

演習 2 :



内容	件数	%
大変満足	39	46
満足	30	36
普通	11	13
少し不満	0	0
不満	0	0

理由

●大変満足

- ・ 他府県の方との意見交換ができることは大きな刺激にもなる。
- ・ 自分の中で大前提の理解として言葉にしていないこと、細部への配慮やワークシートへの記入方法(見せ方)についても勉強になる。
- ・ 他県と意見交換することにより、思考の幅を広げることができた。

●満足

他県のことが知れてよかった

- ・ 他県の状況や意見を交換できて参考になった。
- ・ 他県との意見交換や共有は、有意義でした。
- ・ 他の都道府県の取り組み状況等を情報共有し、当協議会において取り入れたい内容があり、大変参考になったため。
- ・ 予めどの都道府県とワークするかが分かるとさらにスムーズに意見交換が進めると感じた。
- ・ 他県の考え方は自分たちの考えを整理するうえで大変参考になります。
- ・ 他の都道府県の考えや取り組み方法を知るという意味では良かったです。
- ・ 他県の現状を知ることができた。
- ・ 共有は、他府県での課題等を聞くことができた。全体共有の中で、被災者の困りごとの変化とともに

に、ニーズ把握から生活課題の支援、生活困窮自立相談とうの窓口へのつなぎ等、福祉の世界では共通認識されていることであるが、防災の担当者と共有できたのは良かったと思う。

- ・ 各自治体の地域特性も踏まえた視点を聞いて参考になった。
- ・ ほかの自治体の実施例について知ることが出来、参考になりました。自身の所属する県ですべてを同じように実施していくことはできませんが、真似できるところは取り入れて、県内の三者連携に活かせたらと思います。
- ・ コミュニティー形成は、自分たちの地域では実施したことはなかったので、実際にしていたところにいろいろ聞いたのは、良かったと思う。
- ・ 3県での交流、意見交換は各県の対応状況等が分かり良かったと思います。全体共有についても同様ではありますが課題2点の報告2県に解説者が其々の立場でコメントをされたが持ち時間も少なく深めることに至らなかったように思いました。もう少し解説者の方に時間があれば良かったのではと思います。(人数も多く1人あたりの持ち時間が少なかったのでは?)
- ・ 他の都道府県の意見を聞くことができたため。
- ・ 沖縄県では実務経験がないため、他県の意見が共有できるので大変参考になる。時間も余裕があったので、他県の具体的な対応状況の確認できた。
- ・ 普段なかなか話すことのない、他の都道府県の行政職員や NPO、社協の意見や経験を共有でき、知見が広がったため。
- ・ 過去に2回中間支援組織として動いた熊本県と一緒にグループだったこともあり、有意義な情報交換ができたと思う。
- ・ 実際に仮設住宅を建てて支援にあたる経験がない者ばかりだったので、なかなかイメージしにくかった。
- ・ 理解が深まったため
- ・ 被災経験のある自治体、ない自治体があり、その中でさらに三者連携の進んでいる自治体がある、それぞれの自治体にあった三者連携があると思うので、あったやり方を模索していくところから始めていきたい。
- ・ 発表団体(4団体)は適切と感じました。

専門家のアドバイスがよかった

- ・ 菅先生をはじめ専門家のご意見も伺うことができ、多角的に考えることができたため。
- ・ 全体の講評は、本日の研修テーマの趣旨に立ち返って整理してくれた JVOAD の栗田さんの講評がとても分かりやすく良かった。
- ・ 考えていなかった視点での提案を他県から聞くことができ、勉強になった。
- ・ 各所の取組等が聞いて参考になった。
 - ・ 仮設のトリセツについて知れた。住民自ら仮設暮らしを工夫できるよう仮設全体で取り組むという考え方を知れた。
 - ・ いくつかの県が組み合せて共有したのは大変良かったが、全体の共有はわかりづらかった。
- ・ 令和2年7月豪雨の際、もっとこうしたらよかったという振り返りができました
- ・ 仮設住宅の供与を経験したことがない県からの質問にお答えすることができ、実りあるものになっ

たと思います。

- ・ 仕方のないことですが、ネットワーク上で、かつ、初めて話をする機会において、皆が様子見の感じとなってしまう、あまり活発な議論が出来なかった。

●普通

イメージしにくかった、議論が浅かった

- ・ 被災または被災地への支援の経験がある方（自治体）にとっては、経験談の共有の場となっていたように思うが、経験のない小職にとってはどうしてもイメージしがたい内容だった。
- ・ 他の都道府県と忌憚なく意見交換や現状の情報共有をできることはとても貴重だと思いますが、時間が短く、また進行役などが決まっていない状況で（どこの都道府県と同じグループになるかわからない中で）始めるので、時間がタイトに感じました。
- ・ 3~4自治体間での意見交換で時間の都合もあると思うが、その中で進行役（ファシリ？できれば取組みがすすんでいる自治体）があればいいかなと感じた。（自治体間で話して決めればいいがあらかじめ事務局からお願いしてくれた方が進むかなと感じたもので）
- ・ 参加者に仮設住宅や地域支え合いセンターに関する有識者がほとんどいなかったため、議論が浅かった。
- ・ 共有する時間が短いこと、ほとんどが初対面の方たちとのやり取りになるので、遠慮もあり、内容を深めることが難しい。
- ・ 各県の報告等で終了し、活発で建設的な意見交換には至らなかった
- ・ ケースの検討という視点で言えば、議論は煮詰まらなかったと感じたが、災害ボランティアに係る各都市が抱える課題に対し、他都市と情報共有が図ることができていたため有意義な議論がなされていたと感じた。
- ・ 今回岩手県からはNPOしか参加していなかったもので、行政や社協の意見がもらえない中でやったので、十分な演習とはならなかった。

他県の取り組みを聞いて良かった

- ・ 仮設住宅への支援経験のある県から実際の対応を聞いたのは良かった。
- ・ 時間的に余裕がなかったため、計4県の報告しか聞けなかったのが少し残念だった。
- ・ もう少し多くの団体から、検討結果をお聞きしたいなとも思います。
- ・ 各県からの発表は良いのですが、同じようなコメントなら繰り返しになるのでお2人くらいでいいのでは。

その他

- ・ 幸いにも本県は災ボラ団体が研修に参加していたので、課題や過去の事例を踏まえて検討ができ、行政では想定していない課題がよく見えた。他県と意見交換して気づいたのは、個人情報の扱いについて細かい点まで想定がされておらず（本県もそうですが）、ボランティア団体への提供が現状では難しそうです。
- ・ ケース検討や全体共有のなかで、どうしても被災者支援の方策ばかりが前面に出てきてしまっていた印象が強いので、支援の押し付けが結果的に被災者を孤立させることにならないよう、（最後に

JVOAD の栗田さんが少し触れられましたが) 被災者側のエンパワメントにも焦点をあてられると良かったかと思いました。

- ・ 解説者が多すぎて、内容が渋滞していたと感じます。一人一人の一回あたりの発言が長すぎることも影響していたと思います。解説者の話よりも、他県でのワーク内容（どのような対応案を考えたのか）を聞いてみたかったです。
- ・ 参加者が中堅を育てるための会議なので、出席者の経験が乏しく組織の内容を十分に把握していない。これのメンバーの情報共有会議では？

●少し不満

進行役（ファシリテーション）が必要だった

- ・ 都道府県間の意見交換は、進行役もファシリテーターもいないことですし、必要ないと思います。
- ・ 各県の事例発表であったが、大規模災害の対応経験が無い県であるため、行政職員も社協・NPOともに情報共有されたものに対して疑問点が浮かびにくく、無言の時間が長くなってしまった。各グループにファシリテーター役が決まっていなかったからかもしれない。もったいない時間になってしまった。
- ・ 意見交換をする進行役が決まらず、時間が過ぎてしまった。
- ・ テーマが2つあった上に3県に分けて意見交換する機会、全体発表がそれぞれ設けられたため、時間が長いと感じました。例えば、各県で1つのテーマを選択して、その内容を3県で話した後に全体発表で選択外のテーマについても知見を深めるといったやりの方が時間も短く済むし、それぞれのテーマを深く掘り下げることができたのでは無いかと思いました。
- ・ 話すことがまとまらない事が気になってしまい、せっきくの意見交換なのに他県の良い話しが頭に入ってきません。

意見交換が低調だった

- ・ 3都府県の共有については時間がかかり、意見交換までできなかった。
- ・ 質問が低調だった。
- ・ 愛媛県は群馬県・山口県とでした。愛媛県は2年半前に災害を経験し、地域支え合いセンターも現在進行中なので、他県に質問する内容はなかったです。逆に聞いてもらえればお話しすることはいろいろとあるのですが、群馬県も山口県も何を聞けばよいのか分かりにくかったようです。

実体験を聞きたかった

- ・ せっきくの機会でもあるため、全体共有の場合は「支え合いセンター」を設置した経験のある都府県の話の聴きたかったです。
- ・ 実際がどうだったのか、反省点等も含めてお話を聴ければ、自分たちのワークで漏れていた視点等理解しやすかったのではないかと思います。
- ・ 被災経験度合いにより理解ができにくいのでは？
- ・

Q5 全体のプログラムを通じ、今後の研修プログラムや運営等についてご意見・ご感想等ございましたら、ご自由にお聞かせください。(自由記述)

企画内容に関して

- ・ 仮設住宅期において、非常に重要な役割を果たすことは分かったが、センターについて研修3回目で突然出てきたような印象を受けたので、センターの背景(いつ頃からできるようになったのか、法的根拠、予算等)を先に説明いただけるとありがたいと思った。
また、情報共有会議とセンターで連携を図っていく必要があるのは分かるが、具体的にどのような連携を図ればよいのかという説明があるとよかったと思う。(センターの会議に情報共有会議の事務局が参加し、センターの手の及ばない業務について、情報共有会議でNPO等に対応を呼びかけなど)
- ・ 県内関係機関の方々(社協やNPO)と三者連携について意見交換する機会として、大変ありがたいです。当県の事情なのですが、できれば時間を区切ったワークと発表ではなく、県内関係機関との意見交換の時間を長くしていただき、その結果は後日提出で、後日まとめて全参加者に配布いただけるとありがたいです。(限られた時間では建設的な意見交換ができないので。ただ、事務局さんから解説いただけるのはありがたいです。)
- ・ 全4回という長い研修ですが、他団体の方々と実際に顔を合わせて意見交換することは、今後の災害対応の際の大きなメリットになると実感しています。このため、来年度も同様の研修を開催していただきたいです。実際に一同に会する研修の効用はありますが、コロナ禍での研修であるため、オンラインを活用して、今後も続けてもらいたい。
- ・ ざっくりばらんな質問に対する回答の時間をもう少し取れないか?
- ・ 研修の主題が「官民の多様な被災者支援主体間の連携促進」なので、次回以降の開催では、都道府県ごとに
 - ・ 都道府県職員
 - ・ 県社協職員
 - ・ 市職員
 - ・ 市社協職員
 - ・ 災害関係NPO団体メンバーという枠組みの中から、各2名の参加を必須のような実施形態をとってみてはいかがでしょうか。
- ・ 現状では都道府県ごとに熱意の温度差や参加者のばらつきがみられるため、真剣に中核となる人材を育成していくためには、それぞれの枠組みのなかから推薦という形にして、それぞれの立場からしっかりと議論できるような土台のうえで実施すると、とても有意義な研修になるかと思います。
- ・ 当地域の状況がうまくいっていないということを毎回感じます。各主体がどのようなことを担えるか、各主体の権限や情報や資源が何か、という部分の共有ができていないと感じました。知識不足もあり、その場ではなかなか考えがまとまらず、ワークでのディスカッションがうまくいかないのですが、今回のワークで課題として出された、共有会議で出されることの多い情報や意見、課題などをリスト化して提供いただけると、少し時間をかけて、一つ一つどこがどのように対応していくことができるかを考えたり、制度化の参考になると感じました。そのような情報提供についてご検討いただければ幸いです。

- ・ 国・都道府県・社協・中間支援組織を含むNPO等の協働・連携は重要ですが、それぞれ地域性があり、都道府県ごとに協働・連携のあり方は違ってくると思います。例えば、地方では中間支援組織となり得る団体がなかったり、首都圏では逆に団体が多過ぎたりなど。ですから、色々な協働・連携のあり方がありますよ、という事例や仕組みをもっと学びたいと感じました

庁内連携に向けて

- ・ 内閣府の目指す三者連携、情報共有会議では組織の内容を把握しているスタッフが参加しなければならない。行政・社協・NPO、ともに研修会のため役割や組織内容が理解できていない参加者が多い。
- ・ 今回のプログラムについては、県の仮設住宅の担当などにも参加してもらえばよかったという意見があった。
 - 庁内連携の難しさといったことが様々な研修内でも何度も言われている中で、こういった庁外（国）の研修等を庁内連携にもっと活用できるのではと感じた。
 - 災害ボランティアの担当向け研修はどうしても、協働、福祉、危機管理部門に留まってしまうので、これまでの研修からすると廃棄物や仮設住宅の担当部門なども参加して内容を知ってもらったほうが良いと思った。
 - どうしても縦割りの中で、横の連携が難しいところがある、ボランティアと聞くと災害ボランティア担当課の業務と思われるので、庁外の研修を通じて、各関係部門との連携を図るしかけを作っていただけると非常に助かる。多くの自治体で同じ課題があり、主体内連携は災害時に非常に重要かと思うので、主体内の横の連携を図るような研修を次年度以降でいいので組み込んでいただけると大変ありがたい。
- ・ 今回の研修でも出ていたように、災害時に向けた行政内部の庁内連携の重要性は痛感しているところだが、被災者支援・災害ボランティアとの連携に関して福祉部局が前向きではなく、平時の福祉支援・発災時の災害ボランティア・復旧期以降の地域支え合いセンターでの対応は一連性があるということを理解してもらい、連携が必須であることを理解してもらう必要あると考えている。
 - ・ 古くに災害ボランティアセンターの設置に関しては危機管理部局が行うこととして整理されてしまっていることで議論が進めづらくなっていることから、改めて被災者支援に関しては福祉的な支援の視点が重要であること等を盛り込んで次年度も同様の研修会を開催いただけるとありがたい。
 - ・ もし可能であれば厚労省のご担当者様もご参加の形であればより有難い。"

事前動画について

- ・ 事前動画では、前回の振り返りもでき、このサイクルで研修が実施できているので内容量は多くて消化不良気味のところもありますが、事後資料としても活用できますので次回で最終回となりますが宜しくお願いいたします。

話題提供について

- ・ 災害救助法の説明について、かみ砕いた説明をした方が社協や NPO の方々にはわかりやすかったように感じます。
- ・ 話題提供や解説の時間がもう少し長くってあれば良いと思います。県内でケース検討する時間や、他県の情報を共有する時間も有意義なものに感じています。それ以上に講師の方からの情報が大変勉強になるので、もっと聞きたいです。
- ・ 決して、熊本や長野のやり方がスタンダードではなく、都道府県ごとに創意工夫が必要であるというアナウンス（講義等）が聞きたいと感じました。これまでの研修で主催者側が十分アナウンスしていますよ、ってことであれば私の聞き漏らしであり申し訳ございません。
- ・ 話題提供と演習が繋がる工夫も必要ではなかったでしょうか？ 支え合いセンターの設置前と設置後の違いも踏まえた演習も必要では？

演習について

有意義だった

- ・ 行政職であるのでケース検討において気づきや発見をすることがあり有意義だった。通常は災害時の対応にばかりに目がいってしまうため今回の研修では復旧・復興期の勉強をすることができ参考になった。
- ・ 検討課題に対して、正解がないのは分かっているが、講評の際に、具体的検討ポイントのアドバイスなどを個々にもらえるとありがたい。
- ・ 演習で話し合う時間が短く感じた。もう少し、話し合う内容を絞ってもらうほうがいいようにも思いました。また、地域による現状や特性も違うので、思ってもみなかった違った視点で同じテーマを考えることができ、他地域との交流というか情報交換も非常に有意義かと思いました。演習の中で、そんな時間も含めて設定してもらえたら、嬉しい。
- ・ 演習のテーマを事前に提示していただいたおかげで、前もって調べたり庁内の別部署に問い合わせたりでき、当日の意見交換が非常にスムーズかつ有意義なものになりました。

改善・意見

- ・ 今回の研修の目的としては、被災者支援においては地域支え合いセンターを立ち上げて対応すべき、ということなのではないでしょうか。それとも、あくまで対応策の一例としての紹介に過ぎないのでしょうか。研修が終わった後、「結局どうすればいいのか」という疑問しか残りませんでした。
- ・ 最後の全体共有の部分のコメンテーターは1回の発表につき人数を減らしてもいいかなと思いました。例えば、JVOAD さんからは一人にする。一つの発表につき2名の方は話すなど。
- ・ 毎回ではなく順番でもいいので、希望する都府県のグループ演習（ブレイクルーム）に、ファシリテートをしてくださる方が入ってくださると理解や気づきにつながるので助かる。
- ・ 千葉県メンバー（行政担当3課）と県社協担当者、NPO2者でのワークは、リアルよりも Zoom 形式で行ったほうが、意見が明確になって良かったと思われました。また、これは、固有の問題かつ些末なこととですが、ワークシートの記入を誰がやるかが曖昧で、後半の他県との共有をどうするのかと、毎回思うのです。県3課に、もっとイニシアティブを持ってもらいたくて、あえて、強く申し上げないのですが。。。県域でのネットワークづくりを進めていくためにも、もっ

と強く、主張しなければならないかと思う第3回プログラムでした。反省の思いも込めての記入です。

運営面

研修時間への要望

- ・ 17時15分までが勤務時間のため、30分までの研修は難しい。緊急事態宣言が発出している状況下において、エリアで参集することができないので、各自がそれぞれオンラインで参加していることを想定しての運営が必要か。
- ・ 1箇所に集まることができず、オンライン上でワークを行った県も多いと思います。適宜休憩を設けていただいたが、4時間半にわたってオンライン上で作業・意見交換・全体共有をやり続けるのは大変だと感じました。ワークの時間やテーマ数の設定、発表方法などは考慮していただければと思います。
- ・ もう少し時間を短縮していただけたらと思いました。
- ・ ウェブ会議は、音が命です。音が聞こえにくいことがあったりした時の対応があるとどうしても時間が伸びてきます。会議のスケジュールは余裕を持ったほうが良いように思いました。災害で取り組んでいると、時間がついつい長くなってしまいう傾向はあるのですが、できるだけ時間内で納めることも大事かと思えます。
- ・ リモートの難しさでもありますが、ちょっと長く感じてしまいました。リアル開催であればそれほど長く感じないのかもしれませんが。
- ・ 何を学ぶかの焦点が分からず、話を聞いていてもよく分からなかった。研修時間が長いので、集中力が欠けてしまう。
- ・ 繰り返しになり恐縮ですが、研修終了時間が勤務時間外となっておりますので、時間厳守で進行されるようお願いいたします。
- ・ 全4回と多く、拘束時間も長いため、講演だけにしてください。
- ・ 全体的にもう少しコンパクトにならないでしょうか。4時間半は長いです。

一般的感想

良い研修だと感じる

- ・ 制度の骨子と具体事例と他の都道府県との情報共有ができることはとても研修のプログラムとしてよいと感じています。
- ・ この研修を機会に自分たちがどうつながっていくか、どんな課題があるかを考え、話し合えることができることと、似たような事例や境遇の他府県と意見交換ができることで、今後の取り組みのプラスにすることができると思いました。
- ・ 他の都道府県事例を知ることは、3者連携を進めるうえでも特に行政側は前例や実例などがあれば動きやすいと思うため、積極的に交流を図る機会としたいです。
- ・ 第1回・2回と比較して、少しテーマを絞った研修会だと感じましたが、その分、内容への理解やワークの時間が増え、参加者からも好評でした。
- ・ 地域支えあいセンターの熊本県での事例はよくわかった。
- ・ 特にありません。毎回運営が改善されてきていて、今回は運営面のストレスはほぼ感じませんでした。ありがとうございました。
- ・ 4回の講座ということで、先が長いなと思っていましたが、あっという間に3回が終わりました。毎回、事前や事後の丁寧な連絡をいただいてとても感謝しております。

難しさを感じる

- ・ 情報量が多く、有意義な研修である反面、NPO等とのネットワークづくりをこれから検討しようという本市の立場からすると、少々難易度が高い研修のように感じた。
- ・ 毎回、投げられる一石を、有事の備えとできるような県域での新たな動きにまで発展させることは難しいと感じる。

その他ご意見

- ・ 前は長野県の報告、今回は熊本県の報告と、災害支援を伝承していくことは良いと思います。この研修に参加されている中でも、経験のない都道府県はどうしてもイメージが湧きにくいようです。これを愛媛県内にあてはめてみると、4市は災害を経験し地域支え合いセンターも運営していますが、残りの17市町は同様に切迫感はないと思います。そのことも踏まえ、愛媛県で平時からの連携として、全県レベルでネットワークを構築し、準備していこうという段階です。まずは県レベルで連携できるようにし、次には各市町での連携を進めていきたいです。
- ・ 緊急事態宣言を受けて、複数の場所からのリモート参加となりました。集合せずに受講できるようにしていただいたのは助かりました。
- ・ 研修会参加者が全国からの参加になるので、オンラインでの実施はコロナ影響が落ち着いた後も続けていけると良いのではないかと感じました。
- ・ 研修の終わりに、各先生方からお話を伺うことにより、研修内容の課題や取組を振り返り、情報共有が図れたのはとても有意義でした。
- ・ 研修会終了後に、どのように今回の研修が活用できるのか検討しなければならない。
- ・ 第3回までの研修を受講して、JVOADが身近に感じるようになりました。

以上

5-1. 令和2年度 官民の多様な被災者支援主体間の連携促進のための 中核（コーディネート）人材育成研修会 第4回プログラム

(1) 概要

- ・日時：令和3年2月15日（月）13：00～17：30
- ・オンライン（Zoom）
- ・主催：内閣府（防災）

1. 開会（13：00～13：15）

- ・開会挨拶 内閣府
- ・第4回オリエンテーション

2. 話題提供：多様な被災者支援主体、それぞれの強みと特徴（13：15～14：30）

話題提供者

- ・長澤恵美子氏（一般社団法人日本経済団体連合会 SDGs 本部統括主幹）
- ・前田昌宏氏（日本生活協同組合連合会 組織推進本部
社会・地域活動推進部サステナビリティ推進グループ 地域・コミュニティ担当）
- ・津久井進氏（日本弁護士連合会 災害復興委員会）

聞き手

- ・栗田暢之氏（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）代表理事）

休憩（14：30～14：45）

3. 意見交換：官民連携・体制のさらなる強化（14：45～17：00）

進行：日本ファシリテーション協会災害復興委員会

※途中休憩を含む

4. クロージング（17：20～17：25）

進行：日本ファシリテーション協会災害復興委員会

5. クロージング（17：25～17：30）

- ・閉会挨拶 内閣府

5-2. 有識者等コメント

(1) 講評

JVOAD 代表理事 栗田氏

- ・ この四日間の取組みについて、賛否両論あるかと思います。忌憚のない意見をお願いします。
- ・ 研修会に企画段階からかかわってきた。今回のような連携促進をしていくような、研修のワークショップや、研修企画を開発していくことが大事だと感じた。ザクっとした内容ではなく、促進していくキットが必要だと感じた。
- ・ 特別な人がつくっていくことではない。各都道府県の進捗は異なる。是非今後も一緒に考えていただければ。
- ・ 「皆で連携」は心地よい言葉。誰かが骨を折る役割を担っていかないと進んでいかないのは事実。
- ・ 過去の災害でも、災害のたびに思い出すのは、あそこの県の方がうまくいったんだな、ということがよくある。
- ・ JVOAD も、支援者向けにコーディネーションをまとめていくような作業をしていくつもり。この4日間の研修は、行政側に覚悟してもらおう、ということが必要になると思う。
- ・ こうした取り組みを進めながらご支援、ご協力をいただければと思います。

以上

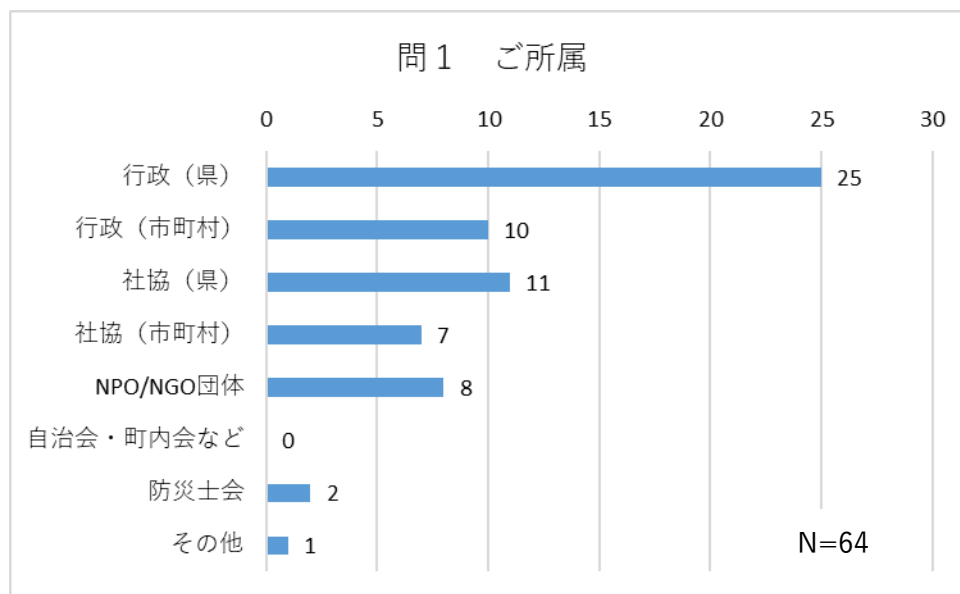
5-3. 第4回アンケート結果

(1) 概要

開催日 : 令和3年2月15日(月) 13時~17時30分
開催方法 : オンライン (Zoom)
対象者数 : 190件 (参加対象者数 218件)
回答数 : 64件 (回収率 33.6%)

(2) 結果

問1 ご自身のご所属についてお聞かせください。

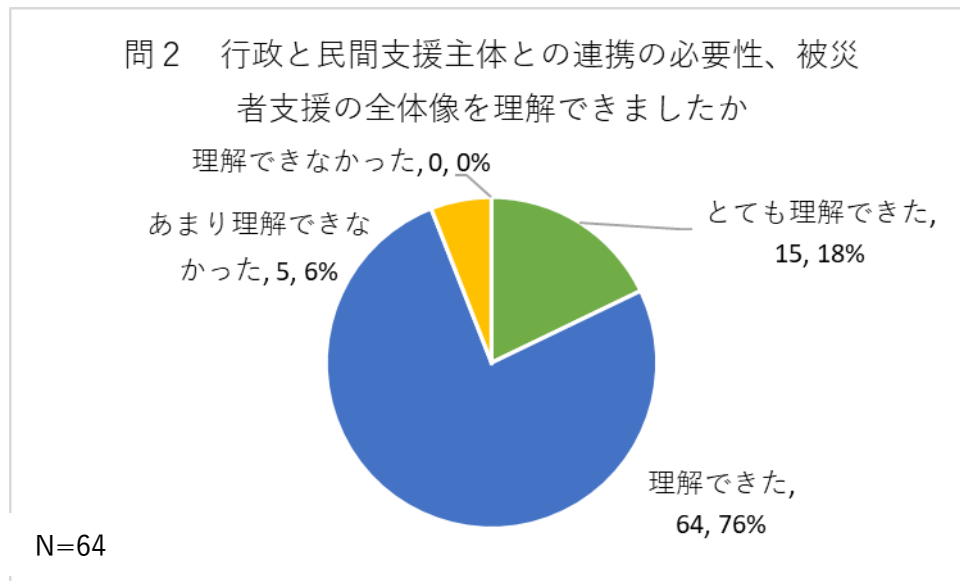


所属	件数
行政(県)	25
行政(市町村)	10
社協(県)	11
社協(市町村)	7
NPO/NGO団体	8
自治会・町内会など	0
防災士会	2
その他	1

その他

- ・埼玉県災害ボランティア支援団体ネットワーク「彩の国会議」

問2 事前動画「災害時の多様な主体連携の事例」を理解できましたか。



内容	件数	%
とても理解できた	15	18
理解できた	64	76
あまり理解できなかった	5	6
理解できなかった	0	0

理由

●とても理解できた

- ・ ふたつの事例とも、とても参考になりました。特に、静岡県で実施している課題検討解決型のワークショップ型の図上訓練はとても良い取組だと思います。ファシリテーターや関係者の尽力とスキルの高さがなくと実施出来ないと感じます。参加者の主体性が成果となる訓練、とても参考になりました。
- ・ 静岡式のワークショップ型図上訓練を参考にして、本県でも、外部の方の力を借りて図上訓練を実現したい。岡山県の巨大な常設ネットワークには驚いた。情報共有会議で、場所ごとに情報を整理する手法も参考にしたい。
- ・ それぞれの先進的な取り組みがよく分かった。特に、岡山県の場合は、明城さんの質問があったのでさらにわかりやすかった。
- ・ 岡山の石原さんのお話がとても分かりやすくて良かった。
- ・ 岡山県の取り組みとして、平時より協働で取り組んでいることがよくわかりました。
- ・ 災害支援ネットワークおかやまの取り組みの説明は、とてもわかりやすかった。具体的なネットワークの事例としてもっと掘り下げていただきたいかった。
- ・ 具体的なつながりがわかり、参考になった。
- ・ 資料に書かれている内容を、丁寧に説明していただいた。対談形式にいただいたが、明城さんが、ちょうど質問したいと思っていたことを、そのまま尋ねていただいたので、とても良く理解できた。両事例ともに本県で参考にしたいと考えていたところだったため取り上げていただき有り難かった。

●理解できた

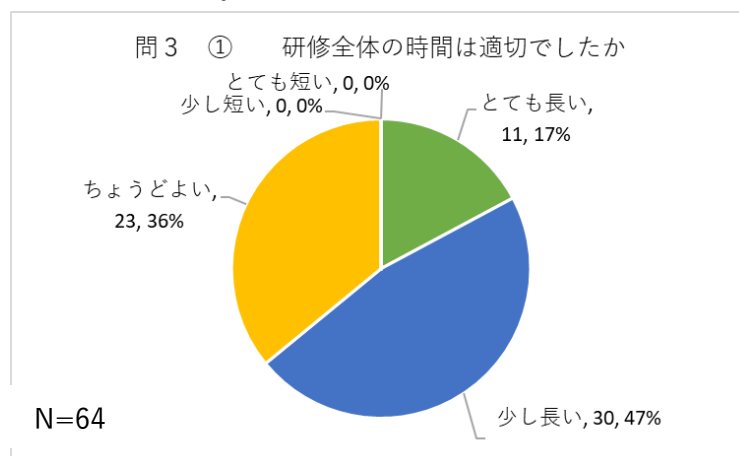
- ・ 4 回目の為、内容に対しての理解力が増した。
- ・ NPO の方が主体となって様々な機関を巻き込んで連携しており、官民連携の模範であると感じました。
- ・ 1 つの動画時間が 20 分程度で長すぎず、資料も見やすく、内容も簡潔でわかりやすかった。
- ・ その成り立ちやどのような構成になっているかなど、図なども加えて説明があり、分かりやすかった。
- ・ とても分かりやすく、当協議会においても取り入れたい内容が多かったため。
- ・ わたし自身はどちらも知っている事例でしたが、改めてそれらの事例がどのような積み上げの上で実施できたのか感じ取ることができた。
- ・ ネットワークの仕組みや訓練を継続してきた成果など良く理解できました。
- ・ 概ね話されている内容が分かったため。なお、当日の研修会でさらに理解がさらに深まりました。
- ・ 多様な主体が連携して平時から取り組まれている事例について、具体的に知ることができたため。
- ・ 平時からの取組について、先進自治体の事例は非常に勉強になったが、本府で実施するには、まずは縦割りの解消が必要であり、組織的な意識改革を要すると思う。
- ・ 立ち上げの経緯から、現在に至るまでの流れを詳しくお話いただけただため。
- ・ 図上訓練について、これまで詳細をお聞きする機会がなかったので、良い機会になりました。活動・事業の積み重ねがよくわかりました。
- ・ 図上訓練については本県でも小規模ながら実施を検討しており、参考になった。
- ・ 図上訓練や連携体制など以前から気になっていた内容を聞くことができた
- ・ 静岡県さんの資料は過去から遡って資料をお作りいただいていたので、行政の人間にとって知りたいところを勉強できました。
- ・ 静岡県の受援を意識した訓練の取組みと、おかやまの部会としたネットワークづくりが参考になり理解できた。
- ・ 以前から静岡県でのディグ・ハグや市民トリアージが普及されていることから、それらに参加していました。それ故、理解が進みました。
- ・ 災害支援ネットワークおかやまの取組みは、先日別の研修でもうかがっていましたが、明城さんとのやり取りの中で、分かりやすく説明いただいたので、とても参考になりました。静岡県さんの図上訓練は、具体的な訓練内容をもっと知りたかったです。少しイメージが湧きにくかったので、、、
- ・ 災害支援ネットワークおかやまでは、各場面で事前調査を実施すると伺ったが、ノウハウが必要と感じる。
- ・ 各組織を各部会に割り当てており、自分の地域にでも活用できると思ったため。

●その他

- ・ 事前に視聴時間をとることが出来ませんでした。研修後となりますが、視聴したいと思います。
- ・ 業務の都合上、視聴することができませんでした。申し訳ございません。
- ・ 時間がなかったため閲覧できていません。

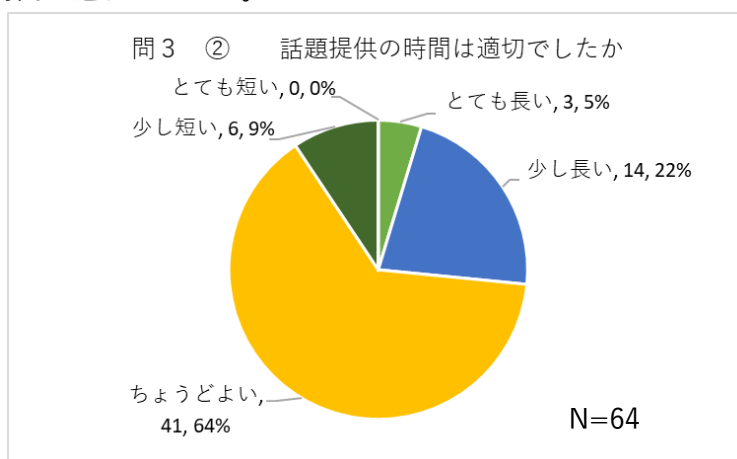
問3 研修会の運営についてお聞かせください。

④ 研修全体の時間は適切でしたか。



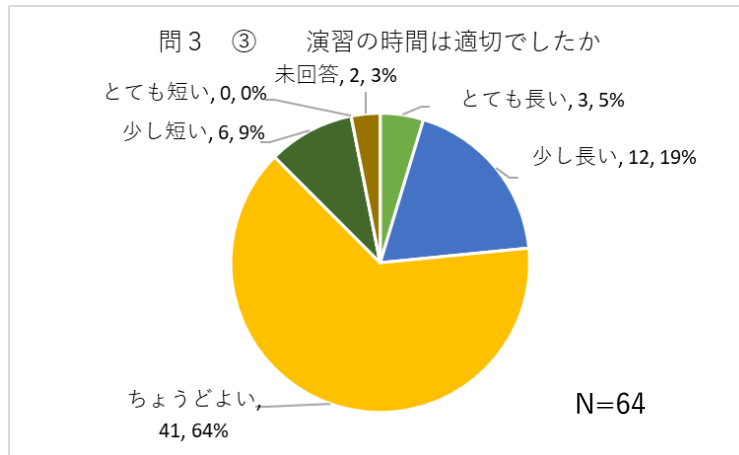
内容	件数	%
とても長い	11	17
少し長い	30	47
ちょうどよい	23	36
少し短い	0	0
とても短い	0	0

⑤ 話題提供の時間は適切でしたか。



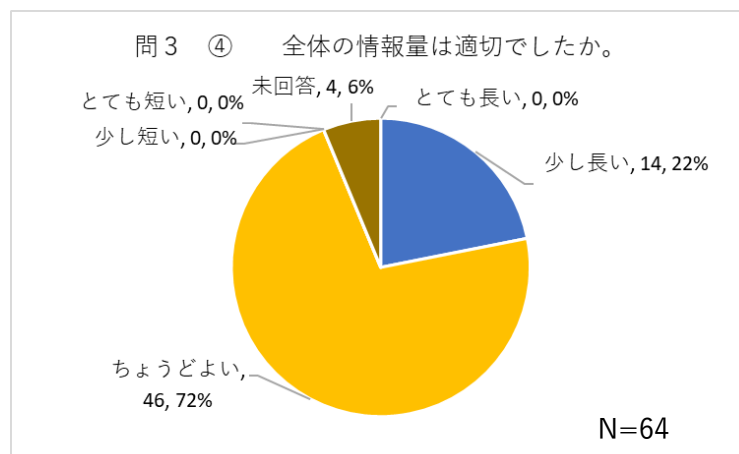
内容	件数	%
とても長い	3	5
少し長い	14	22
ちょうどよい	41	64
少し短い	6	9
とても短い	0	0

⑦ 演習の時間は適切でしたか。



内容	件数	%
とても長い	3	5
少し長い	12	19
ちょうどよい	41	64
少し短い	6	9
とても短い	0	0
未回答	2	3

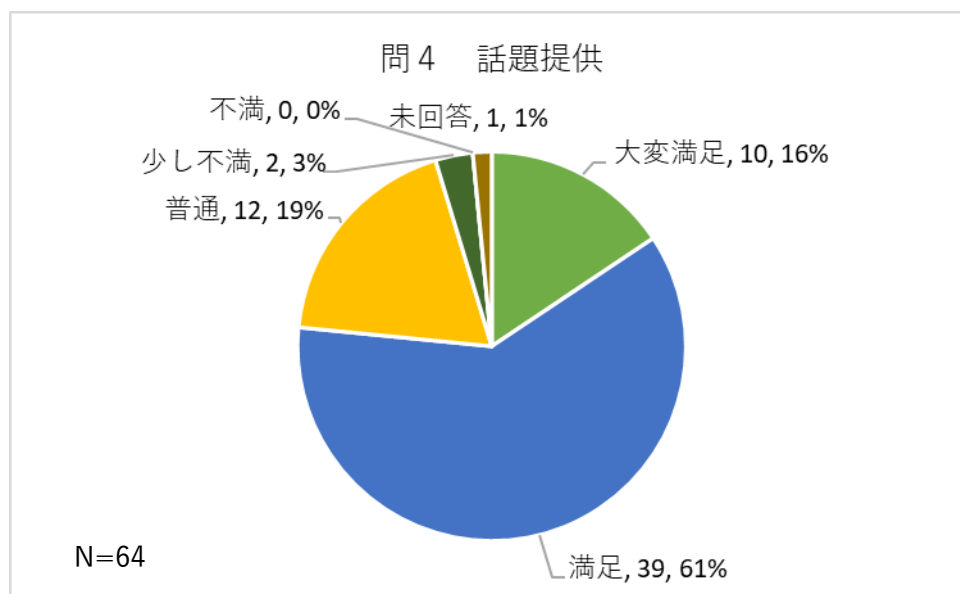
⑧ 全体の情報量は適切でしたか。



内容	件数	%
とても長い	0	0
少し長い	14	22
ちょうどよい	46	72
少し短い	0	0
とても短い	0	0
未回答	4	6

問4 研修それぞれの内容を5段階で評価し、その理由もお聞かせください。

話題提供：



内容	件数	%
大変満足	10	16
満足	39	61
普通	12	19
少し不満	2	3
不満	0	0
未回答	1	1

理由

●大変満足

- ・ 3団体の特徴が理解できた。
- ・ 弁護士会、生協、経団連（企業）とそれぞれの取組を紹介いただき参考になった。また、その取組も素晴らしく、いざという時のことを考えると大変頼もしく感じた。
- ・ 本県でも、県弁護士会、県生協連に声掛けし、勉強会等を開催し始めたところだったので、そのバックボーンとしての全国域での組織の考えを聴けたのは、今後の県域での連携を深めていく上でとても参考になった。
- ・ 日弁連の取組みについて知ることができた。地元の弁護士会とも連携していこうと思う。
- ・ これまで直接的には関わり合いの無い団体であったが、今後は互いに協力できる関係団体という認識に改めることができた。
- ・ 県内経済団体とはまだつながりをつくられていないので、今回の研修を基に声掛けの仕方を検討していきたいと考えている。
- ・ 情報量豊富に進めていただいた。
- ・ 各分野からの話題提供の内容が非常に有意義で参考になった。それぞれが15分という限られた時間の中で詰め込んだ印象はある分、もっと詳しく聞きたかった。
- ・ 災害支援の全体像が、時間の流れにそって理解できた。

●満足

3 団体の特徴を理解できた

- ・ 各地域によって、強みと特徴が違うことが分かったため。
- ・ 理解が深まったため
- ・ これまで(組織として) 連携していなかった弁護士会や生協との協働の重要性はとても参考になりました。企業との連携は、中小企業が多い地方において、どのように理解を進めてもらうか (SDGs等の理解が進んでいるところばかりではないので、、、)、どこにまず話を持って行くかが大きな課題だと思いました。
- ・ 各団体が取り組む事例を知ることで、今後の業務に参考になると感じたため。
- ・ 各団体等の取り組みについて知ることができ、たいへん勉強になった。
- ・ 災害時の弁護士活動や生協による被災者支援活動のほか、企業による被災地支援の状況と協働を知ることが出来たから。
- ・ 全国規模のお話ではありましたが、県域にある下部組織に働きかける時にきっかけとして重要なツールになると思います。取組を知ることができたので、具体的な検討に活かせると思います。
- ・ 多様な機関からの視点でお話いただき、大変勉強になりました。企業との連携も協定に定めている項目だけではなく、できる範囲でできることを実施するために、平時から連携することが大切だと感じました。
- ・ 日本弁護士会や経団連の関わり方がわかり参考になった。
- ・ 日本弁護士連合会や経団連、co・opの想いや活動内容が幅広く聞けて、地元でも同様の団体に声掛けを行い協働できる可能性を十分に感じる事ができたため。
- ・ 弁護士、企業、生協と異なる分野からの支援のあり方を聞くことができ、実際に災害が起こった時に、どのようなニーズであればどの分野のこういった支援や協力を得ることができるかについて大変参考になりました。
- ・ 弁護士会などの関係機関が、災害時においてどのような活動や協力をいただけるのかを具体的に学ぶことができたため。
- ・ 弁護士会や企業側がどのような取り組みをしているのか理解できました。行政側からすると、どうしても外部からの新しい提案等に対して構えてしまうところがあるため、こうした官民協働の研修は非常に重要なことだと思います。
- ・ 様々な機関の取り組みを知ることができてよかった。
- ・ 各団体とは市域での接点は少ないが、国・県域での連携状況について知ることができたため。

よく理解できた

- ・ まさに三重県において連携していきたいと思える主体についての話題提供であったため、興味深かった。最終的には、その中の人の気持ち次第と思う部分もあった。地域単位の組織の中に、災害に対して熱意のある人がいるかどうかにかかってくるのではないかと思う。
- ・ それぞれの立場から強みを活かした活動を知ることができた。
- ・ それぞれに大変興味深い内容をコンパクトに伝えていただいたが、参加者からの質疑を受け付けて貰える時間があれば良かった。
- ・ 強みと特徴は、大変よくわかりましたが、埼玉県でどのように展開していくのが課題

- ・ 実際に災害が発生した際に、市や社協でどこまで各団体と連携が図れるのかについては具体的な考えには至らなかったです。

弁護士の活動について理解が深まった

- ・ 津久井進先生の話しを聞いて良かった。津久井進先生の著書である「災害ケースマネジメントガイドブック」はとても分かりやすく書かれており、読んでとても参考になったので、話しを一度お聞きしてみたかった。
- ・ 弁護士の方から被災時の経済的な部分の現実をお話しして下さったのがよかった。
- ・ 普段連携がとりづらい弁護士の視点での話が聞いて大変参考になった。
- ・ 各団体の取り組みが非常にわかりやすかった。弁護士会については、具体的な連携した事例がもっとあればわかりやすかった。また情報共有会議と災害ケースマネジメントの関係性の説明があればよかった。
- ・ 災害時の弁護士の役割については、改めて大事なことだとわかった。
- ・ 住民説明の際に、弁護士会の方に入ってもらう（住民からの相談・苦情を受け付ける）というのは、なるほどなと思いました。

企業との協力関係について

- ・ 復興期における被災者支援の担い手の選択肢として、参考になる話だった。ただ、一般企業における社会貢献活動については、行政として実施を押しつけることはできないので、現状の企業との協定を基本に、貢献活動の申出があった場合に個別に対応していく、という受け身の体勢しか取れないのではないかと感じた。

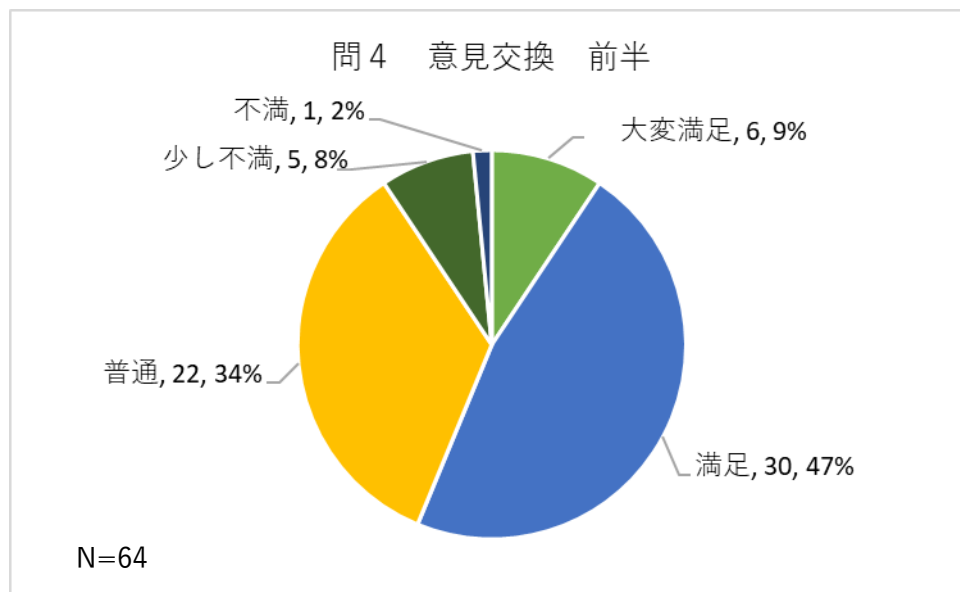
●普通

- ・ すみません、こちら側の Wi-Fi 環境の問題で、声が聞きとりづらかったので、評価が難しい、という意味で「普通」とさせていただきます。
- ・ 社協や NPO 以外にも多様な支援主体が活動されていることを改めて学べた。発災時にこれらの支援主体が生き活動ができるようには、先頭に立って指揮できる機関が必要になると感じた。
- ・ 多様な支援団体（今回は日弁連、日生協、経団連）から話を聞き、皆で話し合い考えるしくみづくりが必要と感じた。
- ・ 内容は参考になったが、資料の説明がほとんどであった点は残念。

●すこし不満

- ・ 全般的に理想論の話が多く、具体につながる話がなかった。特に企業支援で「ビジネスの話はややこしいので今回はしない」との発言があったが、ビジネスの話につなげられないから協力を得られず困っているのに……。経団連から企業に対し、災害対応はビジネスの話はせず奉仕の精神で対応しましょう、と通知いただけるのでしょうか。

意見交換 前半：



内容	件数	%
大変満足	6	9
満足	30	47
普通	22	34
少し不満	5	8
不満	1	2

理由

●大変満足

- ・ いつもより意見交換の時間が長く、内容の共有から課題の抽出まで時間に追われることもなくしっかりできた印象があった。ファシリテーションも見事で、幅広い意見を引き出し、その後の深堀を実りあるものにしてくれた。
- ・ どの組織・部署がイニシアティブを取るのか、など今後課題となる意見が伺えました。
- ・ 他の都道府県の取り組み状況等の情報を共有することができたため。
- ・ 同じブレイクアウトルームの自治体から「聞きたいポイント」について、直接、具体的にお聞きすることができたこと、ファシリテーターの方の進め方がうまく、ポイントを深めておさえることができた。

●満足

色々な意見を聞くことができた

- ・ あらかじめシートを作成されていたため、時間が有効に使えたが、5 都県になると人数が多く、なかなか意見が出づらい雰囲気があった。一方で、3 県程度でのグループの時よりも、様々な事情を聞くこともできたため、得るものも多かった。
- ・ 各県とも、平時から関係団体との顔も見える関係づくりが大切なことは共通していた。また、事前に想定される問題について話し合う機会をつくることの大切さを感じていることを改めて確認できた。
- ・ 各団体における課題などを知ることが出来たから。
- ・ 各都市が直面している課題について、情報共有を図ることで、各都市の現状を生の声で知ることができたため。
- ・ 県、県社協、NPO がそれぞれどのような認識でいるかが共有できたので、とてもよかった。
- ・ 他県との意見調整ができたことがよかった。
- ・ 他県の情報をもとに、同じような課題のあることが分かった。
- ・ 他県の状況の意見交換ができたため
- ・ 他県の方々との意見交換が良かったです。行政の方々が大半でしたね。連絡を密に協力したいです。
- ・ 他府県の状況がわかり、今後の参考になった。
- ・ 地域はちがっても、抱えている問題は重複していることが多いことが分かったため。
- ・ 都府県レベルの課題の議論が中心であったが、市町村における対応の参考になる意見も多く聞くことができ、参考になった。
- ・ 連携体制に関わる行政（都府県）の担当の役割、庁内の連携については、グループ内によく検討され整理が進んでいる県もあり、お話を聞くことが出来て、参考にさせていただきたいと思います。

ファシリテーターの配置が良かった

- ・ グループごとにファシリテーターをつけていただいたので、どこの自治体も均等に話せたのではないかと考えている。
- ・ ファシリテーションの方が上手で勉強になりました。
- ・ 事前シートにより話ができたこと。また進行役がいてくれたことで有意義な協議ができた。
- ・ ファシリテーションと情報提供が良かった

気づきがあった

- ・ 行政⇔社協・NPO の意識の違いを大きく感じた。行政は担当者がやるべきだと感じていても、新たなことをしようとする動きづらい環境にあり、その空気感が今回の意見交換においてもあったと思う。一方で、社協や NPO では新たなことに前向きに取り組んでおられ、学ぶべきところが多かった。「官民連携」というと行政が主体で、という意識があったが、NPO が主体的に取り組んでおられる自治体もあり、驚いた。

企画設定について

- ・ 現在、一番課題としている部分だったので、着地の選択肢イメージができた。
- ・ 現状・課題ともレベル感に差があった。
- ・ 今までの研修よりワークショップ（考える）時間が長く良かった。徳島県は、他県よりも取り組みが進んでいないため、今後の取り組みを県単位で話し合う時間がもっとあればよかった。
- ・ 他県と意見交換できる場合は貴重なので、大変参考になった。ただ、各県の発表の時間はシートの共有のみで良かったのではないか。シートを確認して、気になる点を質疑応答していく形であれば、もう少し時間を有意義に使えたのではないかと感じた。
- ・ 他府県の取り組みは大変参考になりましたが、被災経験の少ない府県しかいなかったもので、被災経験県の取り組みも聞きたかったです。

事前課題について

- ・ ワークシートを提出する際に、あくまで事前作業ということだったため、どこの自治体もメールのやりとり程度でしか作成作業ができなかったものと考えられる。（空欄の自治体が多かった。） 本県もそうだったが、当日話し合う時間があるとのことで安心していった。しかし、すぐに他県とのやりとりとなってしまったため、本県だけで意識合わせすることができなかった。いずれの自治体も10人程度の参加者がおり、コロナで集合することもできなかったことを考えると、まずは、それぞれの県ですり合わせる時間がほしかった。（次回は再検討していただきたい。）

●普通

- ・ 司会進行に事務局が入っていただいたのは良かったと思います。
- ・ 他県の状況を聴けたのは良かった。また、ファシリテーターの方の進行が、絶妙でした！（タイミングや表情や、声色も、、、）
- ・ 当グループは5府県の参加で、それぞれの動きについて知ることができたため。今回、ファシリテーターのかたを各グループに付けていただけたことは、スムーズな進行につながり良かったと思います。
- ・ 他県の状況を聞くことができた。
- ・ 発表を聴いているうちに、県の連絡会議として目指すところが、県によって異なることがわかった。本県を含め広域自治体として、実動する市町村や市町村社協等の支援を目指す県と、実動する NPO 等を中心に支援を目指す県に分かれた。
- ・ テーマを2つに絞るにあたり、能動的に意見を出す参加者が少なく司会が苦慮されていた。参加者の責任でもあるが、災害経験が少ない地域からだとして、残念ながら能動的な意見が出にくかったように思う。もっと、司会がリーダーシップを取る方法に切り替えても良かったかもしれない。
- ・ 課題だけが残った感じ
- ・ 各自治体が抱える課題を個別に把握することができ、参考になった。進め方として、時間の制約があるので、積極的な発言がない場合は発言者を指名するなどの対応をされた方がよかったと思う。
- ・ 今回は主にボランティアセンターについての話題だったため、事前シート等は担当課に一任しました。災害関係の業務は他課にまたがっているため、県庁内での連携も改めて必要だと感じたところです。
- ・ 事前シートの共有の時間が少ないので、他の4都県の取組と課題を十分に理解することができませんでした。
- ・ 共有する内容としては、各県で程度の差はあれ目新しい内容ではなかったため。

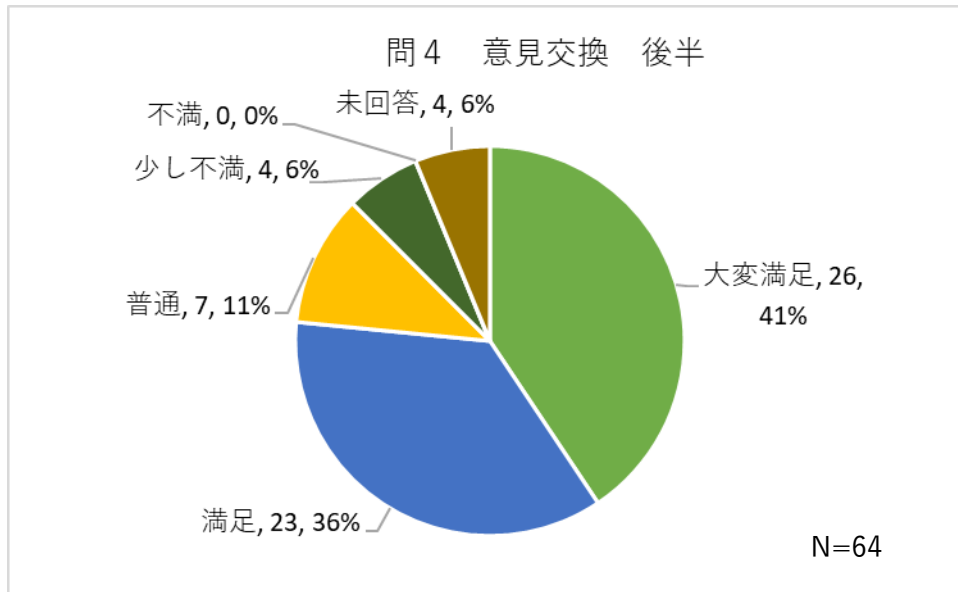
●少し不満

- ・ 全国各県の状況を把握できた。
- ・ ファシリテーターの方に入っていただいたのはありがたかったのですが、端末が多く、共有するにはもう少し少人数でないともずかしいと思った。
- ・ 事前シートについては、時間の関係上、県内の参加者で十分に協議することができていなかった。グループで事前シートの共有をする前に、各都道府県に共有する時間があると良かったと思います。
- ・ 他の業務に忙殺され事前シートについて、県内で共有できなかった。（運営側への不満ではありません）

●不満

- ・ アイスブレイク的な時間がないままにワークショップに入るため、それぞれがどのように意見を出せば良いのか探り合う時間があり、時間を有効に使えなかった気がします。

意見交換 後半



内容	件数	%
大変満足	26	41
満足	23	36
普通	7	11
少し不満	4	6
不満	0	0
未回答	4	6

理由

●大変満足

- ・ 他の都道府県の取り組み状況等の情報を共有することができたため。
- ・ 経験豊富な熊本や広島の事例を参考にしながら、今後大阪府内で探り得る工夫とヒントをいろいろ得られたと感じる。
- ・ 規模の大きな市については、学校区域単位で連携の仕組み、枠組みを構築するといった意見には、当県参加者もうなずいている方も多く、参考となる意見が伺えました。

●満足

他県との意見交換ができたこと

- ・ 各都道府県同じような課題を抱えている中、互いに意見交換ができ、社協やNPO法人からの意見は非常に参考になった。
- ・ 他県との意見調整ができたことがよかった。(4件)
- ・ 他県の情報も聞きながら県内の課題を深掘りすることができた
- ・ 課題解決に向けて参考となる事例や、意見がでて、参考になった。
- ・ 実践に基づく様々なアイデアを聞くことができた。
- ・ 他府県の状況がわかり、今後の参考になった。
- ・ 参考にはなったが、現状・課題ともレベル感に差があった。

気づきがあった

- ・ 福井県さんの方では、過去の災害の経験から災害ボランティアのための基金をつくったり、市町村としてのネットワークを別途つくってもらうことで、県から市町村へ支援がしやすくなるというお話があり、県のネットワークと市町村のネットワークそれぞれが大切な役割を担っていて、それらが連携することが重要であるということがよく理解できました。
- ・ ネットワーク構成が多少異なるが課題は共通したものがあり、参考になった。
- ・ 各団体における課題等を共有することが出来たのはよかったです。また各都道府県によって、いろいろと方策は異なるが、活動しているところが見えたのはよかった。
- ・ 自分の地域で取り組めていないことが、他の地域では取り組めていることが分かったため。
- ・ 各グループによって考えた課題が異なっており、興味深かった。組織の違いや被災経験等、各自治体によって異なるところも多いと思うが、こうした話し合いの機会を通じて、吸収すべきところが多かった。
- ・ 埼玉県など進んだ自治体の事例を知ることができたので良かった。今回の研修を契機に直接連絡をとり、詳しく情報提供してもらえたらと考えている。全体共有の時間で、すべてのグループの発表がされなかったのはとても残念だった。(次回は再検討していただきたい。) 講評のところでJVOADの栗田さんがおっしゃっておられた次の言葉は大変素晴らしく参考になった。「多様な主体との連携という嫌がるどころ(行政)もある。しかし、連携をしたことで助かったという事例を言えば伝わる。だから、事例の積み上げが大切。」おっしゃるとおりであり、災害対策本部所管課を中心に行政に理解してもらえないことが本県の課題となっていることから、今後は、この言葉を意識して働きかけをしていきたいと考えている。

改善・要望

- ・ グループ内共通での課題という訳ではなかったため、当県にとってはこれからの取組について役立つ考え方や情報が多く、有益だったが、課題となっていない都県にとっては、情報提供をする場となっていたように感じた。
- ・ 徳島県は、他県よりも取り組みが進んでいないため、今後の取り組みを県単位で話し合う時間がもっとあればよかった。
- ・ 全体共有は、どうしてもポイントのみ共有になってしまうので、内容はやや浅くなってしまいかと思う。

その他

- ・ ファシリテーターが入っていたため、質問に対する事例など同時に紹介して頂いたので参考になった。
- ・ やはり良い意見が出るのはNPOや中間支援組織の人たちです。かなり勉強になりました。共同募金会事務局長からもグループ内の意見を踏まえてアドバイスをいただけて大変良かったです。

●普通

- ・ 司会進行に事務局が入っていただいたのは良かったと思います。
- ・ 課題を深掘りするにあたり十分な知識がなく、議論を煮詰めていくことが困難と感じたため。
- ・ 改めて自分の県の考えや方針を聞くことができ参考になった。
- ・ 今回の形では、掘り下げて聞ききるとするのが難しかった。
- ・ 仕方ないですが、やはりリモートでの検討は難しい。
- ・ 助言者の方から「助言」や「好事例」をもう少し欲しかった。「助言」というよりも、参加者と一緒になって、情報を聴かれることが多く・・・しかも、テーマを深掘りではなく、幅を広げられてしまったので、内容がぼやけてしまった感がありました。
- ・ 全グループの課題、意見、取り組みを聞く時間が欲しかったです。
- ・ まだまだ上目線的なところがあるようです。全体的に。
- ・ 特にございません。

●少し不満

- ・ 課題の深掘りがテーマでしたが、県のかたにとっては組織の縦割りによる責任体制が不明確な点であったり、市社協にとっては県単位の間支援組織との連携が取りづらい点であったりと、参加者の属性によって課題が異なり、そもそもの議論がかみ合わないため。
- ・ 各県で誰が発言するのかを決めておくと良かったかと思えます。
- ・ 各県とも同じような課題を持っていることは認識できたが、その課題の深掘りにより解決策や今後の方針を見出すというところがあまりできなかった
- ・ 災害対応の経験値が少ない地域でグルーピングされていると伺った。そのためか、意見があまり出ず、進行役の方が苦慮していた。参加者の構成上困難だったかもしれないが、経験値が少ない地域のみ集まっても「分からない」「経験がない」「やっていけないといけないと分かっているが、課題」といった、建設的ではない議論で終わるので、収穫が少なかった。また、市町村からの参加者へのアプローチが進行でほぼなく、残念だった。
- ・ 他県の状況を理解することが難しい面があったが、大まかに他県の課題と取組を想像しながら、聴いていた。
- ・ 発言する人が決まっていなかったため、話し合いもまとまらず、進行の方も苦労されたことと思えます。

●不満

- ・ 選択肢は「不満」としましたが、ファシリテーターの方にはとても頑張っていただいて感謝しています。
- ・ 行政の出席者のみの発言が誘導された上に 体験少ない若手職員のため内容が無かった。栗田代表の行政への苦言好感。
- ・ 自分は市町側ですが、県さんには、もっと「市町との棲み分け」について考えてほしいな、と思っていました。今回そのことを他県の方がおっしゃられていたので、嬉しかったです。
- ・ 深掘りするならテーマは1つ目で意見が色々出てきていたら、無理にふたつ目に行かず、1つに絞っても良かったかな、と感じます。
- ・ できれば都道府県内での今後の検討の時間にさせていただきたかった。全4回の集大成として、わが県では今後どのように進めるべきかを議論し、共有し、明日への具体的な取り組みにつなげたかった。もちろん、研修の中で行わずとも独自にコアメンバーで今後のネットワーク形成に向けた情報共有会議を行うべきではあるが、どうしても主体によって熱量が異なるため、研修という場に参加した流れの中で行えれば、より今後につながるように感じた。

Q5 全体のプログラムを通じ、今後の研修プログラムや運営等についてご意見・ご感想等ございましたら、ご自由にお聞かせください。(自由記述)

良かった、有意義だった

参加できて有意義だった、良かった

- ・ 県域のネットワークの存在や役割、構成団体のことを市町村にはあまり周知されていない気がする。市域でのネットワーク等は構築されているが、県域のネットワークとどのように連携していけばいいのか…。今回初めてお会いする方(県内関係機関の方)もいて、顔見知りになれたことは大変有意義だった。
- ・ この度は全4回の研修会に参加させていただきましてありがとうございました。研修内容について、これまでの災害支援から知っていることや経験したものもありましたが、新たな情報や官民連携の動向を掴むことができました。それと、研修内容だけでなく、全国の関係者の皆さまとの学びあいや情報交流、各地における三者連携の担い手の関係構築や共通理解の形成などに繋がる機会として、とても有意義な機会だったと感じます。また、これからもこのような機会があれば幸いですし、今回得た成果や課題を次なる備えに繋げていきたいと思えます。今後もよろしくお願い致します。
- ・ 今回、行政と社協とNPOがつながることができたのでよかったです。
- ・ 第4回目では、ファシリテーターを各グループに配置して下さったことで、とてもスムーズな意見交換ができました。提案を取り入れて下さって、ありがとうございます。
- ・ 今回の研修で築かれた関係がさらに深まるよう、また継続されるよう、いち参加者として今後も頑張っていきたい。運営サイドからも何かしらのフォローアップをお願いします。今回のグループワークのように、進行役の方がいらっしゃると非常にスムーズにワークが進行し、意見も前回以前と比べると活発だったと思います。
- ・ 本会部署の役割分担の未整理の中の参加だったので、刺激になりました。
- ・ 合計4回の研修の運営、大変だったと思います。ありがとうございました。
- ・ 最新の災害復興の取組が学べたほか、オンライン研修のハード、ソフトの進め方についても学ぶことが多かったです。ありがとうございました。
- ・ 今回オンラインでの研修会ということで、機械的にも心情的にも不慣れな部分が多かったが、反対に普段であればなかなかお会いできない遠方の自治体のお話をお伺いでき、良い勉強の機会となった。非常にボリュームのある研修会だったが、高度なZoom操作によりスムーズに研修を進めていただけたこと、感謝申し上げます。

多様な主体連携について理解が深まった

- ・ 今回の研修を通じ、これまでは災害が起こったら市や社協、災害ボランティアによって対応しているイメージであったが、NPOをはじめ、多くの団体や企業によっても対応されていて、また、そういった団体などにある意味「頼る」こともしていいのだなと感じた。まさに「多様な被災者支援主体間の連携」でもって災害対応を行っていく、そうでなければ復旧・復興はできず、そのための連携促進の重要性がよく分かった。これまで大変お世話になりました。ありがとうございました。
- ・ 「三者連携」の他県の事例を具体的に直接、お聞きする場面を多くいただいたことで、一定のイメージづくりができた。特に、4回目は共有事例の内容が、当県の状況の先を示唆するような内容で、大きな学びになった。回を重ねるごとに、運営もスムーズで、学びも多くなったように感じる。
- ・ お疲れ様でした。研修4回とても参考になりました。ありがとうございました。平時より災害時を想定して、多様な主体との連携をしておくことで、ネットワークを活かして、被災者支援が可能になる。また、行政内・県庁内・県と市町村とも日頃からつながり、連携を進めていければと思います。災害時に県域のネットワークを活かせるように訓練等についても検討したいと思います。
- ・ 国の方針として、県域に各主体間の調整をできる人材養成が必要と考えていることがよく理解できた。一人のリーダーを作ることも必要だが、もっと様々な関連の部署から研修に参加するしかけをして、その学びを持ち帰ったそれぞれが少しずつのりしろを出して連携できるような形ができればとも感じました。
- ・ 4回の研修で、情報をたくさん頂きました。各県において、いかに連携していくかということが大きなテーマだったと思います。ちょうど愛媛県は平成30年7月から「えひめ豪雨災害支援情報共有会議」を開催してきましたが、今は、それを発展させて愛媛県域でのネットワーク会議に作り変えるという時期に差し掛かってします。先行し、継続されている岡山県や熊本県のように、愛媛版を構築したいです。

次年度も開催して欲しい

- ・ ぜひ次年度も参加したい。知識を付けたが、基礎自治体に向けて被災者支援主体間連携の研修ができるほどには至っていない。甚大な災害が発生していない地域は、連携の意識が希薄である。基礎自治体向けの研修プログラムがほしい。
- ・ 多様な被災者支援主体を結びつけるという研修の趣旨は素晴らしいと思います。今後、より実効性を高めるためには、都道府県単位で開催し、責任体制を明確にしたうえで広く呼びかけをして開催していくことが望ましいと考えます。
- ・ 各関係団体において、近年の災害を含めた活動を理解するには、とてもいい機会でした。有事に備えて、平素から顔の見える関係を構築する一つとして、今後も続けていただきたいと思います。
- ・ リモートで行う研修を受講したのが初めてだったため、端末の操作や運用面で慣れない点が多いこともあり、かなり時間が長いと感じた。受講内容としては、今後の多様な被災者支援の仕組みづくりを考えていくうえで、非常に興味深く、たいへん参考になった。初めての試みであったことから、様々な課題はあったと思うが、引き続き改善しながら、継続して行っていただきたいと思う。

オンライン研修会での開催が良かった

- ・ もう少し時間を短縮していただけたらと思いました。今年度はオンラインで実施とありましたが、来年度以降もオンラインでの実施を希望します。(今回参加率が高かったのはオンラインだったのが大きいです。)
- ・ オンラインでのワークショップをする際、集合して行なうならその集合した場所それぞれにファシリテーターが必要と感ずます。また、どうしても1アカウントを1個人的に扱って進行してしまうので、集合会場の参加者は参加意識に距離感を感じてしまうと思ひます。(例えば、行政職員、社協職員、NPO が集まった会場にたいして「〇〇県さんいかがですか?」と呼びかけられてもなかなか返事をしにくい。集合会場では、まず先に対応する担当を1人に決めてもらひ、その方を中心に他の意見も拾ってもらひとか席を譲って話してもらひ、などの工夫が必要と感ずます。)各県から複数参加しており、また、意見も個人として求められるワークショップを実施するなら、集合会場ではなく、全員自分の端末から参加する、と環境を揃えてもらった方が意見交換しやすいと感ずます。集合会場と個人参加アカウントが混在した状態ではワークショップとしてのバランスはとりにくいですね。(どうしても個人参加アカウントからの方が意見をいいやすい) 集合会場とするなら、その会場内でのワーク時間を確保し、それを発表しあう時間形でグループセッションを行う、という形の方が活かせると思ひます。(進行コントロールは更に難易度上がりますが…)以上、辛口に書きましたが、オンラインにして頂くことで地方の県からも多くのメンバーが参加することができたのはとても意義深いと思ひます。オンラインでのワークショップのノウハウを更に高めてコロナ後にもこの形も継続して頂くことを望みます"
- ・ オンラインで全国参加という初の試みだったので、運営事務局は大変だったかと思ひます。参加人数が多いことのメリットとしては、一度に大多数情報共有できる、意見が集まりやすい等がある一方、長時間で情報量が多すぎる為、デメリットとして掘り下げた議論ができない、他県参加者とのつながりは得づらい等あるかと思ひます。今後同じようなフォーマットで開催するのであれば、第4回の意見交換会の時間配分と同じくらい毎回時間があつたほうが良いと感ずます。事前資料が文字資料ではなく、動画だったところは非常に良かったと思ひます。
- ・ オンライン開催という難しさを乗り越え、大変充実した研修内容になったと思ひます。各県ごとになるべく1か所に集まっての研修形態は、それだけで平時からの連携を深める機会となり、有意義でした。オンライン研修で最も難しい意見交換も、第4回目はしっかり時間が確保されていて、ストレスなく受講できたと感ずます。

運営に課題を感じた

オンラインでの研修会開催について

- ・ 準備から運営等、大変お疲れ様でした。リモートでの研修にもかかわらず、スムーズに進行いただきありがとうございます。4回の研修のうち、業務の都合で2回しか受講できませんでしたが、官民連携の必要性は十分理解できました。特に今回の弁護士会や企業からの話題提供は、知らないことを少しでも知れる機会となり、今後の被災者支援を検討するにあたって勉強になりました。ただし、研修時間がとても長いです。特にリモートだからこそ長く感じるのかもしれませんが。事前の動画視聴についても、県のセキュリティ上、簡単に視聴することができず、かつ、他の業務のある中で視聴する時間がないのも現状です。今後、災害対策・対応においては、官民連携は必須であるとは考えますので、他県の事例等も参考にしながら取り組んでいければと思います。
- ・ 情報共有会議について概略を掴むことができ有意義でした。ZOOMは普段使用しているツールではないため操作に戸惑いました。推奨される画面表示方法や、パワーポイントを共有する方法について事前に説明があるとよいと思いました。
- ・ 内閣府へお願いします。ZOOMを行うための予算を付けていただきたいです。各都道府県へ。県は市町村や各種団体との連絡に使用するため。
- ・ 被災県からの実体験を通じての貴重なお話ばかりでよかったです。オンライン研修ということを経験すると全体的に情報量が多かったように感じました。

開催方法（回数、時間帯）

- ・ オンライン形式での実施で運営側も苦慮されたと思うが、遠隔地から移動の手間なく参加できるのはメリットと感じた。グループに分かれての討議が対面式より盛り上がらなかった印象。都道府県によって熟度に差があるため、その点配慮したグループ分けなどしてほしい。 (本県ではあまり議論が進んでいないため) 半日オンラインは結構きつい。4回という回数も多い。(県、県社協で参加しましたが、一様につかれた、との感想) 県庁の縦割りの解消、都道府県圏域→市町村圏域へ下ろす知恵が、もう少しいただきたい。
- ・ リモートでは集中しづらいので、全体の時間はもう少し短い方がよいと思います(長くても3時間程度)。
- ・ 「人材の育成」となったかはわからないが、県域組織として今後の取組に役立つ情報や、知らなかったものの重要な情報を提供いただいたので、今後に生かせる研修だった。開催方法については、悩ましいところだが、間が空きつつの開催だったため、参加者の確認、日程に合う会場の確保等がその都度必要になり、ある程度まとまった開催よりも事務量は増えた。意見交換については、集合型よりも関係性が築きにくい点はオンラインにつきもので、初対面の方と気軽に相談し合える関係になるのは難しいと感じた。
- ・ 少し盛り込み過ぎで、消化不良の感があるのが残念。(こちら側の問題ですが・・・) まだまだ手付かずのことばかりなので、学んだことが活かせるよう、行政や社協との連携体制を強化し、災害対応に向けたNPOのつながりを深めたい。どうもありがとうございました。

参加者の調整

- ・ 4回にわたり研修会が開催された中で、それぞれ中心となるテーマが違っており、そのテーマを所管し知識を持つ担当課が参加できなかつたり、参加したがあまり関係が無いため内容の理解が進まないといったことがあったように感じられた。

その他

- ・ 行政内の連携を強化する必要があると感じた。行政内の連携強化等の取り組み事例等、防災担当部局を中心に研修を行ってほしい。
- ・ ワークの内容によっては三者連携体制の成熟度に応じてグルーピングした方が課題の共有が容易なのではないでしょうか（混在した場合には先進事例に触れることができるというメリットもあるのですが）。
- ・ 被災の経験の有無や業務の担当年数等により、理解の度合いが異なると思います。今後の提案となりますが、初任者向けの研修を実施することで行政職員の理解を一定程度深めたうえで、今回のような研修を実施すると、より効果的ではないかと思います。事前ワーク（動画の視聴等）は、負担感が大きかったです。4回にわたってお世話になりました。

改善・提案

- ・ Q2で「少し長い」と書かせていただいたが、実際には中身ではなく休憩時間の少なさによる。半日の研修は目に負担が相当かかる。よくある ZOOM の研修の仕方の研修では、「1時間に1回は休憩を」とされている。カリキュラム上難しかったのかも知れないが、配慮いただきたいかった。市及び市社協からの参加者が、多少置いてけぼりになるような状況もあった。第1回の研修の際に、ある（市町村）社協職員から「私たちは対象ではなかったのかな？」と言われてしまった。そのような感想を持たせてしまったことが残念。本県の行政担当者の問題もあると思うが、市及び市社協からの参加に対して、戦略的な参加を促してほしかった。例えば、行政職員と社協職員が同じ行政区域からセットで参加するのが望ましいなど。別々の所が参加しても、その後の議論も難しい。具体的には、○行政と▽市社協とでは、議論が深めにくかったように思う。
- ・ 自分が災害処理の業務をしたことがないため、どんなことで困り、どんな支援をだれがしてくれるのかがイメージがつかみにくかった。来年度も同レベルの研修をされるのなら、事前学習資料などがあるとありがたいです。
- ・ 行政・NPO・社協(ボランティア)の三者でこれだけ長時間にわたって、一緒に研修に参加するということは無かったので、お互いを知るいい機会にもなりました。まずは、目標合わせ、そして、そこに向かう手段等の想いを合わせていくことが、この研修を通じて、少し前に進んだのではないかと思います。これだけの研修を運営されるのは大変だったと思います。本当にありがとうございました。ただ、一点だけ。しつこいようですが・・・17時までのプログラムにさせていただくと助かります(笑)
- ・ 岡山県の事例で、発災後様々な web システムを使用して情報共有等を図ったということだったので、そのあたりの紹介もあとありがたかった。
- ・ 連携で一番もめているお金の話がなかったのは残念です（全社協通知により、災害ボランティアセンター運営経費は全額自治体負担の協定を締結せよとの通知が社協に示されているため、費用負担

の話から先に進めません)。行政との連携で一番期待されるのは、財政的な支援かと思いますが、全体を通じて活動財源の部分にはあえて触れていないような印象を受けました。連携が必要であることに異論はありませんが、話し合っただけで連携してうまくやりましょう、だけでは現実的に実効性が乏しいかと。来年度の研修では、こうやって資金を調達しました、国（県）がここまでお金を出しました、誰も受けない仕事はこうやって引き受けてもらいました、など現場での生々しい話を期待しています。

- ・ 今回の研修会に市町村の災害ボランティア担当課として参加させていただいたが、研修の内容が実際に被災者支援に携わった方を中心に進められていた感じがした。そのため、内容について言葉だけではイメージできない部分が多々あった。この研修で学んだことをもう一度振り返り、有事の際に役立てるようにしたい。

その他ご意見

- ・ 埼玉県の場合ですが、県、県社協とも資料を課内で回覧するだけで取組にはつながっていないようです。研修を終えてからも実効性のある研修が良いと思いました。
- ・ 栗田代表の思い、行政が変わらなければ三者連携は達成できない。同感！
又中間組織の定義が歪められている、安易な団体の集合体もあり、災害時に対する考え方の積極性がうたがわれる。頭数が揃っていれば何時か何かの役に立つだろう！ではコア会議も情報共有会議も空しくなると思います。三者連携の在り方について、被災地現場に即したご指導を願います。
- ・ 本県では、内閣府で開催されている「災害ボランティア活動における多様な主体による連携・協働に関する検討会」やそこでの成果物（三者連携ハンドブック）を指針として連携体制の構築に向け取組を進めています。

また、全国の都道府県と内閣府で共催で開催している「三者連携推進研修会」についても、昨年度、本県で開催していただき本当に感謝しております。おかげさまで、その研修を契機に県域での災害支援中間支援組織が初めて誕生し、現在、県社協、県共同募金会とともに定期的な会合を重ねているところです。今後も、内閣府をはじめ、今回の研修を企画運営していただいたダイナックスさんやJVOADさん、全社協さん、FAJさんのほか、ゲストでお話しいただいた日本弁護士連合会さん、岡山NPOセンターさんなど多くの皆様とつながり、災害に備えていきたいと考えています。要望といたしましては、ぜひ、今後も、全国の都道府県グループを対象とした災害ボランティア等との連携促進を目的とした研修会を定期的に開催していただけたらと思います。その際は、今回よりもハードルを下げ、時間も短く講義中心とし、特に災害救助法所管課（災害対策本部所管課）に必ず参加していただく工夫をしていただけたら幸いです。（長野県のようなケースは稀で、今回の全国のグループの名簿を見ても「ボランティア・市民活動支援所管課」が多く、一番連携すべき災害対策本部所管課の参加は少なかったように感じます。）依然として、避難所や仮設、廃棄物、支援物資、ニーズ調査、住宅再建、生活再建等、「公助」の部分にボランティアによる「共助」が役に立つということがまだまだ本当に知られていません。三者連携という言葉は広まりましたが、災害対策本部から見たNPO・ボランティアのお荷物感は払しょくできていません。内閣府（防災担当）参事官から繰り返しお話しいただきましたように、組織内（県庁内）の壁を取り払う中核人材となり得るには、やはり、内閣府のお力が必要です。

多様な主体との連携や情報共有会議というワークはあえて抑えて、まずは、災害救助法の執行に役立った民間組織との連携事例の紹介を中心にZ o o m等を使って効率良く全国の災害対策本部所

管課に行き渡らせていただけたらと念願しております。(※「災害対応(避難所運営、マスコミ・議会・住民対応等の公助)で忙しいのに、NPOとの連携なんてしている余裕はない。」という行政が本当に多いです。ぜひ、まずは、その壁を破っていただきたいと内閣府に期待しております。)

上記、Q4で書いたとおりJVOADの栗田さんのおっしゃるとおりであり、<NPOは災害時に役に立つ>という事例を知ってもらうことが、見えない壁をブレイクスルーする連携への第一歩になると考えています。

- ・ 途中退席のため、アンケートは回答なしでお願いいたします。全4回の研修会をとおして様々な方々のお話を伺うことができ、大変参考になりました。ありがとうございました。

以上